TAISHO
UNIVERSITY

TAISHO UNIVERSITY

Curriculum Guide
2019

大正大学履修要項2019





学籍番号							
氏　　名							

大正大学

大正大学
履修要項2019

INDEX

履修要項2019

目次

■４年間の学びの流れ …… 2

■卒業 …… 4
卒業の要件／学位

■卒業論文・卒業研究 …… 5
卒業論文・卒業研究の流れ／卒業論文の体裁

■進級／留年／退学・除籍 …… 6

■転学部・転学科・転コース …… 7

■履修・単位 …… 8
履修登録／単位／制限単位

■授業 …… 10
学期区分／授業時間／休講・補講／遅刻・欠席／
公共交通機関の遅延／欠席事由証明／
緊急時における授業の取り扱い

■試験 …… 12
試験種類と実施時期／試験の流れ／試験日の変更／
試験の心得／不正行為／課題の提出

■成績 …… 14
ＧＰＡ（学業平均値）制度／ＧＰＡの算出方法／
成績評価基準／

■オフィスアワー …… 15

■留学・海外語学研修 …… 16

■第Ⅰ類科目 …… 17
学びの窓口（文化・社会・自然・地域）
学びの技法（基礎科目・展開科目）
第Ⅰ類科目学則別表

■第Ⅱ類科目［仏教学部］ …… 25
●仏教学科 …… 25 - 35

■第Ⅱ類科目［人間学部］ …… 37
●社会福祉学科 …… 38 - 42
●人間環境学科 …… 43 - 44
●教育人間学科 …… 46 - 50

■第Ⅱ類科目［心理社会学部］ …… 51
●人間科学科 …… 52 - 54
●臨床心理学科 …… 55 - 57

■第Ⅱ類科目［文学部］ …… 59
●人文学科 …… 60 - 64
●日本文学科 …… 65 - 67
●歴史学科 …… 68 - 74

■第Ⅱ類科目［表現学部］ …… 75
●表現文化学科 …… 76 - 82

■第Ⅱ類科目関連分野科目について …… 83

■第Ⅲ類科目 …… 85 - 92
第Ⅲ類科目の履修方法／
教職・諸資格に関する科目／資格の種類
社会・地域貢献に関する科目
キャリア育成支援に関する科目
自己研鑽に関する科目
チャレンジプログラムに関する科目
第Ⅲ類科目学則別表

■地域創生学部
●地域創生学科 …… 93 - 103

■資格登録 …… 104
資格登録および登録料

■証明書 …… 105
証明書の取扱窓口

■ＦＡＱ …… 106 - 108
■大正大学履修規程 …… 109 - 111
■大正大学試験規程 …… 112
■大正大学学則［抜粋］ …… 114

あとがきに代えて …… 115
建学のことばより　初代学長　澤柳政太郎

読むガイダンス

読むガイダンス

履修要項

「履修要項2019」は2019年度入学生を対象としたものです。
卒業するまで使用します。
大切に保管してください。

授　業

授業について

４年間の履修計画を立て卒業までに必要な科目（単位）を修得してください。
授業日程開講科目の変更、学則等規則の変更点については、「該当年度のガイダンス資料」を確認してください。

学期区分

学部によって２種類の学期区分があります。

■セメスター制
１年間の学修期間を２つの学期に区分し、４年間で８つのセメスターを段階的に積み上げて学修し、卒業する制度です。１年の前半（1,3,5,7セメスター）を「春学期」、後半（2,4,6,8セメスター）を「秋学期」と呼びます。
※ 2020年度からクォーター型授業展開に順次移行します。詳しくは別途案内します。

■クオーター制（地域創生学部のみ）
１年の学修期間を４つの学期に区分し、学修する制度です。

授業時間

1回の授業時間は、原則として90分となります。集中講義は別途お知らせします。

春学期・秋学期の授業時間帯	
１時限	９:１０～１０:４０
２時限	１０:５０～１２:２０
お昼休み	１２:２０～１３:１０
３時限	１３:１０～１４:４０
４時限	１４:５０～１６:２０
５時限	１６:３０～１８:００
６時限	１８:１５～１９:４５

※ 授業は、原則として１時限から５時限の間で開講します。
※ ６時限は教職・資格に関する科目、補講、その他の科目を開講することがあります。
※ 2020年度から１回の授業時間を100分に移行する予定です。詳しくは別途案内します。

休講・補講

授業の担当教員が公務、病気等のやむを得ない事情で授業が休講になることがあります。その場合は、補講を行ないます。

■休講の確認方法
・T-Poの「休講情報」に掲載されます。
・ただし、担当教員から教務課へ届け出がなかった場合は、掲載されません。
・急病等での場合は、授業直前の掲載になる場合があります。
※休講の掲示や連絡がなく、授業開始から30分を過ぎても担当教員が教室に来ない場合は、教務課へ申し出て指示を受けてください。

■補講の確認方法
・T-Poの「補講情報」に掲載されます。
※補講に出席することができない場合は、直接担当教員に相談してください。

遅刻・欠席

単位認定を受けるためには、**授業に毎回出席すること**が原則です。

■欠席・遅刻の場合
理由があり、授業を欠席・遅刻する（した）場合は、直接担当教員へご相談ください。教務部から教員へ連絡はいたしません。
取り扱いについては担当教員の判断に委ねられているので、指示に従ってください。

公共交通機関の遅延

公共交通機関の遅延により、授業へ遅刻、欠席してしまう場合は、使用した各交通機関の「遅延証明書」を受け取り、担当教員へ直接提出してください。教務部から教員への受け渡しはしておりません。取り扱いについては担当教員の判断に委ねられているので、指示に従ってください。

欠席事由証明

欠席回数が成績評価に関係する場合があることから、大学がその事由を証明することがあります。ただし、取り扱いについては担当教員の判断に委ねられているので、指示に従ってください。

下記事態に伴う休講情報は、大学ホームページでお知らせします。ご確認ください。

内　　容	担当部署
各種資格課程の学外学習および実習等	教務課
担当教員が引率・指導する大学公認の学外学習、調査、見学、実技および研修旅行	
忌引き等（大学で定めた日数）	学生課
大学が認めた課外活動	
骨髄バンク等移植に伴うドナー登録および検査	
学校保健安全法で定められている感染症による出席停止	
裁判員制度で裁判員として出廷する場合	

※上記理由により欠席をする場合は、原則として事前に担当部署にて申請を行ってください。
※欠席事由証明書は学生自身が担当教員へ提出してください。原則として、欠席する授業の１週間前を提出期限とします。なお試験の欠席は12、13項を参考にしてください。
※出席停止の場合は改善後すみやかに申請を行ってください。

緊急時における授業の取り扱い

交通機関の運休や自然災害の発生により、授業を通常通り行うことができないと判断した場合は、休講等の措置をとることがあります。

下記事態に伴う休講情報は大学ホームページでお知らせしますので、確認してください。

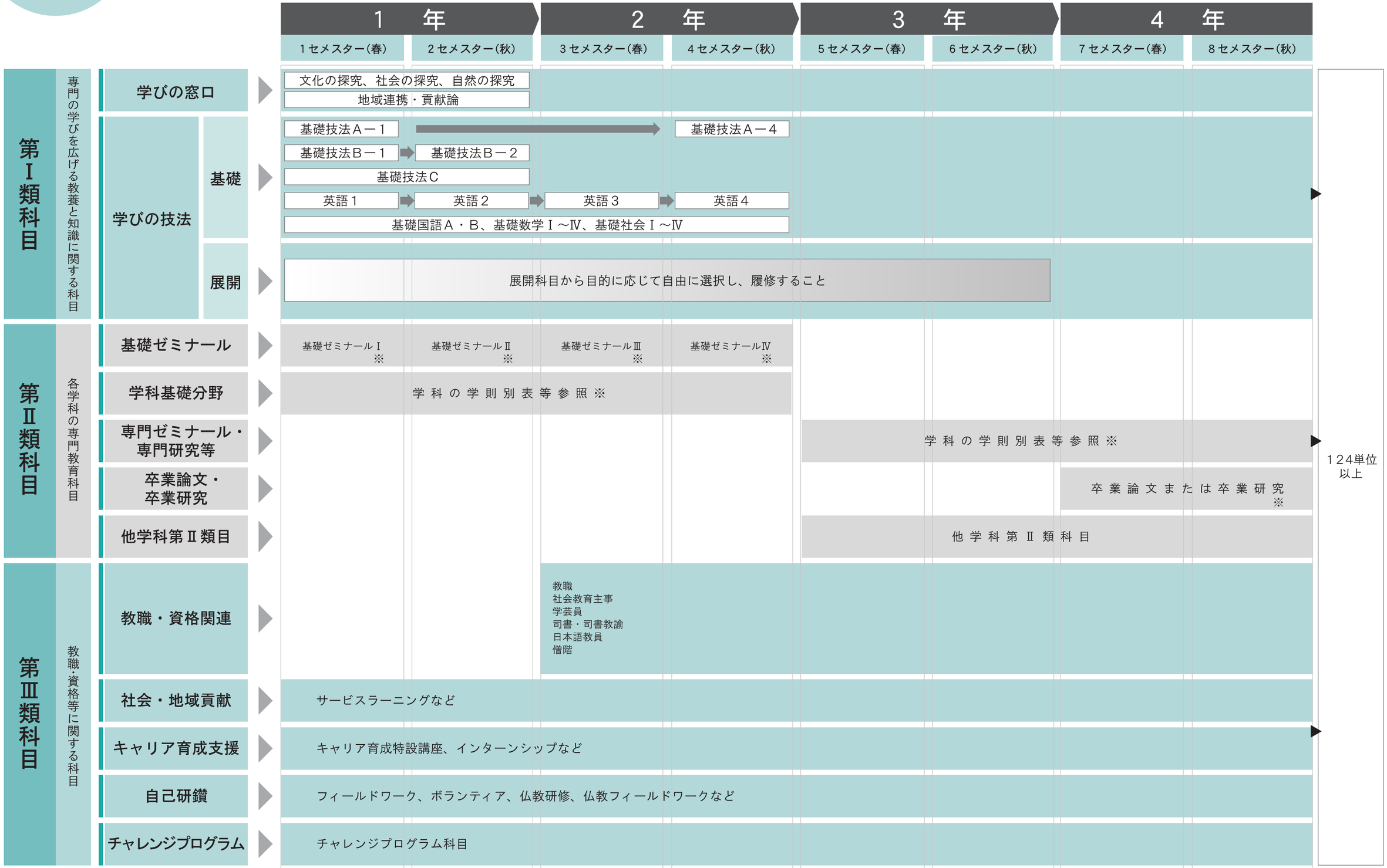
	午前６時段階	午前10時段階	午後２時段階
交通機関運行中止（※１）	１・２限休講	３・４限休講	５・６・７限休講
気象警報等（※２）	１・２限休講	３・４限休講	５・６・７限休講
大規模地震（※３）	１・２限休講	３・４・５・６・７限休講	

（※1） 首都圏ＪＲ、首都圏大手私鉄各社、東京メトロ、都営地下鉄のうち３社が全面的に運行中止の場合。
（※２）「暴風警報」「大雪警報」が東京２３区東部もしくは西部に発令された場合。
（※３）該当時間において、警戒宣言解除および判定会が解散されていない場合。
（注意）路線バスは一般的に遅延証明書の発行を受けられません。交通機関の乱れが予測される場合は、遅れを見込んで早く家を出る等の自衛手段をとってください。

4年間の学びの流れ

学びの流れ

仏教学部、人間学部、心理社会学部、文学部、表現学部の４年間の流れです。
※ 地域創生学部は別に示します。



※ 印の科目の履修は、学科の指示にしたがうこと。

卒　業

卒業

本学に４年以上在学し、所定の授業科目（各学科の卒業要件を参照）124単位以上（卒業論文･卒業研究を含む）を修得した者は卒業となり、下表のとおり学士の学位を授与します。

卒業の要件

卒業に必要となる単位数を確認のうえ、修得もれのないように注意してください。
特に第Ⅰ類科目は、区分毎の必修22単位に加え、さらに4単位修得しなければならないので注意してください。

◆ 地域創生学部は102頁～103頁の別表を参照してください。

	学びの窓口				学びの技法								第Ⅰ類科目計	第Ⅱ類科目･他学科第Ⅱ類科目		第Ⅱ類科目計	第Ⅲ類科目	計
					基礎科目							展開科目		基礎部門･専門部門	卒業論文・卒業研究			
	文化	社会	自然	地域	基礎技法A	基礎技法B	基礎技法C	英語	基礎国語	基礎数学	基礎社会							
各学科共通	各テーマから2単位以上、計6単位以上選択必修			2単位必修	4単位必修	4単位必修	2単位必修	4単位必修	任　意				26単位選択必修	学則別表および学科の指導による※	原則８単位選択必修	88単位以上選択必修	任　意	124単位以上選択必修

※　学科によって異なります。

・卒業までに124単位以上（第Ⅰ類は26単位）修得すること。
・必修を含めて第Ⅱ類科目を合計88単位以上修得すること。
　第Ⅱ類科目には、30単位までは他学科第Ⅱ類科目及び第Ⅲ類から充当することができる。
・第Ⅰ類科目余剰分（26単位以上修得した単位）は第Ⅲ類科目として認定する。

学 位

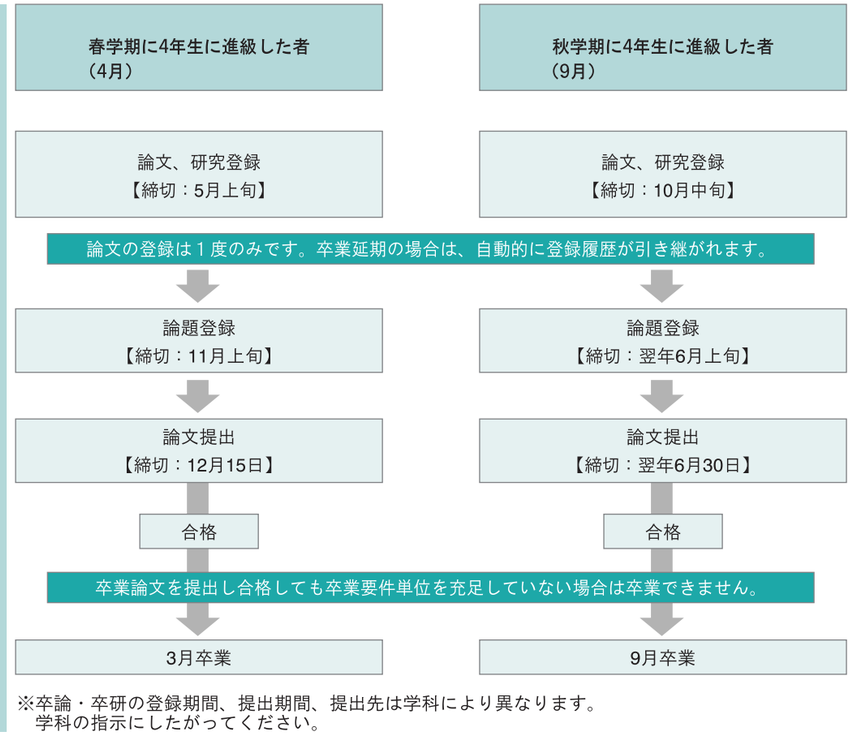
学部名	学科名	学位の名称
仏教学部	仏教学科	学士（仏教学）
人間学部	社会福祉学科	学士（社会福祉学）
	人間環境学科	学士（人間環境学）
	教育人間学科	学士（教育人間学）
心理社会学部	人間科学科	学士（人間科学）
	臨床心理学科	学士（臨床心理学）
文学部	人文学科	学士（人文学）
	日本文学科	学士（日本文学）
	歴史学科	学士（歴史学）
表現学部	表現文化学科	学士（表現文化）
地域創生学部	地域創生学科	学士（経済学）

卒業論文・卒業研究

卒業論文・卒業研究の体裁・提出手順

学位を授与されるためには、卒業論文･卒業研究を学科へ提出し、審査及び試験に合格し、卒業要件を満たす必要があります。

卒業論文･卒業研究の流れ



※卒論・卒研の登録期間、提出期間、提出先は学科により異なります。
　学科の指示にしたがってください。

卒業論文の体裁（目安）

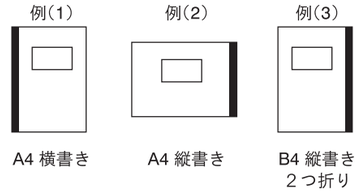
基　本		
	手書き	ワープロ
表　紙	規定文字数に含まない	
目　次	規定文字数に含まない	
序論 本論 結論 注釈	２万字以上	
参考文献	規定文字数に含まない	

体　裁（目安）				
・ワープロ:感熱紙不可 ・手書き:鉛筆書き不可	用紙サイズ	字詰め	書式	綴じ位置（下表､注意事項参照）
ワープロ･日本語	Ａ４	40字×40行	横書	例(1)
ワープロ･英　語	Ａ４	指導教授の指示	横書	例(1)
ワープロ･日本語	Ａ４	40字×40行	縦書	例(2)
手書き ・ 日本語	Ｂ４	400字	縦書	例(3)２つ折

※小説・詩等の場合は指導教授の指示にしたがうこと

1．本文に必ず頁数を記入すること。
2．目次の各タイトルにそれぞれの頁を記入すること。
3．図表･グラフなどは、本文中に入れるのではなく、章や節の末尾にまとめること。
4．綴じる際には右図の場所で綴じること。
　紐綴じの場合は、解けないように中綴じすること。
・　ファイルなど、簡単に取り外せる状態のものは受け付けないので注意すること。
＊　詳細は各学科に問い合わせること。

■ 綴じ位置の例



進　級
留　年
退学・除籍

進級・留年・退学・除籍について

進　級

次の学年（１年次から２年次、２年次から３年次、３年次から４年次）へ進級するためには、当該学年に１年（２学期または４クォーター）以上在学し、かつ以下の基準を満たさなければなりません。

１年→２年	・総修得単位数が20単位以上であること。
２年→３年	・総修得単位数が62単位以上であること。
３年→４年	・総修得単位数が90単位以上であること。

留　年

進級基準を満たさない場合、留年となります。
留年となった場合には、半期（１学期または２クォーターを単位として）ずつ在学しなければならない期間が延長されます。

退学・除籍

■ セメスター制

以下の場合は、大正大学学則第５０条、履修規程第１４条により退学となります。

・ 第１学年、第２学年、第３学年の各学年において、２年（４学期）在学してもなお、次学年に進級できない者
・ **在学した直近３学期（1.5年）連続して、各学期のＧＰＡ値が１．０未満の者**

以下の場合は、学則第５１条により除籍となります。

・ 休学期間が２年（４学期）を超えても復学できない者
・ ８年（16学期）在学し、卒業できない者
　編入学生は、４年（８学期）在学し、卒業できない者

■ クォーター制

以下の場合は、大正大学学則第５０条、履修規程第１４条により退学となります。

・ 第１学年、第２学年、第３学年の各学年において、２年（８クォーター）在学してもなお、次学年に進級できない者
・ **在学した直近６クォーター（1.5年）連続して、各学期のＧＰＡ値が１．０未満の者**

以下の場合は、学則第５１条により除籍となります。

・ 休学期間が２年（８クォーター）を超えても復学できない者
・ ８年（32クォーター）在学し、卒業できない者

転学部
転学科
転コース

転学部・転学科・転コースについて

他学部・他学科、同一学科内の他コースへの転籍を希望する者（１・２年次のみ）は、当該学科・コースに欠員のある場合のみ、転学部・転学科・転コース試験を実施します。

転学部・転学科・転コース試験実施案内（Ｔ－Ｐｏ）　【１１月上旬】

↓

転学部・転学科・転コース申請受付

↓

受験許可発表（受験料納付）

↓

試験実施（12月上旬）

↓

試験結果発表

↓

転籍（新年度より）

転学部・転学科◆受験資格◆

＜１年次＞
進級基準を満たしている者および満たす見込みの者
かつ、１年次春学期のＧＰＡ値が３.２以上の者
＜２年次＞
進級基準を満たしている者および満たす見込みの者
かつ、２年次春学期までの ＧＰＡ値が３.２以上の者

転コース◆受験資格◆

進級基準をすでに満たしている者あるいは満たす見込みの者

履修・単位

履修・単位について

必要科目の履修登録をし、授業を受け、科目の達成目標に到達した場合、当該科目の単位が与えられます。その単位の合計が卒業要件単位数を満たした者に対して、学位が授与されます。

履修登録

履修登録とはそのセメスターに履修しようとする科目をT-Po上で登録する手続きのことです。シラバス・時間割を確認し、十分に検討した上で履修計画を立ててください。

■ 履修登録の時期
- ・3月下旬～4月頃：春学期科目・通年科目
- ・9月下旬～10月頃：秋学期科目

※ 集中講義科目については、別途T-Poにて連絡します。

■ 履修登録上の注意
1. 履修登録（科目の追加・削除を含む）は、必ず履修登録期間中に行ってください。
2. 既単位修得済科目は、履修することはできません。
3. 自分の学年より、配当年次が上の科目を履修することはできません。
   （例：2年次在籍時に3年次に配当されている科目を履修することはできません）
4. 履修希望者が多い場合は、授業の特性を鑑み、受講生を制限することがあります。
5. 時限重複や制限単位（1セメスター24単位まで、クォーター制は別途定める）を超えて登録をした場合、登録画面上にエラー（※）が表示されます。
   エラー表示が出ている場合は、履修登録は完了できていません。表示されている内容に従い、修正登録の期間に各自で登録、削除、変更を行ってください。
6. 履修登録完了後は、必ず時間割を印刷し、登録ができているか確認してください。
   確認を怠ったことによる登録期間外での登録、削除、変更は行いません。
7. 正しく登録できていない科目（T-Po上の時間割に反映されていない科目）については、授業に出席しても単位を修得することはできません。

※主なエラー内容と解除方法

「授業の開始・終了時刻が重複しています。」 …同一曜日・時限に複数の科目を登録している場合	登録した科目の曜日・時限をもう一度確認し、重複しないよう科目の削除や変更を行ってください。
「複数回履修不可で合格済科目を履修しています。」 …既に単位を修得済みの科目を再度登録している場合	既修得科目は登録できません。削除してください。
「1セメスターに履修できる単位数は、第Ⅰ類・第Ⅱ類・第Ⅱ類（全学共通）科目をあわせて○○単位です。」 …定められた制限単位以上の単位数を登録した場合	定められた制限単位以下になるまで、科目を削除してください。
「○○科目を修得済みのこと。」 …選択している科目は先修制科目であるにも関わらず、前提科目の単位が未修得の状態で登録した場合	今回は登録することができないため、削除してください。次回以降に登録を希望する場合は、前提となる科目の単位を修得してから登録してください。

単　位

授業の単位数は、すべて学則に定められています。単位は、その学習量、学び方に基づき授業の種類・形態によって算出方法が異なります。教室内での授業のほかに、教室外での事前事後学修の時間も含めて成り立っています。なお、1単位につき45時間の学修が必要です。

■単位の算出方法
＜講義・演習科目＞
- ・毎週2回（90分授業×2）×15週→4単位認定
- ・毎週1回（90分授業×1）×15週→2単位認定

＜実験・実習・実技・外国語＞
- ・毎週1回（90分授業×1）×15週→1単位認定

■単位認定の時期
- ・春学期・第1・第2クオーター開講科目：9月15日（予定）
- ・秋学期・第3・第4クオーター開講科目：3月15日（予定）

制限単位（キャップ制）

学生の皆さんが無理なく単位を修得できるよう、各学年・セメスターごとに履修できる単位数に上限を定めています。

■セメスター制

学年別制限単位数								
学　年	1年次		2年次		3年次		4年次	
セメスター	第　1	第　2	第　3	第　4	第　5	第　6	第　7	第　8
学　期	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
制限単位	24	24	24	24	24	24	24	24

※制限単位の計算方法
- ・通年科目の単位数は、春学期・秋学期に等分して計算してください。
  （例：通年4単位の科目は、春学期2単位、秋学期2単位という計算になります）
- ・集中講義は、当秋学期に計上してください。
- ・夏期休業中の開講科目は、秋学期の制限単位に含めます。

＜制限単位に含むもの＞
- ・第Ⅰ類科目
- ・第Ⅱ類科目
- ・他学科第Ⅱ類科目
- ・集中講義

＜制限単位に含まないもの＞
- ・第Ⅲ類科目
- ・卒業論文

※学科によっては異なる場合があるので確認すること

■クォーター制

年間制限単位数				
クォーター	第１クォーター	第２クォーター	第３クォーター	第４クォーター
標準単位	10	10	6単位	10

※　第３クォーターは地域実習（6単位）のみ開講
※　第１・２・４クォーターの制限単位は標準です。履修指導に基づき履修してください。

試　験

試験について

試験は、筆記・レポートあるいは口述試問によって実施します。
評価方法についてはシラバスを確認してください。大正大学では試験期間を設けていないため、各授業担当教員指示のもと実施します。巻末の「大正大学試験規程」もあわせて確認してください。

試験種類と実施時期

試　験	…授業時間内で実施する試験。
追 試 験	…やむを得ない理由により授業内試験に出席できなかった場合に行います。 追試験日に実施します。 （所定の手続きがあります。）
再 試 験	…４年生最終セメスターの科目に限り行う場合があります。 （クォーター）

試験の流れ

受験資格あり

↓

試　験

※ 集中講義等の試験は、それぞれの授業の期間内に行います。

↓

右記理由により試験を受けなかった者は、追試験申請を行うことができる

↓

追試験申請
【教務課窓口】
追試験願に欠席事由を証明する書類を添付して申請。
当該科目の試験終了後原則７日以内に提出

↓

学部長の許可

↓

追 試 験 料 の 納 入
受験までに証明書発行機にて追試験料（1科目3,000円）を納入

↓

追 試 験 受 験

※ 追試験日の変更できません。

受験資格なし

- 履修登録をしていない者
- 学費未納の者
- 休学および停学中の者
- 試験開始後、20分を超えて遅刻した者
- 学生証のない者

追試験対象者（試験欠席者）

- 病欠の場合 ……診断書等
- 公共交通機関の遅延…遅延証明書（20分を超えるもの）
- 忌引きの場合（２親等以内）……証明できるもの
- 事故・災害の場合 ……証明できるもの
- その他の正当な理由がある者 ……証明できるもの

（学内規定による）

試験日の変更

交通機関の運行中止および台風等災害発生により全学で試験が実施できなかった場合、補講日か代替日（別途設定をする）にて試験を実施することがあります。

試験の心得

① 学生証は求めに応じて、机上に置いてください。
② 追試験・再試験に際して、学生証を忘れた場合は、 事前に学生課窓口で仮学生証の交付を受けてください（有料５００円）。
③ 答案用紙が配布され、試験監督より指示があり次第、学籍番号・氏名等所定の事項を記入してから試験を開始してください（試験場から答案用紙を持ち出すことはできません）。
④ 携帯電話等の電源は必ず切ってください。
また、机上には許可された物以外は置くことができません。
⑤ 試験への持込みは、許可された物以外は一切認めません。
また、「ノート持込み可」の場合のノートとは自筆のノートのみとし、コピーしたものは一切認めません。

不正行為

試験は、学生各自の科目履修の成果を確認するものであり、その意に反する行為は不正行為と見なします。
試験監督の注意・指示にしたがわない場合は、その試験は無効とします。
不正行為があった場合は、学部長に報告したのち、代議員会の議を経て不正行為を行った者に対しては、**当該学期の履修科目すべてをＺ評価**としたうえで、学則第６１・６２条（譴責、謹慎、停学、退学）により処分されます。

以下の行為があった場合、不正行為とみなします。

- 試験場において監督者の指示に従わないとき
- 当該試験において許可されている以外の方法で解答を得たとき
- 他人の答案を盗み見等のカンニング行為をしたとき
- 他人の学生証で受験したとき（学生証を貸借した者両名）
- 当該授業の履修登録者以外が履修登録者と偽って受験したとき
- 他人の答案又は成果物を複写もしくは盗用したとき

課題の提出

授業で課された課題は、担当教員に直接提出してください。事務局は一切対応いたしません。提出の指示があった場合は、必ず提出方法と提出期限を確認し、遅れないようにしてください。

① 郵 送 の 場 合 ：事前に宛先を担当教員に確認し、封筒に「レポート在中」と朱書きして「配達証明付」で送付してください。
配達証明付で送付しなかった場合、未着があっても救済できません。
（教務課では、担当教員の住所・電話番号等に関する問い合わせには一切お答えできません。）

② 直接提出する場合 ：事前に提出場所を確認し、指定期間内に提出してください。

③ T-Poで提出する場合：「T-Po利用マニュアル」を参照し、提出してください。

※なお、レポートの形式は、担当教員の指示にしたがってください。

成　績

成績評価

授業の成績評価は、授業への取り組み・試験・レポート等を総合的に勘案して評価します。成績評価は、以下のとおりＡＡからＣ、およびＴを合格、Ｄ・Ｚは不合格とします。

GPA(学業平均値)制度

授業毎の成績評価に加え、GPA（Grade Point Average／学業平均値）を算出します。ＧＰＡは、一定期間の履修と学習の状況を掌握することによって、適切できめ細やかな履修や学修に関するアドバイスを可能とし、成績上位者を表彰する客観的なデータとして利用します。

ＧＰＡの算出方法

ＧＰＡは、下の算出例のとおりＺ評価を含め、全ての履修科目を対象として算出しますので、履修登録を取り消す必要がある場合は、必ず修正登録期間中に修正してください。

［ＧＰＡの算出例］

２単位の科目を３科目履修し、成績が＜AA ・A⁻・Z＞評価の場合のＧＰＡと判定

$$GPA=\frac{AA(4.0)\times 単位数(2)+A^{-}(2.7)\times 単位数(2)+Z(0)\times 単位数(2)}{登録総単位数(不合格の科目の単位数も分母に加算)}$$

$$=\frac{4.0\times 2+2.7\times 2+0\times 2}{6}=2.23$$ 【判定：B】

成績評価基準

評価	ポイント	判　定		基　準
ＡＡ	4.0点	合　格（最優秀）	ＡＡ	極めて優秀な成績
A⁺	3.5点	合　格（優秀）	A	優秀な成績
A	3.0点			
A⁻	2.7点			
B⁺	2.4点	合　格（良）	B	受講生の中では平均的な成績
B	2.0点			
B⁻	1.7点			
C⁺	1.4点	合　格（可）	C	平均より劣るが、合格に値する成績
C	1.0点			
D	0.0点	不合格（不可）	D	合格に達しない
Z	0.0点	不合格（否）	Z	評価不能
T	ー	本学の授業科目における合格判定（上記AA～Cを除く）および他大学等による単位認定		

※ Z評価は出席のない者、成果物未提出の者等を示します。
※ 成績通知表には、評価欄の評語を使用します。また、成績証明書には、判定欄の評語を使用します（成績証明書には、合格科目のみ記載されます）。

成績評価確認申請

開示された前学期の成績評価で、不合格〈Ｄ評価〉、〈Ｚ評価〉となっている科目に対し、明らかな疑義がある場合のみ、成績評価確認申請を行うことができます。申請期間に教務課窓口へ申請してください。
※ 申請期間はガイダンス資料を参照してください。

評価等に対する疑問 ➡ 教務課窓口にて必要書類を記入 ➡ 申請期間に教務課へ申請書提出 ➡ 教務課から担当教員へ確認 ➡ 本人へ確認事項連絡

ただし、以下の場合は成績評価に関する疑義および質問を一切受け付けないので注意してください。

◎ 教務課を通さずに、疑問点を直接教員に問い合せ、その結果を教務課に届け出た場合
◎ 本人の都合による指定期間外での申請
◎ 成績表・時間割を持参していない場合
◎ 成績評価確認申請期間を過ぎた場合

オフィスアワー

○ オフィスアワーとは

正課の授業とは別に、学生と教員のコミュニケーションを図る場として設けた時間帯のことです。専任教員があらかじめ設定した時間帯に、研究室を開放し学生からの質問や相談を受けやすくするための制度です。
オフィスアワーでは、授業内容に関する質問や、履修・学修の進め方などの相談のほか、レポート指導など学修に関することをはじめ、卒業後の進路、休学など個人的な相談をすることができます。
先生方は、学生の皆さんの様々な相談に応じてくれますが、対処しきれない事柄については、他の専門の先生や、適切な関係者（組織）を紹介してくださるでしょう。

○ オフィスアワーの活用方法

T－Poの「教員時間割表」に記載されているオフィスアワーの時間帯を確認し、研究室を訪問してください。また、予約が必要な場合があります。必ず事前に確認をしてください。
なお、非常勤講師の先生方に関しては、オフィスアワーがありません。授業終了後の時間を利用してください。

留学・海外語学研修について

留学・海外語学研修には以下の種類があります。

	協定留学	認定留学	海外語学研修
期間	半年あるいは1年	半年あるいは1年	1カ月程度
形態	姉妹校（協定校）との協定により、相互に学費を免除して相手校で学ぶ交換留学制度（一部例外あり）。	協定校以外かつ大学より認められた留学先で、学費免除なしに相手校で学ぶ留学制度。	大学主催の語学力向上を主な目的とした海外研修。
単位	単位認定	単位認定	単位認定
資格	留学先における言語の外国語資格検定試験 ドイツ語検定試験3級 中国語検定試験3級 HSK3級 韓国語能力試験3級 TOEFL試験iBT68以上にて検定合格証明が必要。	留学先大学の入学許可書又は、受け入れ承諾書に加え、留学先の履修課程及び授業科目の詳細。	学部生が対象
その他	協定校での授業料の一部または全額の免除、および寮費の減免など（ただし上記留学形態条項にかかわらず各協定校の条件による）。	正規の高等教育機関で学位授与権を有する大学を留学先とし、留学先の授業料に減免はない。	春・夏休講期間中に協定校、交流校で開講される集中講座。
奨学金・奨励金	海外特別留学奨学金 協定留学先により藤井かよ奨学金あり。	海外特別留学奨励金	海外語学研修奨励金 海外語学研修先により藤井かよ奨学金あり。
留学先	アメリカ（ウェスタンミシガン大学・ハワイ大学マノア校）ドイツ（ミュンヘン大学）タイ（タマサート大学）中国（河南大学・上海大学）韓国（東國大学校・東西大学校・金剛大学校）	学生本人による選定	・ハワイ大学 ・北京大学 ・ミュンヘン大学 ・東西大学校

第Ⅰ類科目

第Ⅰ類科目は、教養教育科目として26単位を必修としている。それは、教養教育が大学で学んでいく上で基礎となり、さらに社会人として生きていく力にもつながっていくという科目群のねらいでもある。

■ 学びの窓口

文化・社会・自然および地域の各分野から学ぶことにより、人間としての生きる力を身につけ、かつ教養人として社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。

■ 学びの技法

専門分野を深く学ぶために必要な基礎技法を身につけることを目的として、「人格（キャリア）形成」「基礎的学習スキル」「情報リテラシー」「外国語」の４つの要素から構成されている。

第Ⅰ類科目
学びの窓口
学びの技法

第Ⅰ類科目

第Ⅰ類科目の履修について

大正大学の建学の理念と大学での学びとは何かを知り、学びたいことを学びやすい形で学ぶためのカリキュラムです。
これからの大学教育の基礎、さらに社会人として生きていく力を養うことが目的で構成された科目です。

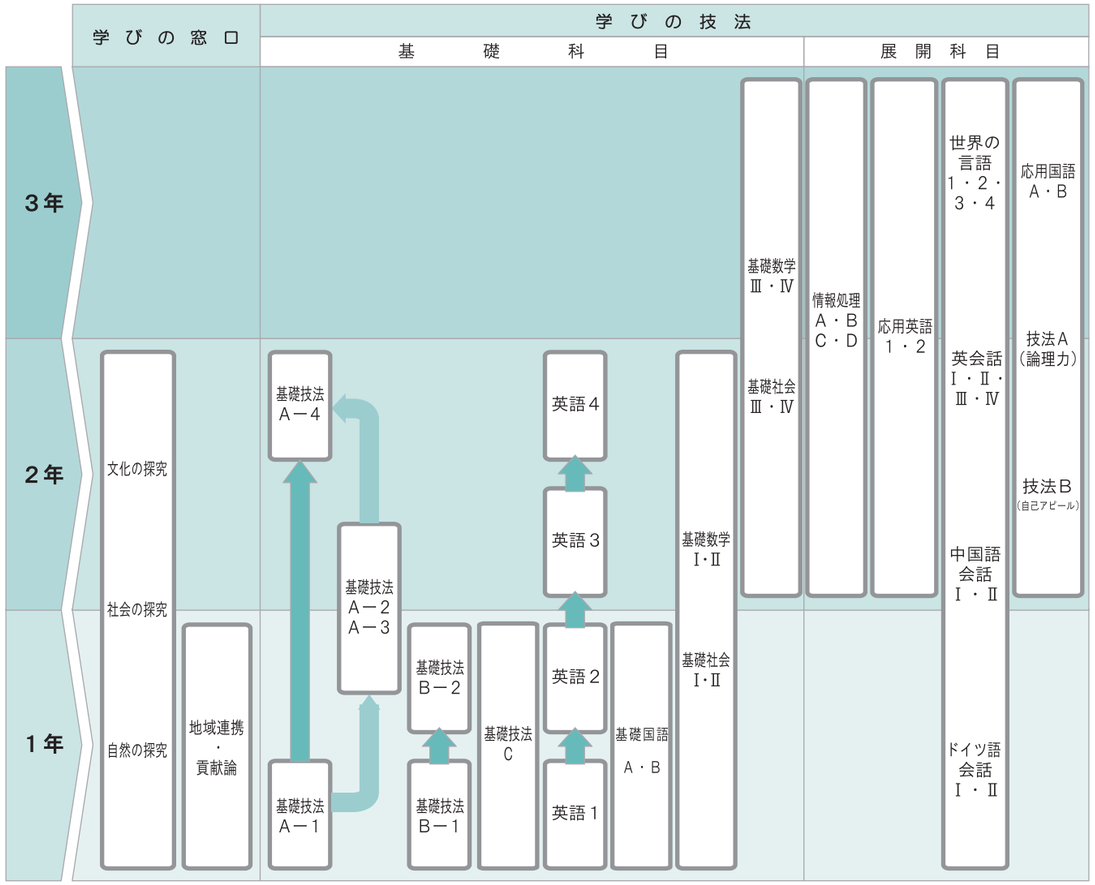
2019年度 第Ⅰ類科目の教育目標

大正大学では、学生が以下の各資質・能力を総合的に身につけることを目標として、第Ⅰ類科目の教育を行ないます。

<知識・技能>
① 文化・社会・自然および地域における事象について、幅広く教養的知識を修得している
② 大学での学びや社会で必要となる基礎学力と情報リテラシーおよび語学力を修得している

<思考・判断・表現>
③ 社会的な事象について、具体的な根拠をもって考え、自らの見解について学びの技法を活用しながら、探究・表現することができる
④ 異なる文化・価値に理解を示し、自らの考えを再構築することができる

<関心・意欲・態度>
⑤ 履修した科目を自らの目標に照らして意味づけ、学習計画に基づき主体的に学ぶことができる
⑥ 他者と協力しながら、課題に取り組む積極的態度を身につけている



学びの窓口

「学びの窓口」は、文化・社会・自然および地域の４分野で構成され、各分野から幅広く基礎を学び、専門分野への窓口として、学ぶ方法を身につけることを目的としている。

■ 履修方法

① 文化･社会･自然の各分野より２単位以上､計６単位以上選択必修とする。
② 地域の分野は｢地域連携･貢献論｣(２単位)を必修とする。
③ ｢学びの窓口｣科目の履修登録は抽選になります。

テーマ		科目	備考
文化	考えるための哲学	文化の探究Ａ	
		文化の探究Ｂ	
	歴史に学ぶ	文化の探究Ｃ	
		文化の探究Ｄ	
	ことばの不思議	文化の探究Ｅ	
		文化の探究Ｆ	
	慈悲と智慧の学び	文化の探究Ｇ	
		文化の探究Ｈ	
	〈世界〉に触れる方法	文化の探究Ⅰ	
社会	社会と家族	社会の探究Ａ	計６単位以上選択必修 文化･社会･自然 各分野 ２単位以上必修
		社会の探究Ｂ	
	情報・メディア	社会の探究Ｃ	
		社会の探究Ｄ	
	世界の中の日本	社会の探究Ｅ	
		社会の探究Ｆ	
	社会と市民生活	社会の探究Ｇ	
		社会の探究Ｈ	
		社会の探究Ⅰ	
自然	数学の世界	自然の探究Ａ	
	生活と健康	自然の探究Ｂ	
		自然の探究Ｃ	
	自然と環境	自然の探究Ｄ	
		自然の探究Ｅ	
	科学の世界	自然の探究Ｆ	
		自然の探究Ｇ	
		自然の探究Ｈ	
		自然の探究Ⅰ	
地域	地域連携・貢献論		２単位必修

学びの技法

「学びの技法」は、基礎科目と展開科目で構成される。
大学での学びに必要とされる基礎的学習スキルを身につけることを目的としている。

■ 基礎科目

基礎科目のうち以下の①～④９科目14単位は必ず履修すること。

① 基礎技法Ａ－１・４（４単位）
② 基礎技法Ｂ－１・２（４単位）
③ 基礎技法Ｃ（２単位）※
④ 英語１・２・３・４（４単位）※

※ ただし、特に認められた者については履修を免除する。

上記以外の基礎科目は選択科目なので、必要に応じて履修すること。

■ 展開科目

展開科目は選択科目なので、必要に応じて履修すること。

① 情報処理Ａ・Ｂは１→２と段階的に履修することが望ましい。
② 外国語科目は１→２→３→４、Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳと段階的に継続して学習することが望ましい。

■ 外国語検定の成績等による単位認定について

大学入学前および入学後にTOEICテスト、TOEFL ITPテスト、TOEFL iBTテストと中国語検定を受験した場合、点数に応じて単位を認定する。ただし、該当科目の単位を修得済みの場合は認定することができない。
単位認定希望者は所定の手続きを取ること。

◆対象者
TOEICテスト450点以上取得者（TOEIC IPを含む）
TOEFL ITPテスト453点以上取得者
TOEFL iBTテスト46点以上取得者
中国語検定合格者

◆申請の流れ

書類を教務部窓口に提出
①TOEIC・TOEFL公開テストのスコアまたは中国語検定合格者書（合格後２年以内のもの）
②単位認定申請書（教務部窓口で配付）

↓

大学で審査を実施

↓

単位を認定（Ｔ認定）
申請した学期の学期末に認定される

◆申請期間
ガイダンス資料で確認すること。

◆認定単位科目

TOEICテスト

450点以上取得	英語１を認定
500点取得	英語１・２を認定
550点取得	英語１～３を認定
600点取得	英語１～４を認定

TOEFL ITPテスト

453点以上取得	英語１を認定
470点取得	英語１・２を認定
487点取得	英語１～３を認定
503点取得	英語１～４を認定

TOEFL iBTテスト

46点以上取得	英語１を認定
52点取得	英語１・２を認定
57点取得	英語１～３を認定
62点取得	英語１～４を認定

中国語検定

中国語検定４級合格	中国語１・２を認定
中国語検定３級合格	中国語１～４を認定

■ 検定合格等による基礎技法Cの単位認定について

大学入学以前および入学後に、以下の検定を受験し合格した場合、単位を認定する。
ただし、該当科目の単位を修得済みの場合は認定することができない。
単位認定希望者は所定の手続きを取ること。

◆対象者（以下の検定取得者）

P検3級以上
ドットコムマスターベーシック
ITパスポート
日商PC検定3級以上

◆申請の流れ

書類を教務部に提出

①合格証明書（合格後2年以内のもの）
②単位認定申請書（教務部窓口で配付）

↓

大学で審査を実施

↓

単位を認定（T認定）

申請した学期の学期末に認定される

◆申請期間

ガイダンス資料で確認すること。

◆認定単位科目

基礎技法Cを認定

■ 入学準備学習について

AO入試で入学した学生は、入学前課題の成果として、第Ⅰ類科目「入学準備学習」1単位を認定する。

第Ⅰ類科目学則別表

○ 授業科目の概要

群	テーマ	授業科目の名称 学部共通（第Ⅰ類科目）	履修年次	単位	備考
学びの窓口	文化	文化の探究A	1 2	2	2単位以上選択必修
		文化の探究B	1 2	2	
		文化の探究C	1 2	2	
		文化の探究D	1 2	2	
		文化の探究E	1 2	2	
		文化の探究F	1 2	2	
		文化の探究G	1 2	2	
		文化の探究H	1 2	2	
		文化の探究Ⅰ	1 2	2	
	社会	社会の探究A	1 2	2	2単位以上選択必修
		社会の探究B	1 2	2	
		社会の探究C	1 2	2	
		社会の探究D	1 2	2	
		社会の探究E	1 2	2	
		社会の探究F	1 2	2	
		社会の探究G	1 2	2	
		社会の探究H	1 2	2	
		社会の探究Ⅰ	1 2	2	
	自然	自然の探究A	1 2	2	2単位以上選択必修
		自然の探究B	1 2	2	
		自然の探究C	1 2	2	
		自然の探究D	1 2	2	
		自然の探究E	1 2	2	
		自然の探究F	1 2	2	
		自然の探究G	1 2	2	
		自然の探究H	1 2	2	
		自然の探究Ⅰ	1 2	2	
	地域	地域連携・貢献論	1 2	2	2単位必修
学びの技法	基礎科目	基礎技法A－1	1	2	2単位必修
		基礎技法A－2	1	2	
		基礎技法A－3	2	2	
		基礎技法A－4	2	2	2単位必修
		基礎技法B－1	1	2	4単位必修
		基礎技法B－2	1	2	
		基礎技法C	1	2	2単位必修
		英語1	1	1	4単位必修
		英語2	1	1	
		英語3	2	1	
		英語4	2	1	
		基礎国語A	1	2	選択科目
		基礎国語B	1	2	
		基礎数学Ⅰ	1 2	2	
		基礎数学Ⅱ	1 2	2	
		基礎数学Ⅲ	2 3	2	
		基礎数学Ⅳ	2 3	2	
		基礎社会Ⅰ	1 2	2	
		基礎社会Ⅱ	1 2	2	
		基礎社会Ⅲ	2 3	2	
		基礎社会Ⅳ	2 3	2	
		入学準備学習	1	1	

次頁に続く

第Ⅰ類科目

第Ⅱ類科目

各学科の専門教育科目

授業科目の概要

群	テーマ	授業科目の名称 学部共通（第Ⅰ類科目）	履修年次	単位	備考
学びの技法	展開科目	情報処理Ａ－１（ワード）	２ ３	2	選択科目
		情報処理Ａ－２（ワード）	２ ３	2	
		情報処理Ｂ－１（エクセル）	２ ３	2	
		情報処理Ｂ－２（エクセル）	２ ３	2	
		情報処理Ｃ（プレゼンテーション）	２ ３	2	
		情報処理Ｄ（データベース）	２ ３	2	
		応用英語１	２ ３	1	
		応用英語２	２ ３	1	
		世界の言語（中国語）１	１ ２	1	
		世界の言語（中国語）２	１ ２	1	
		世界の言語（中国語）３	２ ３	1	
		世界の言語（中国語）４	２ ３	1	
		世界の言語（フランス語）１	１ ２	1	
		世界の言語（フランス語）２	１ ２	1	
		世界の言語（フランス語）３	２ ３	1	
		世界の言語（フランス語）４	２ ３	1	
		世界の言語（ドイツ語）１	１ ２	1	
		世界の言語（ドイツ語）２	１ ２	1	
		世界の言語（ドイツ語）３	２ ３	1	
		世界の言語（ドイツ語）４	２ ３	1	
		世界の言語（韓国語）１	１ ２	1	
		世界の言語（韓国語）２	１ ２	1	
		世界の言語（韓国語）３	２ ３	1	
		世界の言語（韓国語）４	２ ３	1	
		世界の言語（スペイン語）１	１ ２	1	
		世界の言語（スペイン語）２	１ ２	1	
		世界の言語（スペイン語）３	２ ３	1	
		世界の言語（スペイン語）４	２ ３	1	
		世界の言語（ヒンディ語）１	１ ２	1	
		世界の言語（ヒンディ語）２	１ ２	1	
		世界の言語（ヒンディ語）３	２ ３	1	
		世界の言語（ヒンディ語）４	２ ３	1	
		英会話Ⅰ	１ ２	2	
		英会話Ⅱ	１ ２	2	
		英会話Ⅲ	２ ３	2	
		英会話Ⅳ	２ ３	2	
		中国語会話Ⅰ	１ ２ ３	2	
		中国語会話Ⅱ	１ ２ ３	2	
		ドイツ語会話Ⅰ	１ ２ ３	2	
		ドイツ語会話Ⅱ	１ ２ ３	2	
		応用国語Ａ	２ ３	2	
		応用国語Ｂ	２ ３	2	
		技法Ａ（論理力）	２ ３	2	
		技法Ｂ（自己アピール）	２ ３	2	
留学生科目		日本語研究Ａ		2	留学生のみ履修可能
		日本語研究Ｂ		2	
		日本語研究Ｃ		2	
		日本語研究Ｄ		2	
		日本語研究Ｅ		2	
		日本語研究Ｆ		2	
		日本語研究Ｇ		2	
		日本語研究Ｈ		2	
		日本語研究Ⅰ		2	
		日本文化研修		2	

※ 計26単位修得するものとする。

第Ⅱ類科目

仏教学部

仏教学科

1.基礎ゼミナール

1･2年生を対象としたコース別のゼミナール。少人数のクラス編成で、大学での学習全般に関するオリエンテーションをはじめ、各コースの基礎的な知識および上級学年で学ぶ専門科目の内容や学習方法について指導する。
また担当教員と学生生活や学習について話し合う場でもあり、有意義な4年間を送るための第一歩として受講する必修科目である。

2.基礎･専門･法儀部門

仏教学全般の基礎やコースの専門的学習をしながら、3年次の専門ゼミナール、4年次の卒業論文･卒業研究に展開していくための科目群である。コースの枠組みを超えて幅広い科目を学ぶことができるが、各自の研究目標にそった科目選択が望まれる。

3.専門ゼミナール、卒業論文･卒業研究

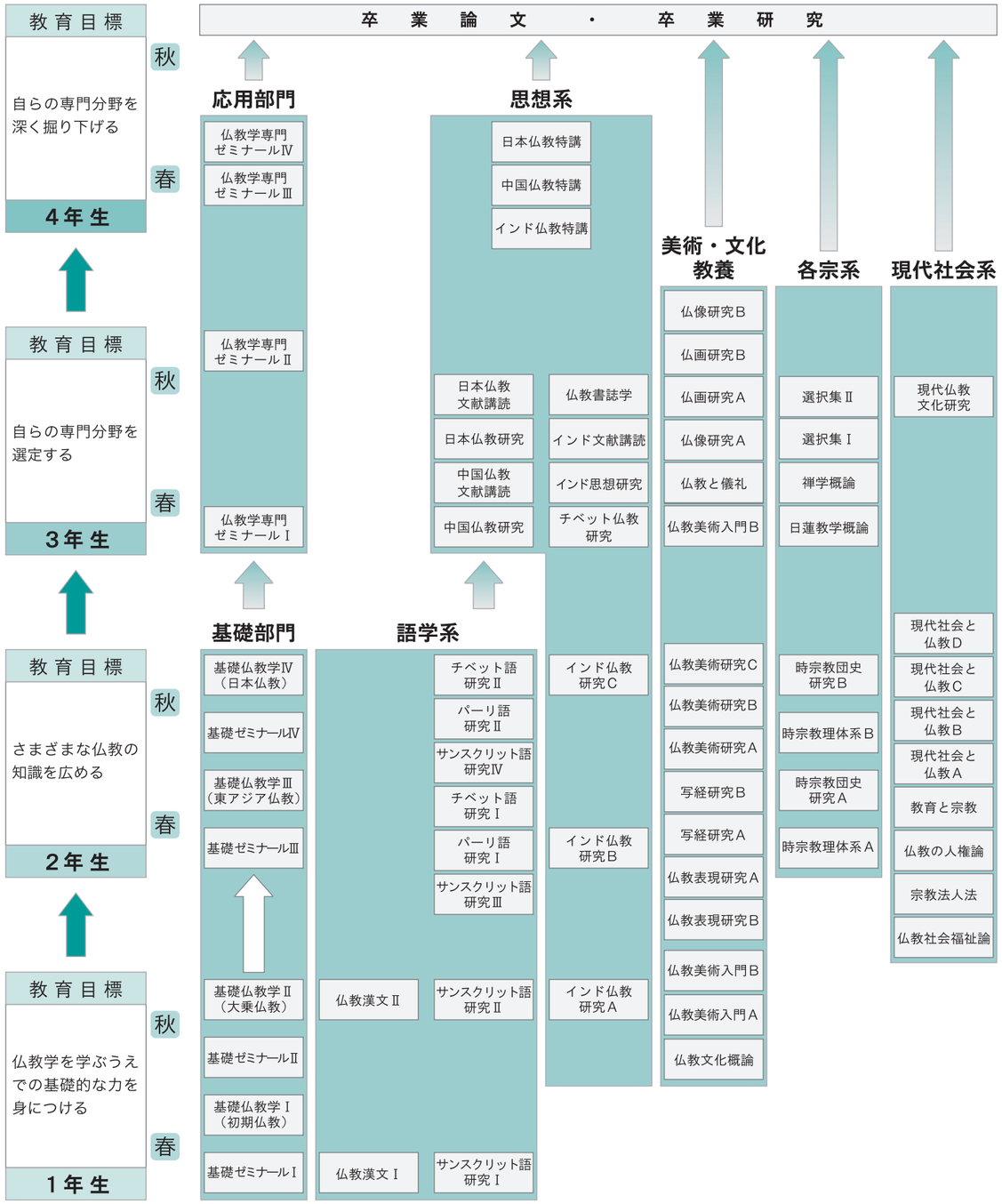
卒業論文･卒業研究は大学での学習の集大成である。3年次より専門ゼミナールでテーマの決定や資料収集など、担当教員より指導を受けながら卒業論文･卒業研究を完成させていく。
また、よりよい成果があげられるよう、1年生のうちから十分な基礎学習を積み上げることが大切である。

仏教学部　仏教学科　仏教学コース

（第Ⅱ類科目）の履修について

仏教学科 仏教学コース　DP
（ディプロマポリシー：卒業時に身についている能力）

知識・理解	・仏教学科の学び（仏教学・宗学・国際教養）に関する幅広い知識と研究方法を身につけている。 ・仏教学科の学びで得た知識と研究方法や技能を、現実社会の中で活用できる。
思考・判断・表現	・仏教学科におけるさまざまな学問的領域について、自らの学びの対象とした研究や方法論を通じて多面的に思考・判断することができる。 ・自ら学び体験したことを、他者や地域社会・世界に向けて、論理的・創造的に表現することができる。
関心・意欲・態度	・より良い社会の形成と発展のために、多様な価値観を認め、他者と協働しながら、仏教学科での修学内容を主体的かつ実践的に活かそうとする姿勢を身につけている。

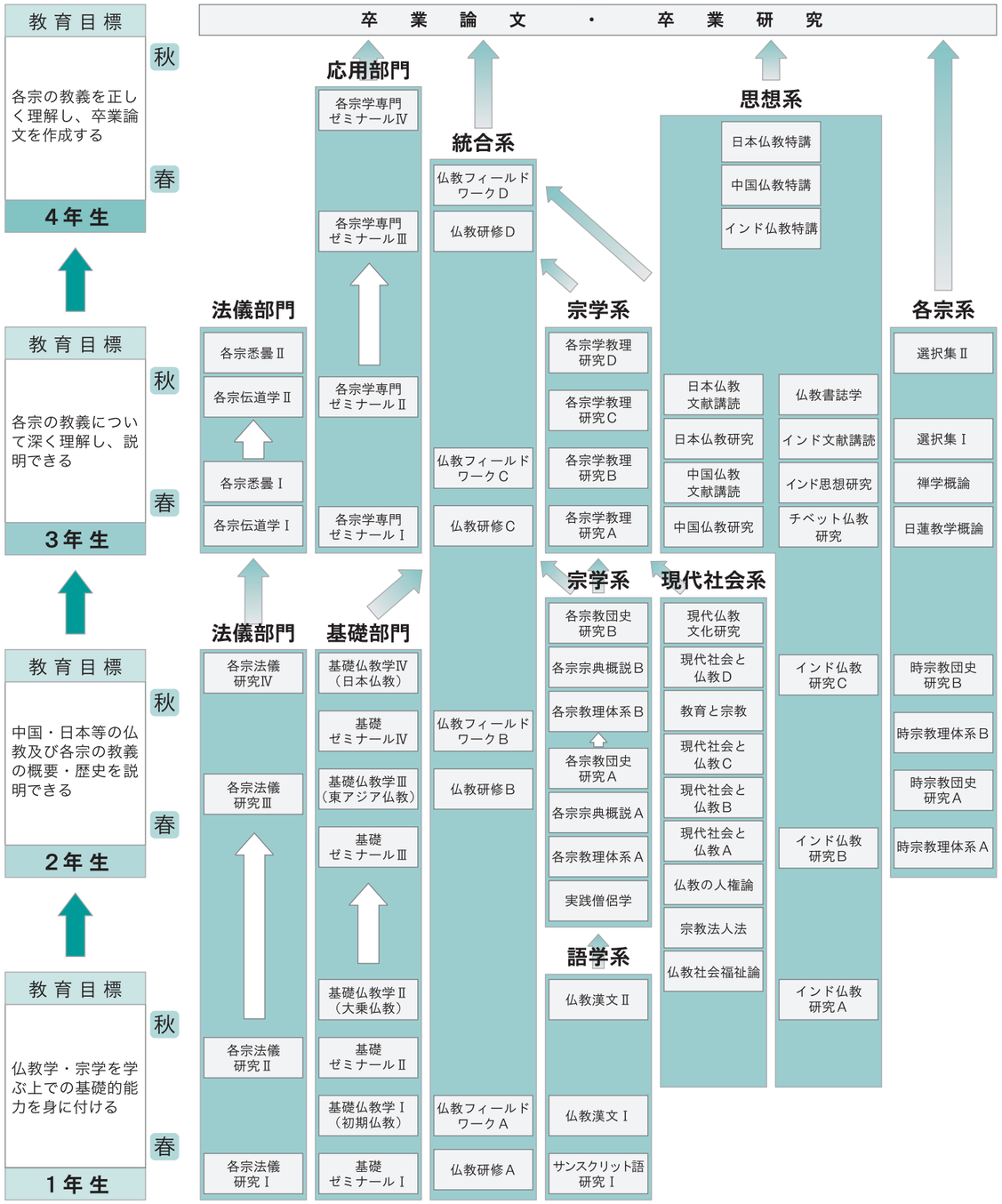


※ ここに記した学系以外の履修もできます。

仏教学部　仏教学科　宗学コース　（第Ⅱ類科目）の履修について

仏教学科 宗学コース　DP（ディプロマポリシー：卒業時に身についている能力）

知識・理解	・仏教学科の学び（仏教学・宗学・国際教養）に関する幅広い知識と研究方法を身につけている。 ・仏教学科の学びで得た知識と研究方法や技能を、現実社会の中で活用できる。
思考・判断・表現	・仏教学科におけるさまざまな学問的領域について、自らの学びの対象とした研究や方法論を通じて多面的に思考・判断することができる。 ・自ら学び体験したことを、他者や地域社会・世界に向けて、論理的・創造的に表現することができる。
関心・意欲・態度	・より良い社会の形成と発展のために、多様な価値観を認め、他者と協働しながら、仏教学科での修学内容を主体的かつ実践的に活かそうとする姿勢を身につけている。

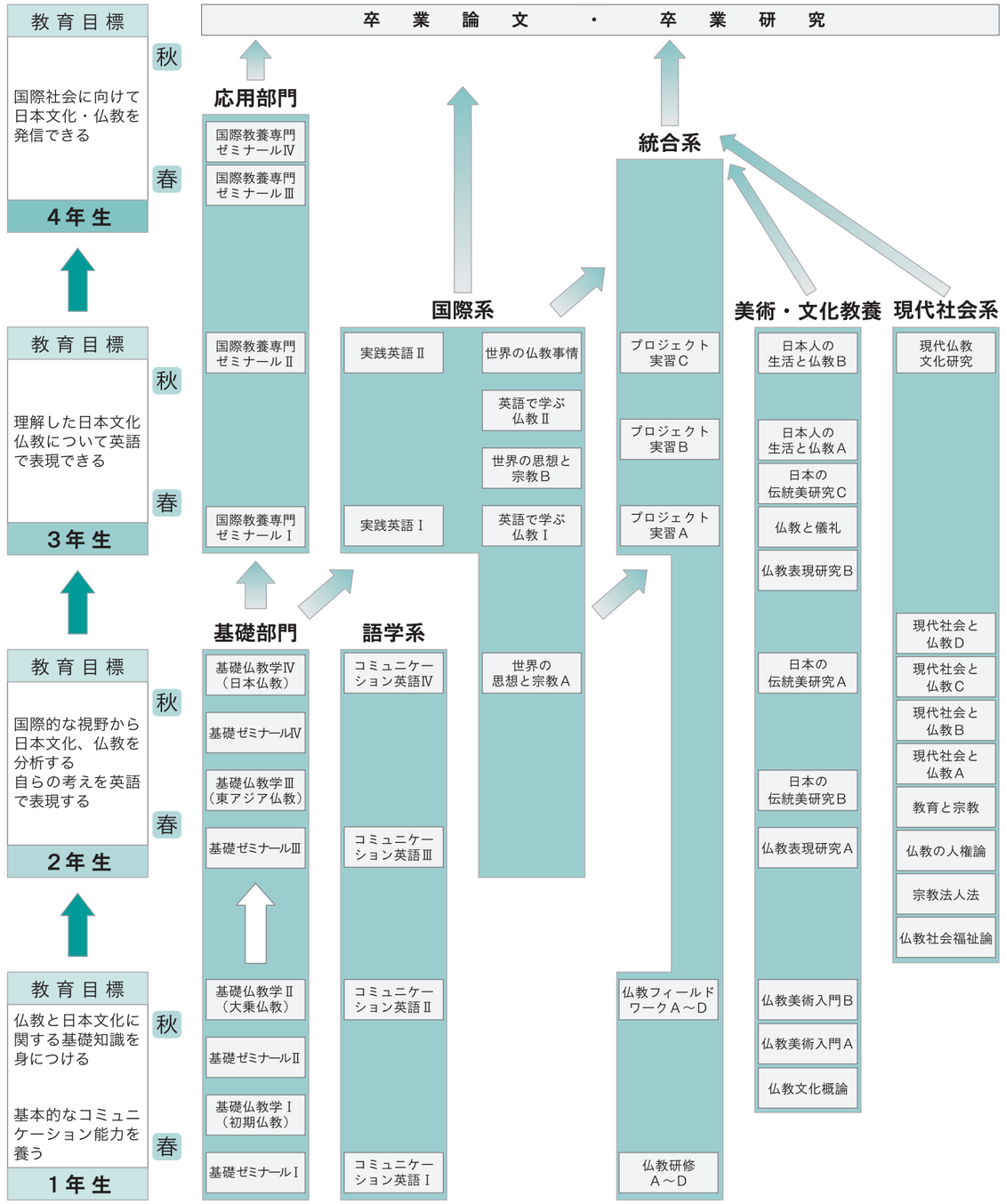


※ ここに記した学系以外の履修もできます。

仏教学部　仏教学科　国際教養コース　（第Ⅱ類科目）の履修について

仏教学科 国際教養コース DP（ディプロマポリシー：卒業時に身についている能力）

知識・理解	・仏教学科の学び（仏教学・宗学・国際教養）に関する幅広い知識と研究方法を身につけている。 ・仏教学科の学びで得た知識と研究方法や技能を、現実社会の中で活用できる。
思考・判断・表現	・仏教学科におけるさまざまな学問的領域について、自らの学びの対象とした研究や方法論を通じて多面的に思考・判断することができる。 ・自ら学び体験したことを、他者や地域社会・世界に向けて、論理的・創造的に表現することができる。
関心・意欲・態度	・より良い社会の形成と発展のために、多様な価値観を認め、他者と協働しながら、仏教学科での修学内容を主体的かつ実践的に活かそうとする姿勢を身につけている。



※ ここに記した学系以外の履修もできます。

		授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
基礎部門	基礎部門	基礎仏教学Ⅰ（初期仏教）	1	4	必修
		基礎仏教学Ⅱ（大乗仏教）	1	4	
		基礎仏教学Ⅲ（東アジア仏教）	2	4	
		基礎仏教学Ⅳ（日本仏教）	2	4	
		基礎ゼミナールⅠ	1	2	必修
		基礎ゼミナールⅡ	1	2	
		基礎ゼミナールⅢ	2	2	
		基礎ゼミナールⅣ	2	2	
専門部門	語学系	仏教漢文Ⅰ	1	2	仏教学、宗学コース必修
		仏教漢文Ⅱ	1	2	
		サンスクリット語研究Ⅰ	1	2	
		サンスクリット語研究Ⅱ	1	2	仏教学コース２単位以上履修すること
		サンスクリット語研究Ⅲ	2	2	
		サンスクリット語研究Ⅳ	2	2	
		パーリ語研究Ⅰ	2	2	
		パーリ語研究Ⅱ	2	2	
		チベット語研究Ⅰ	2	2	
		チベット語研究Ⅱ	2	2	
		コミュニケーション英語Ⅰ	1	4	国際教養コース必修 履修は国際教養コースの学生に限定（週４回で４単位）
		コミュニケーション英語Ⅱ	1	4	
		コミュニケーション英語Ⅲ	2	2	国際教養コース必修 履修は国際教養コースの学生に限定（週２回で２単位）
		コミュニケーション英語Ⅳ	2	2	
	思想系	インド思想研究	3	2	仏教学コース12単位以上 宗学コース６単位以上履修すること
		インド仏教研究A（アビダルマ）	1	2	
		インド仏教研究B（大乗経典）	2	2	
		インド仏教研究C（大乗思想）	2	2	
		インド文献講読	3	2	
		インド仏教特講	4	2	
		チベット仏教研究	3	2	
		中国仏教研究	3	2	
		中国仏教文献講読	3	2	
		中国仏教特講	4	2	
		日本仏教研究	3	2	
		日本仏教文献講読	3	2	
		日本仏教特講	4	2	
		仏教書誌学	3	2	
	国際系	実践英語Ⅰ	3	2	
		実践英語Ⅱ	3	2	
		英語で学ぶ仏教Ⅰ	3	2	
		英語で学ぶ仏教Ⅱ	3	2	
		世界の思想と宗教A	2	2	
		世界の思想と宗教B	3	2	
		世界の仏教事情	3	2	

次頁に続く

		授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
専門部門	文化教養系	仏教文化概論	1	2	
		日本人の生活と仏教A（食文化）	3	2	
		日本人の生活と仏教B（年中行事）	3	2	
		日本の伝統美研究A（華道）	2	2	履修に際しては事前調整を行う。
		日本の伝統美研究B（茶道）	2	2	
		日本の伝統美研究C（書道）	3	2	
		仏教表現研究A（文学・落語・芸能）	2	2	
		仏教表現研究B（漫画・童話・絵本）	3	2	
		仏教と儀礼	3	2	
	美術系	仏教美術入門A（絵画）	1	2	
		仏教美術入門B（彫刻）	1	2	
		仏教美術研究A（天台）	2	2	
		仏教美術研究B（密教）	2	2	
		仏教美術研究C（浄土教）	2	2	
		仏画研究A	3	2	履修に際しては事前調整を行う。
		仏画研究B	3	2	
		仏像研究A	3	2	履修に際しては事前調整を行う。
		仏像研究B	3	2	
		写経研究A	2	2	
		写経研究B	2	2	
	統合系	プロジェクト実習A	3	2	履修に際しては事前調整を行う。
		プロジェクト実習B	3	2	
		プロジェクト実習C	3	2	
		仏教研修A	1 2 3 4	2	
		仏教研修B	1 2 3 4	2	３年に１回開講
		仏教研修C	1 2 3 4	2	
		仏教研修D	1 2 3 4	2	
		仏教フィールドワークA	1 2 3 4	2	４年に１回開講
		仏教フィールドワークB	1 2 3 4	2	
		仏教フィールドワークC	1 2 3 4	2	
		仏教フィールドワークD	1 2 3 4	2	
	現代社会系	教育と宗教	2	2	社会福祉学科開講
		仏教の人権論	2	2	
		仏教社会福祉論	2	2	
		宗教法人法	2	2	
		現代社会と仏教A	2	2	
		現代社会と仏教B	2	2	
		現代社会と仏教C	2	2	
		現代社会と仏教D	2	2	
		現代仏教文化研究	3	2	
	各宗系	選択集Ⅰ	3	2	
		選択集Ⅱ	3	2	
		時宗教理体系A	2	2	
		時宗教理体系B	2	2	
		時宗教団史研究A	2	2	
		時宗教団史研究B	2	2	
		日蓮教学概論	2	2	隔年開講
		禅学概論	2	2	隔年開講

次頁に続く

専門部門

専門部門 ― 宗学系

授業科目の名称	履修年次		単位	備　考
実践僧侶論	2		2	― 宗学コース必修
天台学教理体系A	2		2	
天台学教理体系B	2		2	
天台学宗典概説A	2		2	
天台学宗典概説B	2		2	
天台学教理研究A		3	2	
天台学教理研究B		3	2	
天台学教理研究C		3	2	
天台学教理研究D		3	2	
天台教団史研究A	2		2	
天台教団史研究B	2		2	
真言豊山学教理体系A	2		2	
真言豊山学教理体系B	2		2	
真言豊山学宗典概説A	2		2	
真言豊山学宗典概説B	2		2	
真言豊山学教理研究A		3	2	
真言豊山学教理研究B		3	2	
真言豊山学教理研究C		3	2	
真言豊山学教理研究D		3	2	
真言豊山教団史研究A	2		2	
真言豊山教団史研究B	2		2	
真言智山学教理体系A	2		2	
真言智山学教理体系B	2		2	
真言智山学宗典概説A	2		2	
真言智山学宗典概説B	2		2	
真言智山学教理研究A		3	2	
真言智山学教理研究B		3	2	
真言智山学教理研究C		3	2	
真言智山学教理研究D		3	2	
真言智山教団史研究A	2		2	
真言智山教団史研究B	2		2	
浄土学教理体系A	2		2	
浄土学教理体系B	2		2	
浄土学宗典概説A	2		2	
浄土学宗典概説B	2		2	
浄土学教理研究A		3	2	
浄土学教理研究B		3	2	
浄土学教理研究C		3	2	
浄土学教理研究D		3	2	
浄土教団史研究A	2		2	
浄土教団史研究B	2		2	

次頁に続く

法儀部門

法儀部門

授業科目の名称	履修年次		単位	備　考
天台宗法儀研究Ⅰ	1		2	宗学を主専攻とする者の選択科目 僧階資格登録が必要
天台宗法儀研究Ⅱ	1		2	
天台宗法儀研究Ⅲ		2	2	
天台宗法儀研究Ⅳ		2	2	
天台宗伝道学Ⅰ		3	2	
天台宗伝道学Ⅱ		3	2	
天台宗悉曇Ⅰ		3	2	
天台宗悉曇Ⅱ		3	2	
真言宗豊山法儀研究Ⅰ	1		2	
真言宗豊山法儀研究Ⅱ	1		2	
真言宗豊山法儀研究Ⅲ		2	2	
真言宗豊山法儀研究Ⅳ		2	2	
真言宗豊山伝道学Ⅰ		3	2	
真言宗豊山伝道学Ⅱ		3	2	
真言宗豊山悉曇Ⅰ		3	2	
真言宗豊山悉曇Ⅱ		3	2	
真言宗智山法儀研究Ⅰ	1		2	
真言宗智山法儀研究Ⅱ	1		2	
真言宗智山法儀研究Ⅲ		2	2	
真言宗智山法儀研究Ⅳ		2	2	
真言宗智山伝道学Ⅰ		3	2	
真言宗智山伝道学Ⅱ		3	2	
真言宗智山悉曇Ⅰ		3	2	
真言宗智山悉曇Ⅱ		3	2	
浄土宗法儀研究Ⅰ	1		2	
浄土宗法儀研究Ⅱ	1		2	
浄土宗法儀研究Ⅲ		2	2	
浄土宗法儀研究Ⅳ		2	2	
浄土宗伝道学Ⅰ		3	2	
浄土宗伝道学Ⅱ		3	2	
浄土宗詠唱Ⅰ		2	2	
浄土宗詠唱Ⅱ		2	2	
時宗法儀研究Ⅰ	1		1	
時宗法儀研究Ⅱ	1		1	
時宗法儀研究Ⅲ		2	1	
時宗法儀研究Ⅳ		2	1	

次頁に続く

		授業科目の名称	履修年次		単位	備　考
応用部門	応用部門	仏教学専門ゼミナールⅠ	3		2	8単位以上選択必修
		仏教学専門ゼミナールⅡ	3		2	
		仏教学専門ゼミナールⅢ		4	2	
		仏教学専門ゼミナールⅣ		4	2	
		天台学専門ゼミナールⅠ	3		2	
		天台学専門ゼミナールⅡ	3		2	
		天台学専門ゼミナールⅢ		4	2	
		天台学専門ゼミナールⅣ		4	2	
		真言豊山学専門ゼミナールⅠ	3		2	
		真言豊山学専門ゼミナールⅡ	3		2	
		真言豊山学専門ゼミナールⅢ		4	2	
		真言豊山学専門ゼミナールⅣ		4	2	
		真言智山学専門ゼミナールⅠ	3		2	
		真言智山学専門ゼミナールⅡ	3		2	
		真言智山学専門ゼミナールⅢ		4	2	
		真言智山学専門ゼミナールⅣ		4	2	
		浄土学専門ゼミナールⅠ	3		2	
		浄土学専門ゼミナールⅡ	3		2	
		浄土学専門ゼミナールⅢ		4	2	
		浄土学専門ゼミナールⅣ		4	2	
		国際教養専門ゼミナールⅠ	3		2	
		国際教養専門ゼミナールⅡ	3		2	
		国際教養専門ゼミナールⅢ		4	2	
		国際教養専門ゼミナールⅣ		4	2	
卒業論文・卒業研究		卒業論文		4	8	8単位選択必修
		卒業研究		4	8	

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし必ず学科の指導を受けること。

［1］別表の指示に従い履修すること。
［2］卒業までに124単位以上(第Ⅰ類科目は26単位)修得すること。
［3］必修を含めて第Ⅱ類科目を合計88単位以上修得すること。
　　ただし、30単位までは、他学科及び第Ⅲ類科目から充当することができる。
［4］第Ⅰ類科目余剰分(26単位を超えて修得した単位)は第Ⅲ類科目として認定する。

■ 先修制科目……以下の科目は順次履修すること。

- 天台宗法儀研究Ⅰ→天台宗法儀研究Ⅱ→天台宗法儀研究Ⅲ→天台宗法儀研究Ⅳ
- 天台宗悉曇Ⅰ→天台宗悉曇Ⅱ
- 真言宗豊山法儀研究Ⅰ→真言宗豊山法儀研究Ⅱ→真言宗豊山法儀研究Ⅲ→真言宗豊山法儀研究Ⅳ
- 真言宗豊山悉曇Ⅰ→真言宗豊山悉曇Ⅱ
- 真言宗智山法儀研究Ⅰ→真言宗智山法儀研究Ⅱ→真言宗智山法儀研究Ⅲ→真言宗智山法儀研究Ⅳ
- 真言宗智山悉曇Ⅰ→真言宗智山悉曇Ⅱ
- 浄土宗法儀研究Ⅰ→浄土宗法儀研究Ⅱ→浄土宗法儀研究Ⅲ→浄土宗法儀研究Ⅳ
- 浄土宗伝道学Ⅰ→浄土宗伝道学Ⅱ
- 浄土宗詠唱Ⅰ→浄土宗詠唱Ⅱ

教職科目

	授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
教職関連部門	日本史概説Ａ	2 3 4	2	教職資格登録者のみ履修可。
	日本史概説Ｂ	2 3 4	2	
	西洋史概説	2 3 4	4	
	東洋史概説	2 3 4	4	
	人文地理学Ｂ	2 3 4	2	
	自然地理学Ｂ	2 3 4	2	
	地誌学	2 3 4	2	
	法律学概論(国際法を含む。)	2 3 4	2	
	政治学概論(国際政治を含む。)	2 3 4	2	
	社会学入門	2 3 4	4	
	経済学概論(国際経済を含む。)	2 3 4	2	
	哲学入門	2 3 4	2	
	現代倫理学	2 3 4	2	
	宗教学入門	2 3 4	2	
	宗教史Ⅰ	2 3 4	2	
	宗教史Ⅱ	2 3 4	2	
	心理学概説	2 3 4	2	

■ 教職関連部門は、教職の資格登録を行っている者のみ履修することができる。
　また、履修制限単位の対象外とする。
■ 修得単位は、第Ⅲ類として認定する。
■ 教職の履修については、教職ガイダンス・資格要項にて確認すること。

第Ⅱ類科目

1.基礎ゼミナール

１年生を対象とした学科ごとのゼミナール。比較的少人数のクラス編成で、所属学科の学修内容のオリエンテーションをはじめ、専門課程の学修方法について学ぶ。また担当教員は、クラスの学生の学修全般、生活も気にかけている。気軽に相談してほしい。

2.学科の基礎・分野・方法研究

学科によって基礎科目および分野科目、方法研究科目などに分類されており、履修要件が異なるが、いずれも３年次の専門研究・専門ゼミナール、４年次の卒業論文・卒業研究に展開していくための科目群である。学科の教員の指導を受けながら効果的な科目選択が望まれる。

3.専門ゼミナール、卒業論文・卒業研究

３・４年次になると、学科の学修内容の特色が明確になってくると同時に、授業の形態・方法も多様なものになってくる。ワークショップや学外における実習、さらにフィールドワーク等が行われる学科もある。
また、卒業論文・卒業研究は、大学で学んだ学問の集大成であることを自覚し、よりよい成果があげられるよう、１年生のうちから十分な基礎学修を積み上げることが大切である。

第Ⅱ類科目

人間学部

社会福祉学科

人間環境学科

教育人間学科

人間学部　社会福祉学科

（第Ⅱ類科目）の履修について

社会福祉学科　DP
（ディプロマポリシー：卒業時に身についている能力）

知識・技能	・社会福祉学における人と社会を理解するために、必要な読解力と記述力、及び学問の方法を身につけている。 ・社会福祉学の価値・知識・技術を、人と社会への支援に活用する方法を身につけている。
思考・判断・表現	・学んだことを生かして、自らの生き方及び果たすべき責任や役割について考察を深めることができる。 ・社会福祉学領域の研究や方法を通じて、地域社会や身近な人々の間で生じている問題を発見し、その解決方法を判断し、不足する点の改善を図ることができる。 ・学んだ知識、実践知について自らの考えを他者に対して的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	・社会福祉学の学びから学習や研究課題を設定し、主体的に取り組む姿勢を有している。 ・他者と協働し、共生社会構築の役割を担う意欲をもっている。 ・多様な人々の価値観を受け止め、円滑な人間関係を築き、チームアプローチにより目標達成に向けて努力することができる。 ・グループの特性に応じて、適切なリーダーシップやメンバーシップを発揮する姿勢を有している。 ・自分自身の不足する点は率直に振り返り、自身の成長につなげることができる。 ・社会福祉学の価値・知識・技術を理解し活用できるよう、日々成果を蓄積しようとする意欲を持っている。

卒業論文・卒業研究（必修）

4年生

教育目標
4年間の学びをもとに、生活課題に対する解決策を提案することができる

3年生

教育目標
実習やインターンシップにおいて社会福祉学の価値・知識・技術を展開することができる

2年生

教育目標
専門的な社会福祉学の価値・知識・技術を身につけることができる

1年生

教育目標
社会福祉学の基礎的価値・知識・技術を身につけることができる

社会福祉士・精神保健福祉士　指定科目

社会　講義科目	社会・精神　共通講義科目	精神　講義科目	社会　実習・演習科目	精神　実習・演習科目
社会福祉調査論	医療福祉論	精神保健福祉援助技術各論	ソーシャルワーク演習Ⅴ	精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ
ソーシャルワーク論Ⅴ		精神保健福祉援助技術総論		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ・Ⅲ
福祉経営論		精神保健福祉論Ⅲ	ソーシャルワーク演習Ⅳ	精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱ
ソーシャルワーク論Ⅳ	福祉行財政・福祉計画論	精神科リハビリテーション学	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ
ソーシャルワーク論Ⅲ	地域福祉論Ⅱ	精神疾患とその治療	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	
就労支援論	福祉法学	精神保健学	ソーシャルワーク演習Ⅲ	
介護福祉論	医学概論	精神保健福祉論Ⅱ	ソーシャルワーク演習Ⅱ	
ソーシャルワーク論Ⅱ	公的扶助論	精神保健福祉論Ⅰ	社会福祉基礎実践	
司法福祉論	社会学		ソーシャルワーク演習Ⅰ	
児童福祉論	社会福祉原論Ⅱ			
高齢者福祉論	社会保障論Ⅱ			
	障害者福祉論			
	社会保障論Ⅰ			
	心理学			
	地域福祉論Ⅰ			

応用科目

実習・演習科目	アドバンス科目	講義科目
プロジェクト研究Ⅳ	ソーシャルワーク演習Ⅵ	社会福祉特講Ⅲ
プロジェクト研究Ⅲ	ソーシャルワーク実習Ⅱ	
プロジェクト研究Ⅱ	医療ソーシャルワーク論	社会福祉史
プロジェクト研究Ⅰ	スクールソーシャルワーク論	社会福祉特講Ⅱ
インターンシップⅡ	コミュニティソーシャルワーク論	現代貧困論
インターンシップⅠ		エンド・オブ・ライフケア論
		ユニバーサルデザイン論
		社会福祉特講Ⅰ

学科基礎科目（必修）

ソーシャルワーク論Ⅰ　社会福祉原論Ⅰ　基礎ゼミナールⅠ　基礎ゼミナールⅡ　社会福祉入門　仏教社会福祉論

学部共通

共生社会論（必修）　共生政策論　合意形成論　都市政策論　政策過程論　政策分析論　政治学概論　経済学概論　法律学概論

※ 社会：社会福祉士　※ 精神：精神保健福祉士

第Ⅱ類科目

	授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
学部共通部門	共生社会論	1	2	— 1科目2単位必修
	共生政策概論	1	2	
	合意形成論	1	2	
	都市政策論	1	2	
	政策過程論	1	2	
	政策分析論	1	2	
	政治学概論	1	2	
	経済学概論	1	2	
	法律学概論	1	2	
基礎部門	基礎ゼミナールⅠ	1	2	6科目12単位必修
	基礎ゼミナールⅡ	1	2	
	社会福祉入門	1	2	
	社会福祉原論Ⅰ	1	2	
	仏教社会福祉論	1	2	
	ソーシャルワーク論Ⅰ	1	2	
専門部門	社会福祉基礎実践	2	2	
	社会福祉史	3	2	
	社会福祉原論Ⅱ	2	2	
	社会保障論Ⅰ	1	2	
	社会保障論Ⅱ	2	2	
	公的扶助論	2	2	
	現代貧困論	3	2	
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2	2	
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2	2	
	ソーシャルワーク論Ⅳ	3	2	
	ソーシャルワーク論Ⅴ	3	2	
	ソーシャルワーク論Ⅵ	4	2	
	社会福祉調査論	3	2	
	福祉行財政・福祉計画論	3	2	
	福祉経営論	3	2	
	地域福祉論Ⅰ	1	2	
	地域福祉論Ⅱ	2	2	
	コミュニティソーシャルワーク論	3	2	
	ユニバーサルデザイン論	2	2	
	高齢者福祉論	2	2	
	介護福祉論	2	2	
	障害者福祉論	2	2	
	児童福祉論	2	2	
	スクールソーシャルワーク論	3	2	
	就労支援論	2	2	
	司法福祉論	2	2	
	福祉法学	2	2	
	心理学	1	2	
	社会学	2	2	
	精神保健福祉論Ⅰ	2	2	
	精神保健福祉論Ⅱ	2	2	
	精神保健福祉論Ⅲ	3	2	
	精神保健福祉援助技術総論	3	2	
	精神保健福祉援助技術各論	3	2	
	精神科リハビリテーション学	3	4	
	精神保健学	2	4	
	精神疾患とその治療	2	4	

次頁に続く

第Ⅱ類科目

	授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
専門部門 専門部門	医学概論	2	2	
	医療福祉論	3	2	
	医療ソーシャルワーク論	3	2	
	エンド・オブ・ライフケア論	2	2	
	社会福祉特講Ⅰ	2	2	
	社会福祉特講Ⅱ	3	2	
	社会福祉特講Ⅲ	4	2	
実習・演習部門 実習・演習部門	ソーシャルワーク演習Ⅰ	1	2	Ⅰ～Ⅱは先修制 Ⅲ～Ⅳは先修制
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	3	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	3	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅵ	4	2	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	2	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	4	
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	3	4	
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	4	2	
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	4	2	
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	4	2	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	2	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	2	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4	2	
	精神保健福祉援助実習Ⅰ	4	2	
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	4	3	
応用部門	プロジェクト研究Ⅰ	3	2	
	プロジェクト研究Ⅱ	3	2	
	プロジェクト研究Ⅲ	4	2	
	プロジェクト研究Ⅳ	4	2	
	インターンシップⅠ	2 3 4	2	
	インターンシップⅡ	3 4	2	
卒業論文・卒業研究	卒業論文	4	8	8単位選択必修
	卒業研究	4	8	

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

［1］別表の指示に従い履修すること。
［2］卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は26単位）修得すること。
［3］必修を含めて第Ⅱ類科目を合計88単位以上修得すること。
　　ただし、30単位までは、他学科及び第Ⅲ類科目から充当することができる。
［4］第Ⅰ類科目余剰分（26単位を超えて修得した単位）は第Ⅲ類科目として認定する。

■ 教職の履修については、教職ガイダンス・資格要項にて確認すること。
■ 精神保健福祉士指定科目の履修は別に定める条件を満たしていること。

第Ⅱ類科目

社会福祉士 指定科目

法定科目	本学開講科目	単位数	備考
人体の構造と機能及び疾病	医学概論	2	うち１科目選択
心理学理論と心理的支援	心理学	2	
社会理論と社会システム	社会学	2	
現代社会と福祉	社会福祉原論Ⅰ	2	必修
	社会福祉原論Ⅱ	2	
社会調査の基礎	社会福祉調査論	2	
相談援助の基盤と専門職	ソーシャルワーク論Ⅰ	2	
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2	
相談援助の理論と方法	ソーシャルワーク論Ⅲ	2	
	ソーシャルワーク論Ⅳ	2	
	ソーシャルワーク論Ⅴ	2	
	ソーシャルワーク論Ⅵ	2	
地域福祉の理論と方法	地域福祉論Ⅰ	2	
	地域福祉論Ⅱ	2	
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政・福祉計画論	2	
福祉サービスの組織と経営	福祉経営論	2	
社会保障	社会保障論Ⅰ	2	
	社会保障論Ⅱ	2	
高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者福祉論	2	
	介護福祉論	2	
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	2	
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童福祉論	2	
低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	2	
保健医療サービス	医療福祉論	2	
就労支援サービス	就労支援論	2	うち１科目選択
権利擁護と成年後見制度	福祉法学	2	
更生保護制度	司法福祉論	2	
相談援助演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	必修 1年次履修
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	2年次履修
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	2年次履修
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	3年次履修
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	4年次履修
相談援助実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	2年次履修
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4	3年次履修
相談援助実習	ソーシャルワーク実習Ⅰ	4	3年次履修、180時間実習

精神保健福祉士 指定科目

法定科目	本学開講科目	単位数	備考
人体の構造と機能及び疾病	医学概論	2	うち１科目選択
心理学理論と心理的支援	心理学	2	
社会理論と社会システム	社会学	2	
現代社会と福祉	社会福祉原論Ⅰ	2	必修
	社会福祉原論Ⅱ	2	
地域福祉の理論と方法	地域福祉論Ⅰ	2	
	地域福祉論Ⅱ	2	
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政・福祉計画論	2	
社会保障	社会保障論Ⅰ	2	
	社会保障論Ⅱ	2	
低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	2	
保健医療サービス	医療福祉論	2	
権利擁護と成年後見制度	福祉法学	2	
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	2	
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	4	
精神保健の課題と支援	精神保健学	4	
精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	ソーシャルワーク論Ⅰ	2	
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	精神保健福祉援助技術総論	2	
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健福祉援助技術各論	2	
	精神科リハビリテーション学	4	
精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉論Ⅰ	2	
	精神保健福祉論Ⅱ	2	
精神障害者の生活支援システム	精神保健福祉論Ⅲ	2	
精神保健福祉援助演習（基礎）	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	1年次履修
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	2年次履修
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	2年次履修
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	3年次履修
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	4年次履修
精神保健福祉援助演習（専門）	精神保健福祉援助演習Ⅰ	2	4年次履修
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	2	4年次履修
精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2	3年次履修
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2	4年次履修
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	2	4年次履修
精神保健福祉援助実習	精神保健福祉援助実習Ⅰ	2	4年次履修、90時間実習
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	3	4年次履修、120時間実習

履修についての注意事項

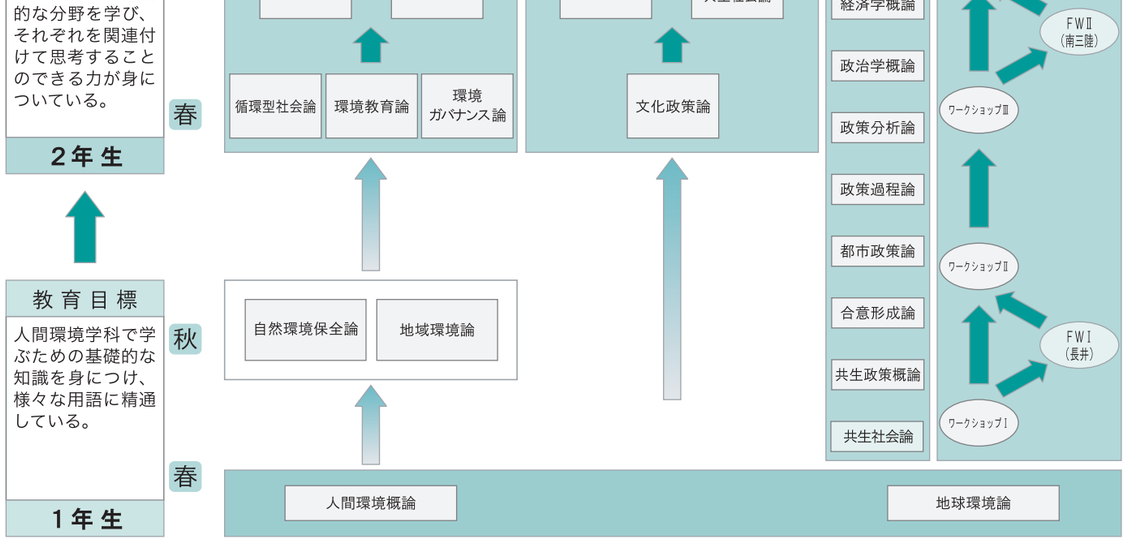
１）演習・実習費を別途徴収する。
２）詳細な内容はガイダンスで説明する。

人間学部　人間環境学科

（第Ⅱ類科目）の履修について

人間環境学科　DP（ディプロマポリシー：卒業時に身についている能力）

知識・理解	人間環境分野の学びに関する幅広い知識と人間環境分野に学術的に取り組むための研究方法を身に付けている。
思考・判断・表現	人間環境分野の学修内容と研究方法の核心を理解し、現実社会の中で活用できる。 「環境」及び「観光まちづくり」の学問領域を中心に、さまざまな事象を多面的かつ学際的に思考することができる。 「環境」の分野において、生活者としての視点からの問いと意見を創造するとともに、それを論理的に表現することができる。
関心・意欲・態度	より良い社会の形成と発展に寄与していくために、「環境」及び「観光まちづくり」分野の学術的成果を、主体的かつ実践的に活かそうとする姿勢を身に付けている。 人が「社会」や「自然」とよりよく共存していくための行動力やコミュニケーション能力を身に付けようとする姿勢とともに、目標達成に向けた協働性を有している。



第Ⅱ類科目

		授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
○学部共通部門	学部共通部門	共生社会論	1	2	— 1科目2単位必修
		共生政策概論	1	2	
		合意形成論	1	2	
		都市政策論	1	2	
		政策過程論	1	2	
		政策分析論	1	2	
		政治学概論	1	2	
		経済学概論	1	2	
		法律学概論	1	2	
○基礎部門	学科共通	人間環境概論	1	2	— 2単位必修
		地球環境論	1	2	— 2単位必修
		地域環境論	1	2	— 2単位必修
○専門部門	環境系科目群	自然環境保全論	1	2	
		環境ガバナンス論	2	2	
		環境社会学	2	2	
		循環型社会論	2	2	
		環境コミュニケーション論	3	2	
		環境法	3 4	2	
		社会調査法	3 4	2	
		環境経済学	3 4	2	
		環境教育論	2	2	
		環境実践研究	2	2	
		グリーンインフラ論	3 4	2	
		脱炭素社会論	3 4	2	
	観光まちづくり科目群	観光学基礎論	2	2	
		自然遺産論	3	2	
		文化政策論	2	2	
		多文化共生社会論	2	2	
		レジャー・レクリエーション論	3	2	
		文化とメンタルヘルス	3	2	
		観光マネジメント論	3	2	
		スポーツツーリズム論	3 4	2	
		観光プロモーション論	3 4	2	
		観光資源論	3 4	2	
		観光まちづくり論A	3 4	2	
		観光まちづくり論B	3 4	2	
		観光マーケティング論	3 4	2	
	共生社会科目群	地域福祉政策論	3 4	2	
		働き方改革政策論	3 4	2	
		シチズンシップ論	3 4	2	

		授業科目の名称	履修年次	単位	
○専門部門	専門部門実践科目群	ワークショップⅠ	1	4	
		ワークショップⅡ	1	4	
		ワークショップⅢ	2	4	
		ワークショップⅣ	2	4	
		ワークショップⅤ	3	2	
		ワークショップⅥ	3	2	
		ワークショップⅦ	4	2	
		ワークショップⅧ	4	2	
		フィールドワークⅠ	1	2	
		フィールドワークⅡ	2	2	
○卒業論文・卒業研究		卒業論文	4	8	選択必修
		卒業研究	4	8	

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

［1］別表の指示に従い履修すること。
［2］卒業までに124単位以上(第Ⅰ類科目は26単位)修得すること。
［3］必修を含めて第Ⅱ類科目を合計88単位以上修得すること。
　　ただし、30単位までは、他学科第Ⅱ類科目及び第Ⅲ類科目から充当することができる。
［4］第Ⅰ類科目余剰分(26単位を超えて修得した単位)は第Ⅲ類科目として認定する。

人間学部　教育人間学科　教職コース、教育・学校経営マネジメントコース

（第Ⅱ類科目）の履修について

教育人間学科　DP
（ディプロマポリシー：卒業時に身についている能力）

知識・技能	・教育学、教職専門学、学校（大学）経営等の諸分野について、基礎的な専門知識を身につけている。 ・上記の学問知を自らの実践知（実践的行動）へと適用・応用することができる。 ・教育現場の問題解決のために必要な知識・技能を身につけている。 ・基礎的な研究方法や読み書き作文能力を身につけている。
思考・判断・表現	・上記の学問知、実践知によって身の回りや社会における諸問題を自ら発見・分析し、解決方法について考察することができる。 ・上記の学問知、実践知について、自らの考えを他者に対して口頭あるいは文章で適確に表現することができる。
関心・意欲・態度	・教育及び人を育てることに強い関心があり、その多様な方法や価値観について日々学び続けようとする姿勢を有している。 ・上記の学問知、実践知を活かして、社会、地域社会における自らの責任と具体的な役割を考えようとする態度が身についている。 ・上記の学問知、実践知をもって社会（コミュニティ）が抱えている課題に、他者と協働して解決しようとする意欲を有している。

卒業論文・卒業研究

卒業論文・卒業研究

教育目標

4年生
秋　教育学に関する専門的知識、技能応用力の習得　春

3年生
秋　教育学に関する専門的知識・技能の習得　春

2年生
秋　教育学に関する基礎的知識・技能の習得　春

1年生
秋　教育学に関する基礎的知識の習得　春

教育人間学

【発展部門】
- 人と文化をつくる宗教
- 生活のなかの宗教
- 科学と宗教の歴史
- 文化からみる世界史
- 東と西の思想史
- 美学の歴史
- いのちの倫理
- 教育者のための哲学
- 伝統民俗を活かす教育
- 伝統礼法と教育
- 環境への責任を考える
- こころの教育を考える
- マナーと人間関係を考える
- 臨床発達心理学
- パーソナリティの心理学
- 宗教と教育の関係
- 対立と対話
- 教育と社会
- 現代社会の倫理を考える
- いのちの教育を考える

- 宗教学の基礎
- 社会心理学の基礎
- 社会学の基礎
- 教育心理学の基礎
- 教育学の基礎
- 哲学の基礎

実践としての教育

【教職課程】
- 教育実習
- 教職実践演習

- 社会・地歴科教育法Ⅱ
- 社会・公民科教育法Ⅱ
- 社会・地歴科教育法Ⅰ
- 社会・公民科教育法Ⅰ
- 教育課程論Ⅱ
- 教育相談
- 教育課程論Ⅰ
- 生徒・進路指導論
- 教育制度論
- 教育方法論
- 学習・発達論
- 総合的な学習の時間及び特別活動の指導法
- 教育基礎論
- 道徳教育の指導法

- 現代教職論
- 現在の教育問題
- 教育の現場を知るⅡ
- 教育の現場を知るⅠ

ゼミナール

- 教育人間学専門ゼミナールⅣ
- 教育人間学専門ゼミナールⅢ
- 教育人間学専門ゼミナールⅡ
- 教育人間学専門ゼミナールⅠ
- 教育キャリアゼミナールⅡ
- 教育キャリアゼミナールⅠ
- 基礎ゼミナールⅡ
- 基礎ゼミナールⅠ

マネジメント

- 最新の高等教育事情
- 教育マネジメントC
- 教育マネジメントB
- 教育マネジメントA
- 財務分析演習
- 職員業務の現場演習
- 実務で使う統計
- 学校会計演習
- キャリア教育概論
- 教育と学生支援
- 広報戦略
- 学生募集戦略
- 大学の組織と戦略
- 教育法規入門
- 高等教育論入門
- 大学・学校職員論

スポーツマネジメント科目群

- スポーツコーチング論
- スポーツマネジメント論B「マネジメント」
- スポーツマネジメント論A「マーケティング」
- スポーツ栄養学

地域スポーツ科目群

- 地域スポーツ政策論C「生涯スポーツ論」
- 地域スポーツ政策論B「学校と地域連携」
- 地域スポーツ政策論A「スポーツ振興施策」

基礎科目群

- スポーツ経営管理論
- スポーツ社会学
- スポーツ救急処置論
- 自然の探究C「スポーツ演習」

実習科目群

- フィールドワーク
- インターンシップ

［学部共通］
共生社会論　共生政策概論　合意形成論　都市政策論　政策過程論　政策分析論　政治学概論　経済学概論　法律学概論

第Ⅱ類科目

		授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
学部共通部門	学部共通部門	共生社会論	1	2	― 1科目2単位必修
		共生政策概論	1	2	
		合意形成論	1	2	
		都市政策論	1	2	
		政策過程論	1	2	
		政策分析論	1	2	
		政治学概論	1	2	
		経済学概論	1	2	
		法律学概論	1	2	
導入部門	導入部門	基礎ゼミナールⅠ	1	2	┐ 4科目8単位必修
		基礎ゼミナールⅡ	1	2	
		教育キャリアゼミナールⅠ	2	2	
		教育キャリアゼミナールⅡ	2	2	┘
		社会学の基礎	1	4	
		教育心理学の基礎	1	2	
		社会心理学の基礎	1	2	
		哲学の基礎	1	2	
		宗教学の基礎	1	2	
		教育学の基礎	1	4	― 1科目4単位必修
		現在の教育問題	1	2	
		教育の現場を知るⅠ	1	1	┐ Ⅱの履修はⅠの修得済みを条件とする
		教育の現場を知るⅡ	1	1	┘
発展部門	A群 教育の基礎としての人間・文化理解	教育者のための哲学	1 2	2	※発展部門から30単位以上
		教育者のための倫理学	2 3	2	
		いのちの倫理	1 2	2	
		人と文化をつくる宗教	2 3	2	
		生活のなかの宗教	1 2	2	
		文化からみる日本史	2 3	2	
		文化からみる世界史	1 2	2	
		科学と宗教の歴史	1 2	2	
		東と西の思想史	1 2	2	
		美学の歴史	1 2	2	
	B群 現代人の問題と教育	パーソナリティの心理学	1 2	2	
		臨床発達心理学	1 2	2	
		こころの教育を考える	2 3	2	
		いのちの教育を考える	2 3	2	
		マナーと人間関係を考える	2 3	2	
		現代社会の倫理を考える	2 3	2	
		環境への責任を考える	2 3	2	
		伝統民俗を活かす教育	2 3	2	
		伝統礼法と教育	2 3	2	
		対立と対話	2 3	2	
		宗教と教育の関係	2 3	2	
	C群 実践としての教育	現代教職論	1 2	2	
		教育基礎論	2 3	2	
		学習・発達論	2 3	2	
		教育制度論	2 3	2	
		教育と社会	2 3	2	
		教育課程論Ⅰ	2 3	2	
		教育課程論Ⅱ	2 3	2	
	D群	社会・地歴科教育法Ⅰ	2 3	2	
		社会・地歴科教育法Ⅱ	2 3	2	
		社会・公民科教育法Ⅰ	2 3	2	
		社会・公民科教育法Ⅱ	2 3	2	
		国際理解教育論	2 3	2	

次頁に続く

第Ⅱ類科目

		授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
	D群 教育・学校経営におけるマネジメント	道徳教育の指導法	2 3	2	
		総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	2 3	2	
		教育方法論	2 3	2	
		生徒・進路指導論	2 3	2	
		教育相談	2 3	2	
		教育・現場体験	2 3	1	
		高等教育論入門	1	2	
		教育法規入門	1	2	
		大学・学校職員論	1	2	
		大学の組織と戦略	2 3	2	
		学生募集戦略	2 3	2	
		広報戦略	2 3	2	
		教育と学生支援	2 3	2	
		キャリア教育概論	2 3	2	
		学校会計演習	2 3	2	
		実務で使う統計	2 3	2	
		職員業務の現場演習	3 4	2	
		財務分析演習	3 4	2	― この科目の履修は学校会計演習の修得済みを条件とする
		財務計画演習	3 4	2	
		教育マネジメントA	3 4	2	
		教育マネジメントB	3 4	2	
		教育マネジメントC	3 4	2	
		最新の高等教育事情	4	2	
		地域教育論	4	2	
		多文化共生論	4	2	
		フィールドワーク	4	2	
	E群 スポーツプログラム	スポーツ救急処置論	1	2	
		スポーツ社会学	1	2	
		スポーツ経営管理論	2	2	
		スポーツ栄養学	2	2	
		スポーツマネジメント論A	2	2	
		スポーツマネジメント論B	3	2	
		スポーツコーチング論	3	2	
		地域スポーツ政策論A	2	2	
		地域スポーツ政策論B	3	2	
		地域スポーツ政策論C	3	2	
		環境教育論	3	2	
専門ゼミナール部門		教育人間学専門ゼミナールⅠ	3	2	
		教育人間学専門ゼミナールⅡ	3	2	
		教育人間学専門ゼミナールⅢ	4	2	
		教育人間学専門ゼミナールⅣ	4	2	
		教育人間学特別研究Ⅰ	3 4	2	
		教育人間学特別研究Ⅱ	3 4	2	
卒業論文・卒業研究		卒業論文	4	8	┐ 8単位選択必修
		卒業研究	4	8	┘

※印の単位数は「必修」ではなく、「履修することが強く望まれる単位数」を示す。

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

［1］別表の指示に従い履修すること。
［2］卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は26単位）修得すること。
［3］必修を含めて第Ⅱ類科目を合計88単位以上修得すること。
　　ただし、30単位までは、他学科第Ⅱ類科目及び第Ⅲ類科目から充当することができる。
［4］第Ⅰ類科目余剰分（26単位を超えて修得した単位）は第Ⅲ類科目として認定する。

■ 先修制科目……以下の科目は順次履修すること。
教育の現場を知るⅠ→教育の現場を知るⅡ
学校会計演習→財務分析演習

教職科目

	授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
教職関連部門	日本史概説Ａ	2 3 4	2	教職資格登録者のみ履修可。
	日本史概説Ｂ	2 3 4	2	
	西洋史概説	2 3 4	4	
	東洋史概説	2 3 4	4	
	人文地理学Ｂ	2 3 4	2	
	自然地理学Ｂ	2 3 4	2	
	地誌学	2 3 4	2	
	法律学概論（国際法を含む。）	2 3 4	2	
	政治学概論（国際政治を含む。）	2 3 4	2	
	経済学概論（国際経済を含む。）	2 3 4	2	

- 教職関連部門は、教職の資格登録を行っている者のみ履修することができる。
- 修得単位は、第Ⅲ類科目として認定する。
- 教職の履修については、教職ガイダンス・資格要項にて確認すること。

1.基礎ゼミナール

１年生を対象とした学科ごとのゼミナール。比較的少人数のクラス編成で、所属学科の学修内容のオリエンテーションをはじめ、専門課程の学修方法について学ぶ。また担当教員は、クラスの学生の学修全般、生活も気にかけている。気軽に相談してほしい。

2.学科の基礎・分野・方法研究

学科によって基礎科目および分野科目、方法研究科目などに分類されており、履修要件が異なるが、いずれも３年次の専門研究・専門ゼミナール、４年次の卒業論文・卒業研究に展開していくための科目群である。学科の教員の指導を受けながら効果的な科目選択が望まれる。

3.専門ゼミナール、卒業論文・卒業研究

３・４年次になると、学科の学修内容の特色が明確になってくると同時に、授業の形態・方法も多様なものになってくる。ワークショップや学外における実習、さらにフィールドワーク等が行われる学科もある。
また、卒業論文・卒業研究は、大学で学んだ学問の集大成であることを自覚し、よりよい成果があげられるよう、１年生のうちから十分な基礎学修を積み上げることが大切である。

心理社会学部　人間科学科

（第Ⅱ類科目）の履修について

人間科学科　DP
（ディプロマポリシー：卒業時に身についている能力）

知識・理解	・「Life（人びとの人生・生活）」に関して社会学・心理学及び身体科学の観点から領域横断的な知識を有している。 ・人間科学に関する実験・調査・観察などの技能を身につけ、「Life」について科学的にアプローチすることができる。
思考・判断・表現	・「Life」について複眼的に思考し、それに基づいて判断できる。 ・根拠に基づいて論理的に表現することができる。
関心・意欲・態度	・「Life」に関する多様な課題に関心を抱き、自ら調査・分析し、解決しようとする意欲を有している。 ・今日的な課題に対して、時流にとらわれることなく、主体的な態度で向き合うとともに、他者と協働して解決しようとする姿勢を身につけている。

教育目標
3年生までに学んだ知識、方法論をもとにして、自分の興味あるテーマについて問題・課題を設定し、複眼的に研究していこう。
4年生

教育目標
自分の興味あるテーマについて学術的に探求していこう。
3年生

教育目標
心理学・社会学を中心とした研究方法と人間科学の幅広い領域を学びながら、どのような領域をより深めていくかを考えていこう。
2年生

教育目標
人間科学科の学びの基礎を修得しよう。
1年生

卒業論文

4年
演習（研究の実践）
- 卒業論文
- 人間科学専門演習Ⅰ・Ⅱ/応用演習Ⅰ・Ⅱ
- 社会調査実習

3年
- 論理的な思考と協働
- 人間社会・心理についての多面的な知識・現代的課題への複眼的思考
  - 現代社会生活：仕事の社会学／文化の社会学／社会問題論／社会心理学／現代社会論／家族の社会学／生活環境の社会学／都市と地域の社会学／職場の社会学／人口と社会／情報と社会／出版文化論／コミュニケーションの心理学
  - 人間発達：発育発達と運動／認知社会心理学／感情心理学／親と子の発達心理学／健康心理学／生命科学／身体活動の科学／脳と心／基礎心理学／心の認知科学／生涯発達心理学／老いの社会学／動物と人間の心理学／コミュニケーション論
  - 現代心理社会：メディアと社会／人生課題と法律／非行犯罪臨床心理学／ライフコース論／ジェンダー論／コミュニティ心理学／パーソナリティ心理学／青年期とアイデンティティ
- 分析力と表現力：心理学研究法C／社会統計学Ⅱ／質的社会調査法／社会調査法C／社会統計学Ⅰ／心理学研究法B／社会調査法B／社会学の理論と方法

2年
- 文献（原書）講読：人間科学特別研究A／人間科学特別研究B
- 演習（研究法の実践）：身体科学実験基礎演習／心理学実験基礎演習Ⅰ／心理学実験基礎演習Ⅱ／社会学基礎演習Ⅰ／社会学基礎演習Ⅱ

1年
- 基礎（学科）：人間科学の基礎／基礎ゼミナールⅠ／基礎ゼミナールⅡ／身体科学の基礎
- 基礎（学部共通）：心理社会研究入門／心理学の基礎A・B／社会学の基礎A・B
- 研究法の理解：心理学研究法A／社会調査法A

		授業科目の名称	履修年次	単位	備考
学部共通部門	基礎科目	心理社会研究入門	1	2	― 1科目2単位必修
		心理学の基礎A	1	2	3科目6単位以上選択必修
		心理学の基礎B	1	2	
		社会学の基礎A	1	2	
		社会学の基礎B	1	2	
		心理学研究法A	1	2	※
		社会調査法A	1	2	※
	現代心理社会科目	パーソナリティ心理学	1	2	2科目4単位以上選択必修
		青年期とアイデンティティ	1	2	
		非行犯罪臨床心理学	2	2	
		ライフコース論	2	2	
		ジェンダー論	2	2	
		コミュニティ心理学	2	2	
		メディアと社会	3	2	
		人生課題と法律	3	2	
基礎部門	基礎部門	人間科学の基礎	1	2	3科目6単位必修
		基礎ゼミナールⅠ	1	2	
		基礎ゼミナールⅡ	1	2	
		身体科学の基礎	1	2	※
研究法部門	研究法部門	心理学研究法B	2	2	1科目2単位以上選択必修
		社会学の理論と方法	2	2	
		心理学研究法C	3	2	
		身体科学実験基礎演習	2	2	
		心理学実験基礎演習Ⅰ	2	2	
		心理学実験基礎演習Ⅱ	2	2	
		社会学基礎演習Ⅰ	2	2	
		社会学基礎演習Ⅱ	2	2	
		社会調査法B	2	2	
		社会調査法C	2	2	
		社会統計学Ⅰ	2	2	
		社会統計学Ⅱ	3	2	
		質的社会調査法	3	2	
		社会調査実習	3	4	
専門部門	専門部門（人間発達科目（A群））	生命科学	2	2	A群とB群から各10単位 A群とB群から合計32単位以上選択必修
		身体活動の科学	2	2	
		発育発達と運動	3	2	
		脳と心	2	2	
		基礎心理学	2	2	
		心の認知科学	2	2	
		認知社会心理学	3	2	
		感情心理学	3	2	
		生涯発達心理学	2	2	
		親と子の発達心理学	3	2	
		老いの社会学	2	2	
		健康心理学	3	2	
		動物と人間の心理学	2	2	

次頁に続く

第Ⅱ類科目

		授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
専門部門	専門部門 現代社会生活科目（B群）	社会心理学	2	2	A群とB群から各10単位 A群とB群から合計32単位 以上選択必修
		コミュニケーション論	2	2	
		コミュニケーションの心理学	1	2	
		現代社会論	2	2	
		家族の社会学	2	2	
		生活環境の社会学	2	2	
		都市と地域の社会学	2	2	
		職場の社会学	2	2	
		仕事の社会学	3	2	
		文化の社会学	3	2	
		人口と社会	2	2	
		情報と社会	2	2	
		出版文化論	2	2	
		社会問題論	3	2	
	特別研究	人間科学特別研究Ａ	2	2	
		人間科学特別研究Ｂ	2	2	
	演習科目	人間科学専門演習Ⅰ	3	2	2科目4単位必修
		人間科学専門演習Ⅱ	3	2	
		人間科学応用演習Ⅰ	3	2	
		人間科学応用演習Ⅱ	3	2	
卒業論文		卒業論文	4	8	8単位必修

※印の単位数は「必修」ではないが、「履修指導（履修することが強く望まれる単位数）」を示す。

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

［1］別表の指示に従い履修すること。
［2］卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は26単位）修得すること。
［3］必修を含めて第Ⅱ類科目を合計88単位以上修得すること。
　　ただし、30単位までは、他学科及び第Ⅲ類科目から充当することができる。
［4］第Ⅰ類科目余剰分（26単位を超えて修得した単位）は第Ⅲ類科目として認定する。

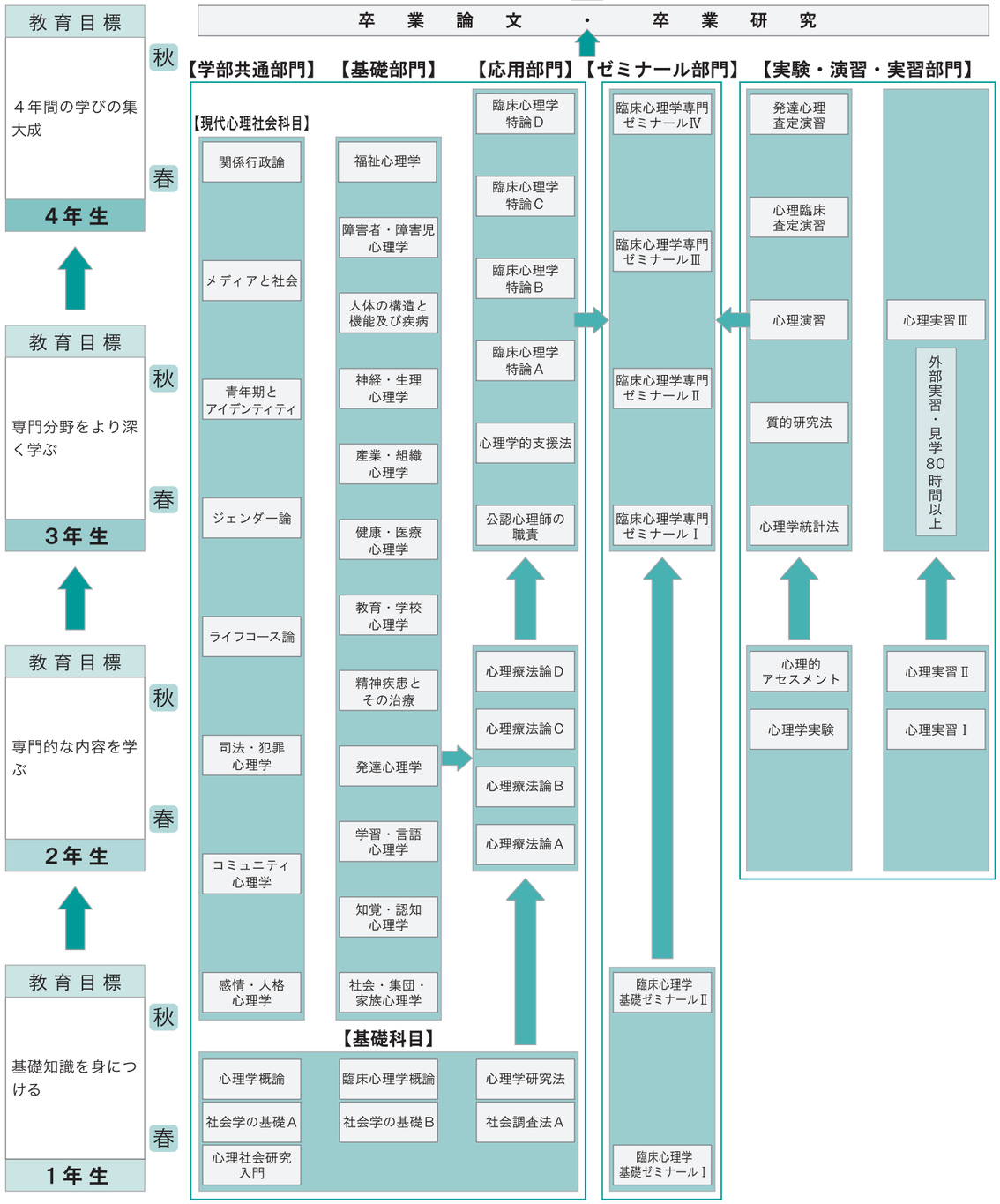
■ 先修制科目　以下の科目は順次履修すること。
心理学研究法Ａ→心理学実験基礎演習Ⅰ
心理学実験基礎演習Ⅰ→心理学実験基礎演習Ⅱ
心理学実験基礎演習Ⅱ→心理学研究法Ｃ
社会調査法Ａ→社会調査法Ｂ
社会調査法Ｃ→質的社会調査法
社会調査法Ｃおよび社会統計学Ⅰ　＞社会統計学Ⅱ
心理学研究法Ａおよび心理学研究法Ｂ　＞社会統計学Ⅱ
社会調査実習の履修希望者は、社会調査法Ａおよび社会調査法Ｂの2科目4単位、
社会調査法Ｃまたは社会統計学Ⅰの2科目のうち1科目2単位以上を修得済みとする。

■ 人間科学専門演習と人間科学応用演習は同じ教員が行うⅠおよびⅡを履修し、Ⅰ、Ⅱの順に受講することを原則とする。

心理社会学部　臨床心理学科　（第Ⅱ類科目）の履修について

心理社会学部 臨床心理学科 DP
（ディプロマポリシー：卒業時に身についている能力）

知識・理解	・臨床心理学の諸理論と技法の基本と核心を理解している。 ・心理学諸分野の基本的な研究方法を身につけ、現実社会の中で活用できる。
思考・判断・表現	・客観性を重視する科学的視点と共感性を軸とする臨床的視点の両方を身につけ、多面的かつ多角的な判断ができる。 ・専門的文献を正確に理解するとともに、自らの問題意識を学術的に論証していくための方法を身につけ、学習成果や考察を的確に表現し、伝達することができる。
関心・意欲・態度	・互いの個性や多様な価値観を尊重しながら他者と協働し、自らの学びや人間関係を構築しようとする姿勢を有している。 ・臨床心理実践の学びを通して、一般社会人として不可欠な倫理やモラルを心得るとともに、責任ある社会人として行動しようとする態度を身につけている。



第Ⅱ類科目

		授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
学部共通部門	基礎科目	心理社会研究入門	1	2	1科目2単位必修
		社会学の基礎A	1	2	3科目6単位以上選択必修
		社会学の基礎B	1	2	
		心理学概論	1	2	
		臨床心理学概論	1	2	
		社会調査法A	1	2	
		心理学研究法	1	2	1科目2単位必修
	現代心理社会科目	感情・人格心理学	1 2 3 4	2	選択科目
		コミュニティ心理学	2 3 4	2	
		司法・犯罪心理学	2 3 4	2	
		ライフコース論	2 3	2	
		ジェンダー論	2 3	2	
		青年期とアイデンティティ	2 3	2	
		メディアと社会	3 4	2	
		関係行政論	3 4	2	
ゼミナール部門	ゼミナール部門	臨床心理学基礎ゼミナールⅠ	1	2	6科目12単位必修
		臨床心理学基礎ゼミナールⅡ	1	2	
		臨床心理学専門ゼミナールⅠ	3	2	
		臨床心理学専門ゼミナールⅡ	3	2	
		臨床心理学専門ゼミナールⅢ	4	2	
		臨床心理学専門ゼミナールⅣ	4	2	
基礎部門	基礎部門	社会・集団・家族心理学	1 2 3 4	2	選択科目
		知覚・認知心理学	1 2 3 4	2	
		学習・言語心理学	1 2 3 4	2	
		発達心理学	2 3 4	2	
		精神疾患とその治療	2 3 4	4	
		教育・学校心理学	2 3 4	2	
		健康・医療心理学	2 3 4	2	
		産業・組織心理学	2 3 4	2	
		神経・生理心理学	2 3 4	2	
		人体の構造と機能及び疾病	2 3 4	2	
		障害者・障害児心理学	2 3 4	2	
		福祉心理学	2 3 4	2	
実験・演習・実習部門	実験・演習・実習部門	心理学実験	2	4	2科目6単位必修
		心理的アセスメント	2	2	
		心理学統計法	3 4	2	選択科目
		質的研究法	3 4	2	
		心理演習	3 4	4	
		心理臨床査定演習	3 4	4	
		発達心理査定演習	3 4	4	
		心理実習Ⅰ	2	1	2科目2単位必修
		心理実習Ⅱ	2	1	
		心理実習Ⅲ	3 4	4	選択科目

次頁に続く

第Ⅱ類科目

		授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
応用部門	応用部門	公認心理師の職責	3 4	2	選択科目
		心理学的支援法	3 4	2	
		心理療法論A	2 3 4	2	
		心理療法論B	2 3 4	2	
		心理療法論C	2 3 4	2	
		心理療法論D	2 3 4	2	
		臨床心理学特論A	3 4	2	
		臨床心理学特論B	3 4	2	
		臨床心理学特論C	3 4	2	
		臨床心理学特論D	3 4	2	
卒業論文・卒業研究		卒業論文	4	8	8単位選択必修
		卒業研究	4	8	

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

［1］別表の指示に従い履修すること。
［2］卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は26単位）修得すること。
［3］必修を含めて第Ⅱ類科目を合計88単位以上修得すること。
　　ただし、30単位までは、他学科第Ⅱ類科目及び第Ⅲ類科目から充当することができる。
［4］第Ⅰ類科目余剰分（26単位を超えて修得した単位）は第Ⅲ類科目として認定する。

■ 先修制科目……以下の科目は順次履修すること。
心理学研究法 ― 心理学実験　心理的アセスメント ― 心理臨床査定演習、発達心理査定演習
心理実習Ⅰ・Ⅱ ― 心理実習Ⅲ

心理社会学部臨床心理学科

1.基礎ゼミナール

１年生と２年生を対象とした入門科目。比較的少人数のクラス編成で、所属コースの、専門科目学修の基礎について学ぶ。学生は、担当教員に勉強のほか生活についての悩みなども気楽に相談できるようになって、有意義な出会いの場となる。

2.学科の基礎部門・分野部門

学科によって基礎科目および分野科目、専門研究科目などに分類されている科目。いずれも１～２年生で履修し、３年次の課題研究、専門演習、４年次の卒業論文・卒業研究に展開していくための科目群である。学科の教員の指導を受けながら効果的な科目選択が望まれる。

3.課題研究、専門演習、卒業論文

３・４年次になると、学科の学修内容の特色が明確になってくる。授業の形態・方法も異なり、学科によっては、学外における実習、さらにフィールドワーク等も行われる。
また、卒業論文は、大学において研究した学問の集大成である。学生は、このことを自覚し、よりよい成果があげられるよう、あらかじめ十分な基礎学修を積み上げておくことが大切である。

第Ⅱ類科目

文学部

人文学科

日本文学科

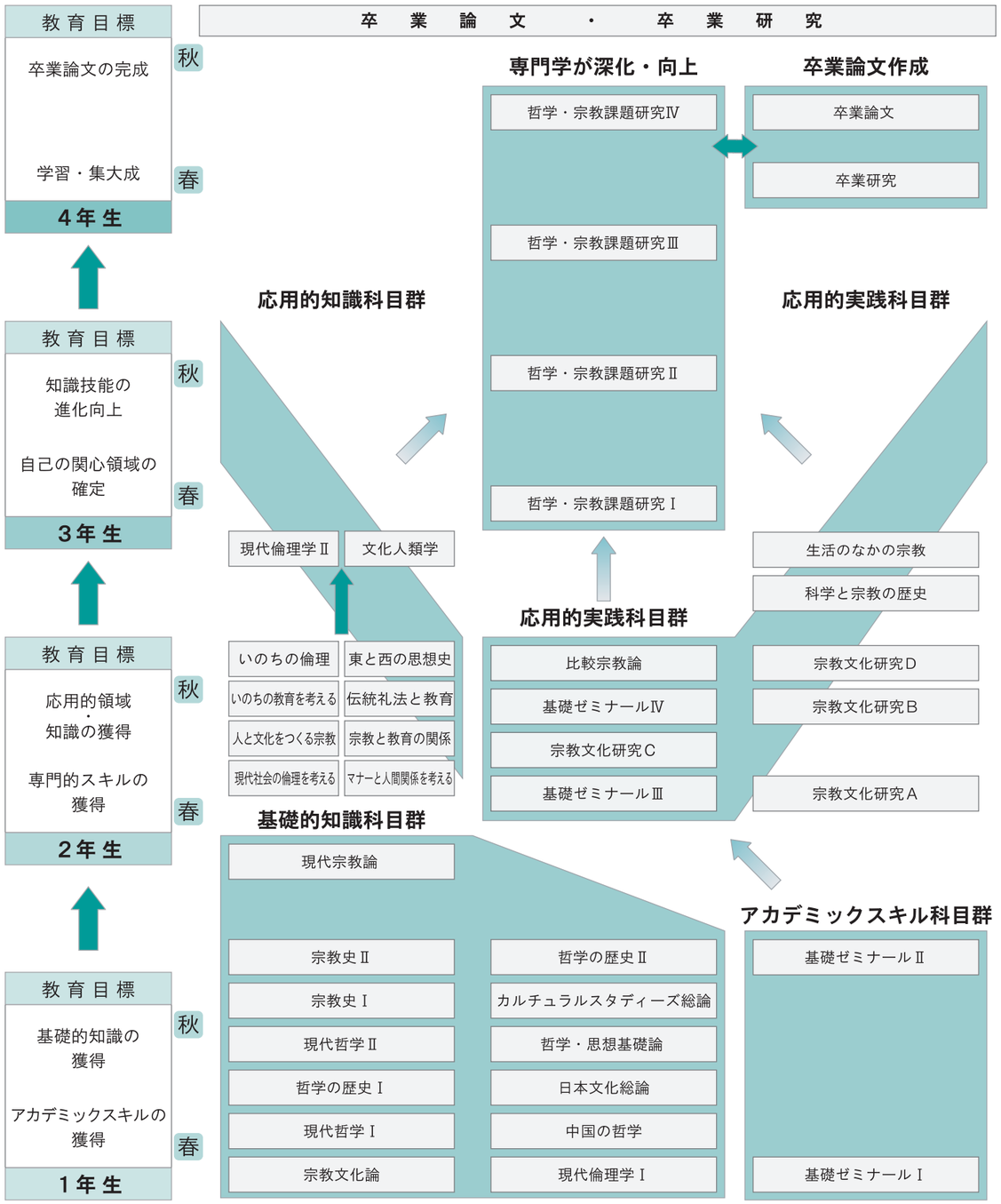
歴史学科

文学部　人文学科　哲学・宗教文化コース

（第Ⅱ類科目）の履修について

人文学科 哲学・宗教文化コースDP（ディプロマポリシー：卒業時に身についている能力）

知識・理解	・哲学、思想、宗教、文化、言語の諸分野に関する深い教養を体系的に身につけている。 ・哲学、思想、宗教、文化、言語の諸分野における研究を通じて、学問の基本的な方法を身につけている。
思考・判断・表現	・哲学、思想、宗教、文化、言語の学問的領域の分析方法を応用し、多面的かつ国際的に、学際的な視点でものごとをとらえることができる。 ・立場や見解の異なる者に対しても公平な理解を示し、建設的な議論や判断をすることができる。 ・学問知、実践知を自分のことばで表現し、文章や口頭で他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	・哲学、思想、宗教、文化、言語の諸分野における学問的経験を活かし、未来において起こる新たな思潮を理解し、つねに自らの学問知を刷新しようとする意欲を有している。 ・自らの能力を社会に還元する意思と、社会のなかで自らを高める意欲を持ち、自らの生き方について責任を果たす姿勢を身につけている。 ・コミュニティの重要性を理解し、その発展に貢献する積極性と協調性を身につけている。

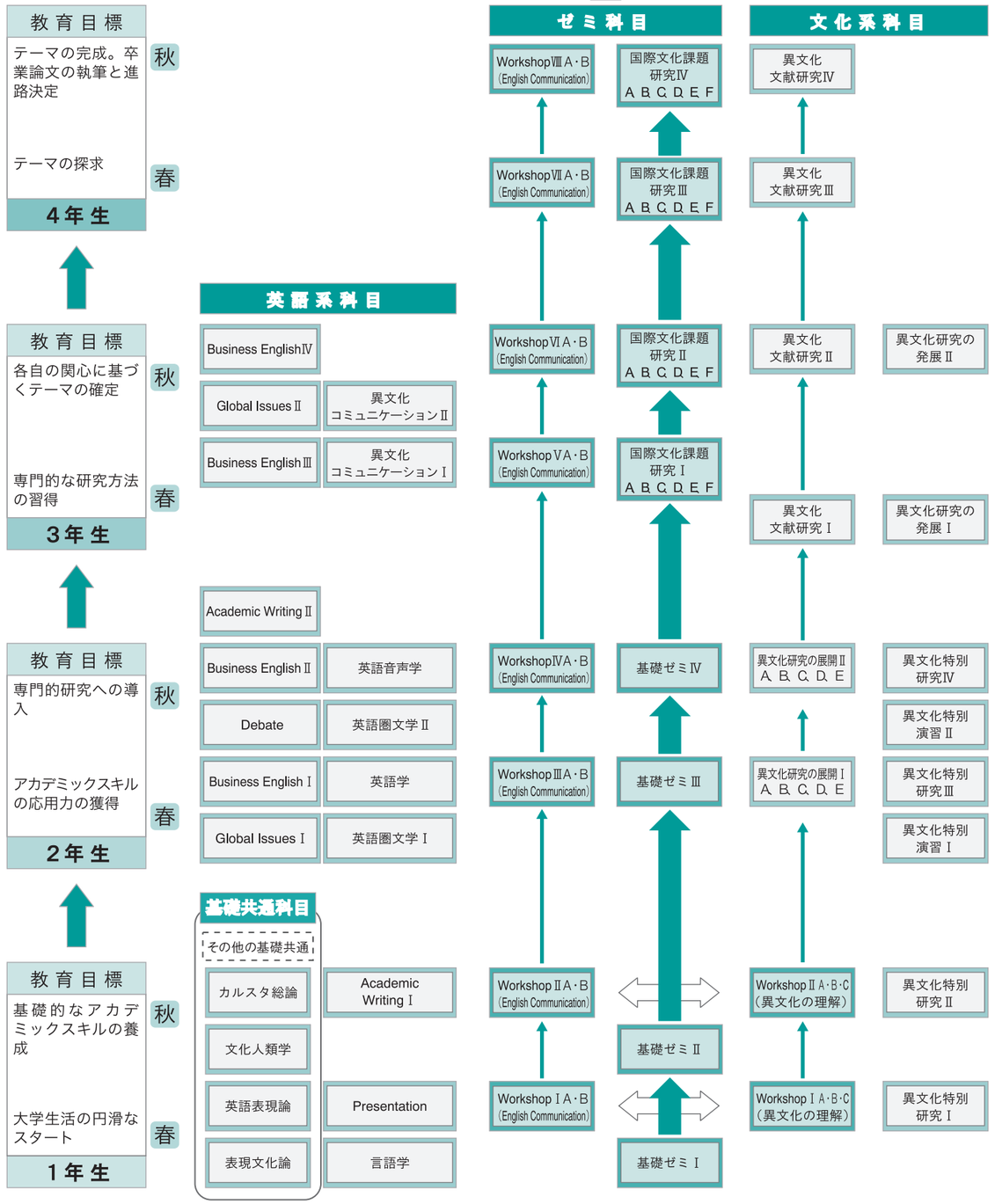


文学部　人文学科　国際文化コース

（第Ⅱ類科目）の履修について

人文学科 国際文化コースDP（ディプロマポリシー：卒業時に身についている能力）

知識・理解	・哲学、思想、宗教、文化、言語の諸分野に関する深い教養を体系的に身につけている。 ・哲学、思想、宗教、文化、言語の諸分野における研究を通じて、学問の基本的な方法を身につけている。
思考・判断・表現	・哲学、思想、宗教、文化、言語の学問的領域の分析方法を応用し、多面的かつ国際的に、学際的な視点でものごとをとらえることができる。 ・立場や見解の異なる者に対しても公平な理解を示し、建設的な議論や判断をすることができる。 ・学問知、実践知を自分のことばで表現し、文章や口頭で他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	・哲学、思想、宗教、文化、言語の諸分野における学問的経験を活かし、未来において起こる新たな思潮を理解し、つねに自らの学問知を刷新しようとする意欲を有している。 ・自らの能力を社会に還元する意思と、社会のなかで自らを高める意欲を持ち、自らの生き方について責任を果たす姿勢を身につけている。 ・コミュニティの重要性を理解し、その発展に貢献する積極性と協調性を身につけている。



第Ⅱ類科目

		授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
基礎部門	基礎部門	基礎ゼミナールⅠ	1	2	4科目8単位必修
		基礎ゼミナールⅡ	1	2	
		基礎ゼミナールⅢ	2	2	
		基礎ゼミナールⅣ	2	2	
		日本文化総論	1	2	3科目6単位履修すること
		日本文学総論	1	2	
		日本語学総論	1	2	
		哲学･思想基礎論	1	2	
		宗教文化論	1	2	
		カルチュラルスタディーズ総論	1	2	
		文化人類学	1	2	
		表現文化論	1	2	
		英語表現論	1	2	
分野別部門	哲学・宗教文化	哲学の歴史Ⅰ	1 2	2	哲学･宗教文化コースの者は、30単位以上選択必修
		哲学の歴史Ⅱ	1 2	2	
		中国の哲学	1 2	2	
		現代哲学Ⅰ	2 3	2	
		現代哲学Ⅱ	2 3	2	
		現代倫理学Ⅰ	1 2	2	
		現代倫理学Ⅱ	1 2	2	
		宗教史Ⅰ	1 2	2	
		宗教史Ⅱ	1 2	2	
		いのちの倫理	1 2	2	
		東と西の思想史	1 2	2	
		生活のなかの宗教	1 2	2	
		科学と宗教の歴史	1 2	2	
		いのちの教育を考える	1 2	2	
		伝統礼法と教育	1 2	2	
		人と文化をつくる宗教	1 2	2	
		宗教と教育の関係	1 2	2	
		現代社会の倫理を考える	1 2	2	
		マナーと人間関係を考える	1 2	2	
		宗教文化研究A	2 3	2	
		宗教文化研究B	2 3	2	
		宗教文化研究C	2 3	2	
		宗教文化研究D	2 3	2	
		現代宗教論	2 3	2	
		比較宗教論	2 3	2	
		哲学･宗教課題研究Ⅰ	3	2	哲学･宗教文化コースの者は、8単位履修すること
		哲学･宗教課題研究Ⅱ	3	2	
		哲学･宗教課題研究Ⅲ	4	2	
		哲学･宗教課題研究Ⅳ	4	2	

次頁に続く

第Ⅱ類科目

		授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
分野別部門	国際文化	Workshop(異文化の理解)Ⅰ－A	1	2	国際文化コースの者は、32単位以上選択必修
		Workshop(異文化の理解)Ⅰ－B	1	2	
		Workshop(異文化の理解)Ⅰ－C	1	2	
		Workshop(異文化の理解)Ⅱ－A	1	2	
		Workshop(異文化の理解)Ⅱ－B	1	2	
		Workshop(異文化の理解)Ⅱ－C	1	2	
		Workshop(English Communication)Ⅰ－A	1	2	
		Workshop(English Communication)Ⅰ－B	1	2	
		Workshop(English Communication)Ⅱ－A	1	2	
		Workshop(English Communication)Ⅱ－B	1	2	
		Workshop(English Communication)Ⅲ－A	2	2	
		Workshop(English Communication)Ⅲ－B	2	2	
		Workshop(English Communication)Ⅳ－A	2	2	
		Workshop(English Communication)Ⅳ－B	2	2	
		Workshop(English Communication)Ⅴ－A	3	2	
		Workshop(English Communication)Ⅴ－B	3	2	
		Workshop(English Communication)Ⅵ－A	3	2	
		Workshop(English Communication)Ⅵ－B	3	2	
		Workshop(English Communication)Ⅶ－A	4	2	
		Workshop(English Communication)Ⅶ－B	4	2	
		Workshop(English Communication)Ⅷ－A	4	2	
		Workshop(English Communication)Ⅷ－B	4	2	
		異文化研究の展開Ⅰ-A	2	2	
		異文化研究の展開Ⅰ-B	2	2	
		異文化研究の展開Ⅰ-C	2	2	
		異文化研究の展開Ⅰ-D	2	2	
		異文化研究の展開Ⅰ-E	2	2	
		異文化研究の展開Ⅱ-A	2	2	
		異文化研究の展開Ⅱ-B	2	2	
		異文化研究の展開Ⅱ-C	2	2	
		異文化研究の展開Ⅱ-D	2	2	
		異文化研究の展開Ⅱ-E	2	2	
		異文化特別研究Ⅰ	1	2	
		異文化特別研究Ⅱ	1	2	
		異文化特別研究Ⅲ	2	2	
		異文化特別研究Ⅳ	2	2	
		異文化特別演習Ⅰ	2	2	
		異文化特別演習Ⅱ	2	2	
		異文化研究の発展Ⅰ	3	2	
		異文化研究の発展Ⅱ	3	2	
		異文化文献研究Ⅰ	3	2	
		異文化文献研究Ⅱ	3	2	
		異文化文献研究Ⅲ	4	2	
		異文化文献研究Ⅳ	4	2	

次頁に続く

文学部人文学科

	授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
分野別部門 国際文化	言語学	1	2	国際文化コースの者は、32単位以上選択必修
	英語学	2	2	
	英語音声学	2	2	
	英語圏文学Ⅰ	2	2	
	英語圏文学Ⅱ	2	2	
	異文化コミュニケーションⅠ	3	2	
	異文化コミュニケーションⅡ	3	2	
	Academic WritingⅠ	1	2	
	Academic WritingⅡ	2	2	
	Presentation	1	2	
	Debate	2	2	
	Global IssuesⅠ	2	2	
	Global IssuesⅡ	3	2	
	Business EnglishⅠ	2	2	
	Business EnglishⅡ	2	2	
	Business EnglishⅢ	3	2	
	Business EnglishⅣ	3	2	
	国際文化課題研究Ⅰ	3	2	国際文化コースの者は、8単位履修すること
	国際文化課題研究Ⅱ	3	2	
	国際文化課題研究Ⅲ	4	2	
	国際文化課題研究Ⅳ	4	2	
卒業論文・卒業研究	卒業論文	4	8	8単位選択必修
	卒業研究	4	8	

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

［1］別表の指示に従い履修すること。
［2］卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は26単位）修得すること。
［3］必修を含めて第Ⅱ類科目を合計88単位以上修得すること。
　　ただし、30単位までは、他学科第Ⅱ類科目及び第Ⅲ類科目から充当することができる。
［4］第Ⅰ類科目余剰分（26単位を超えて修得した単位）は第Ⅲ類科目として認定する。

教職科目

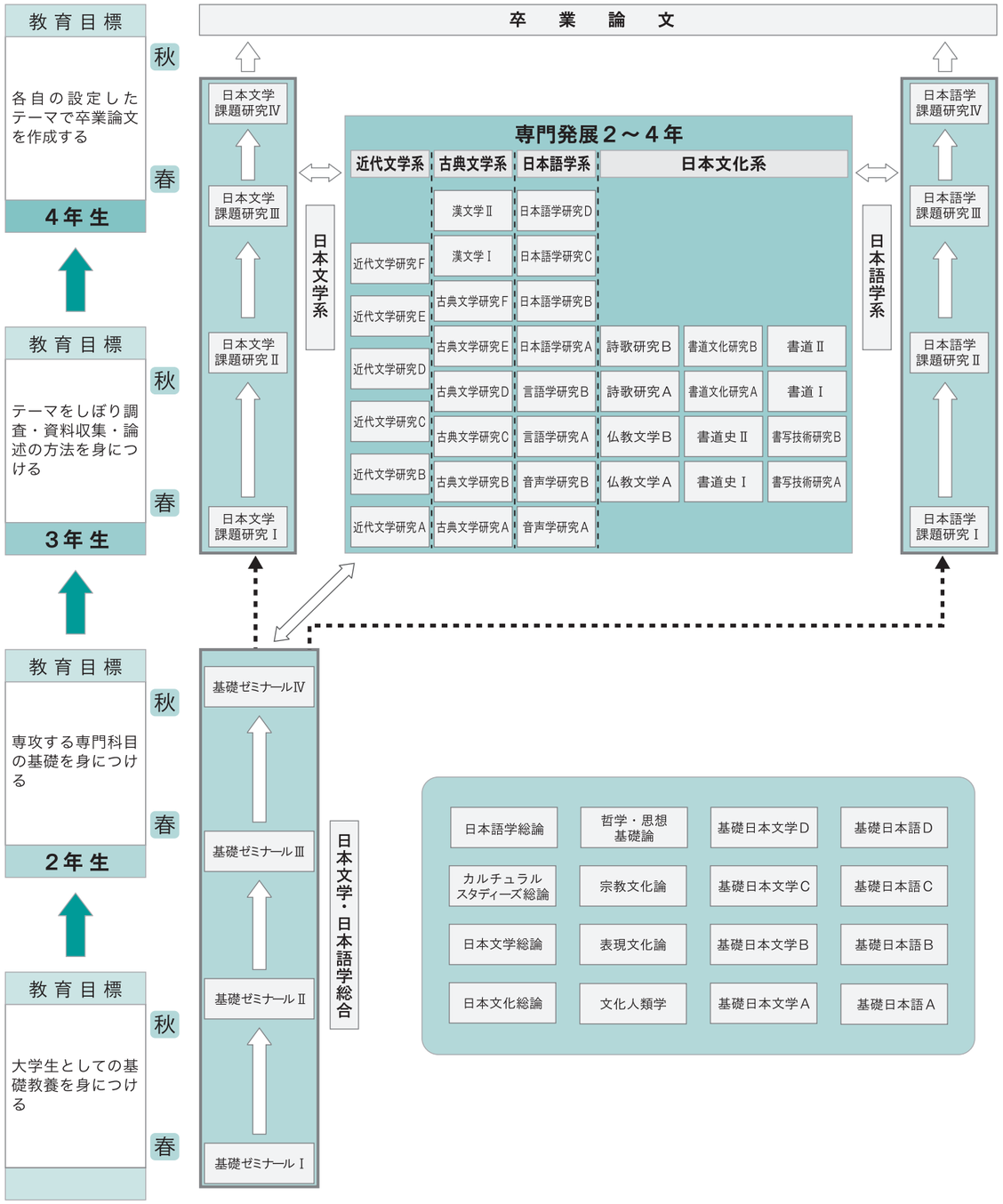
	授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
教職関連部門	法律学概論（国際法を含む。）	2 3 4	2	教職資格登録者のみ履修可。
	政治学概論（国際政治を含む。）	2 3 4	2	
	社会学入門	2 3 4	4	
	経済学概論（国際経済を含む。）	2 3 4	2	
	哲学入門	2 3 4	2	
	宗教学入門	2 3 4	2	
	心理学概説	2 3 4	2	

■ 教職関連部門は、教職の資格登録を行っている者のみ履修することができる。
■ 修得単位は、第Ⅲ類科目として認定する。
■ 教職の履修については、教職ガイダンス・資格要項にて確認すること。

文学部　日本文学科　（第Ⅱ類科目）の履修について

日本文学科　DP（ディプロマポリシー：卒業時に身についている能力）

- **知識・理解**
  - 構造的知識（総論）：日本語学・日本文学の学問領域を理解し、また日本語日本文学の発生から現在までの歴史的展開を理解しその特徴を説明できる。
  - 構造的知識（各論）：日本語日本文学の専門分野に関する知識を有し説明できる。
  - 読解力：日本の古代から現代までの書き言葉・話し言葉で表現された言説の内容を客観的に理解し解釈できる。
  - 情報リテラシー：日本語日本文学の分析・解釈を行う上で必要となる情報を収集し活用することができる。
- **思考・判断・表現**
  - 批判的創造的思考力：日本語日本文学の事象に問題意識を持ち、その本質を洞察することができる。
  - 文章作成力：自らの考えを適切な語彙を用いて論理的に文章化できる。口頭伝達力：相手の話を的確に聞き取り、自分の考えや意見を相手に明確に伝えることができる。
- **関心・意欲・態度**
  - 共同研究への参画：共同研究やグループワークにおいて有効な役割を担い、参加しようとする意欲、姿勢を有している。
  - 生涯学習に対する基盤と能力：生涯学び続けていくための問題意識を有している。また、地域や社会が抱える課題への持続的な関心とともに、その課題を積極的に解決するための技能を身につけようとする意欲を持っている。
  - 異文化・他者の尊重と理解：異文化や異質な存在を課虚に理解し尊重する態度を有している。



第Ⅱ類科目

		授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
基礎部門	基礎部門	基礎ゼミナールⅠ	1	2	4科目8単位必修
		基礎ゼミナールⅡ	1	2	
		基礎ゼミナールⅢ	2	2	
		基礎ゼミナールⅣ	2	2	
		日本文化総論	1	2	3科目6単位必修
		日本文学総論	1	2	
		日本語学総論	1	2	
		哲学・思想基礎論	1	2	
		宗教文化論	1	2	
		カルチュラルスタディーズ総論	1	2	
		文化人類学	1	2	
		表現文化論	1	2	
分野別部門	日本文学	基礎日本文学A	1 2	2	
		基礎日本文学B	1 2	2	
		基礎日本文学C	1 2	2	
		基礎日本文学D	1 2	2	
		基礎日本語A	1 2	2	
		基礎日本語B	1 2	2	
		基礎日本語C	1 2	2	
		基礎日本語D	1 2	2	
		古典文学研究A	2 3	2	
		古典文学研究B	2 3	2	
		古典文学研究C	2 3	2	
		古典文学研究D	2 3	2	
		古典文学研究E	2 3	2	
		古典文学研究F	2 3	2	
		古典文学研究G	2 3	2	
		古典文学研究H	2 3	2	
		詩歌研究A	2 3	2	
		詩歌研究B	2 3	2	
		近代文学研究A	2 3	2	
		近代文学研究B	2 3	2	
		近代文学研究C	2 3	2	
		近代文学研究D	2 3	2	
		近代文学研究E	2 3	2	
		近代文学研究F	2 3	2	
		日本語学研究A	2 3	2	
		日本語学研究B	2 3	2	
		日本語学研究C	2 3	2	
		日本語学研究D	2 3	2	
		音声学研究A	2 3	2	
		音声学研究B	2 3	2	
		言語学研究A	2 3	2	
		言語学研究B	2 3	2	
		仏教文学A	2 3	2	
		仏教文学B	2 3	2	
		漢文学Ⅰ	2 3	2	
		漢文学Ⅱ	2 3	2	
		書写技術研究A	2 3	2	
		書写技術研究B	2 3	2	
		書道Ⅰ	2 3	2	
		書道Ⅱ	2 3	2	
		書道史Ⅰ	2 3	2	
		書道史Ⅱ	2 3	2	
		書道文化研究A	2 3	2	
		書道文化研究B	2 3	2	

第Ⅱ類科目

		授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
分野別部門	日本文学	日本文学課題研究Ⅰ	3	2	4科目8単位必修
		日本文学課題研究Ⅱ	3	2	
		日本文学課題研究Ⅲ	4	2	
		日本文学課題研究Ⅳ	4	2	
		日本語学課題研究Ⅰ	3	2	
		日本語学課題研究Ⅱ	3	2	
		日本語学課題研究Ⅲ	4	2	
		日本語学課題研究Ⅳ	4	2	
卒業論文・卒業研究		卒業論文	4	8	8単位選択必修
		卒業研究	4	8	

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

［1］別表の指示に従い履修すること。
［2］卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は26単位）修得すること。
［3］必修を含めて第Ⅱ類科目を合計88単位以上修得すること。
　　ただし、30単位までは、他学科第Ⅱ類科目及び第Ⅲ類科目から充当することができる。
［4］第Ⅰ類科目余剰分（26単位を超えて修得した単位）は第Ⅲ類科目として認定する。

文学部　歴史学科　日本史コース

（第Ⅱ類科目）の履修について

歴史学科　日本史コース　DP
（ディプロマポリシー：卒業時に身についている能力）

知識・技能	・歴史についての幅広い知的好奇心をそなえ、専門的かつ広範な知識を身につけている。 ・日本史学、東洋史学、文化財・考古学の実証的な研究方法を身につけている。
思考・判断・表現	・自らの学びの対象として設定した問題について、日本史学、東洋史学、文化財・考古学のいずれかの領域の研究方法を通じて解決することができる。 ・自らが学んだ知識や経験にもとづく考察を、客観的に口頭や文章で表現することができる。
関心・意欲・態度	・日本史学、東洋史学、文化財・考古学の多様な学びを通じて、社会人としての責任や役割を主体的に果たそうとする姿勢を身につけている。 ・自らが学んだ領域を活かして、地域社会（コミュニティ）が抱える課題を他者と協働しながら解決しようとする意欲を有している。

卒　業　論　文

	専門的知識	ゼミ	広範な知識
4年生 秋	日本中世史 特講B / 日本近代史 特講B	応用研究B / 応用研究A	東洋史特講 / 先史学特講 / 考古学特講 / 工芸史特講 / 美術史特講 / 文化財特講
4年生 春	日本古代史 特講B / 日本近世史 特講B		
3年生 秋	日本中世史 特講A / 日本近代史 特講A	専門演習B / 専門演習A	日本史テーマ研究D / 日本史テーマ研究C / 日本史テーマ研究B / 日本史テーマ研究A
3年生 春	日本古代史 特講A / 日本近世史 特講A		
2年生 秋	仏教と歴史 / 日本の歴史書	日本古代史 基礎研究B / 日本中世史 基礎研究講B / 日本近世史 基礎研究B / 日本近代史 基礎研究B	古文書講読B / 古記録講読B
2年生 春	歴史学入門	日本古代史 基礎研究A / 日本中世史 基礎研究A / 日本近世史 基礎研究A / 日本近代史 基礎研究A	古文書講読A / 古記録講読A
1年生 秋	日本文化史A	基礎ゼミナールⅡ	基礎資料学
1年生 春	日本史概説	基礎ゼミナールⅠ	歴史地理学 / 地誌学 / 人文地理学A / キリスト教文化史 / 自然地理学A / 東洋文化史 / 民俗学概論 / 西洋史概説 / 東洋史概説 / 考古学概説 / 美術工芸史概説 / 民族と歴史 / 中国の歴史書 / 地域の歴史 / 世界の歴史遺産 / 環境と歴史 / 文化財の見方

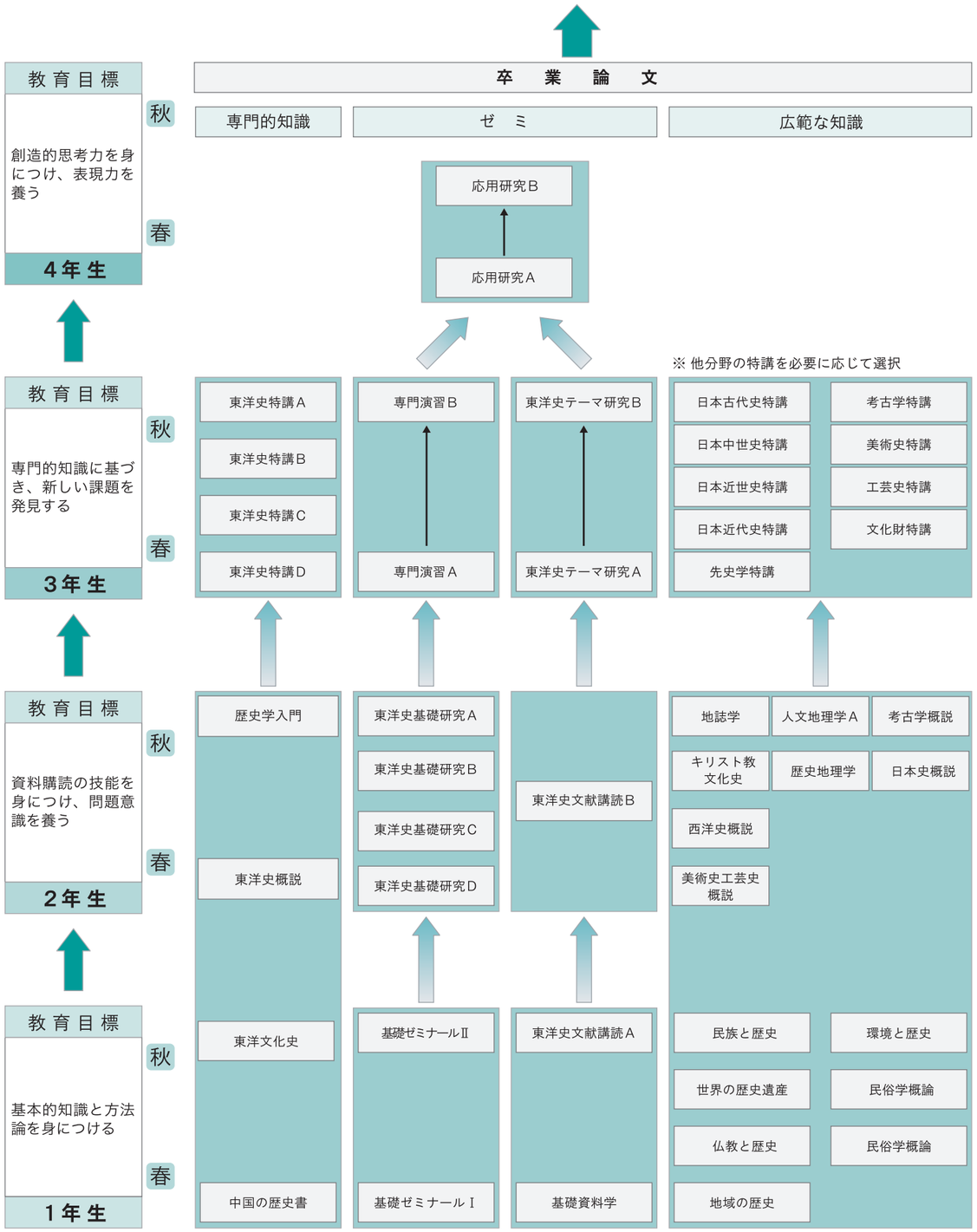
※ 他分野の特講は必要に応じて選択

文学部　歴史学科　東洋史コース

（第Ⅱ類科目）の履修について

歴史学科 東洋史コース DP（ディプロマポリシー：卒業時に身についている能力）

知識・理解	・歴史についての幅広い知的好奇心をそなえ、専門的かつ広範な知識を身につけている。 ・日本史学、東洋史学、文化財・考古学の実証的な研究方法を身につけている。
思考・判断・表現	・自らの学びの対象として設定した問題について、日本史学、東洋史学、文化財・考古学のいずれかの領域の研究方法を通じて解決することができる。 ・自らが学んだ知識や経験にもとづく考察を、客観的に口頭や文章で表現することができる。
関心・意欲・態度	・日本史学、東洋史学、文化財・考古学の多様な学びを通じて、社会人としての責任や役割を主体的に果たそうとする姿勢を身につけている。 ・自らが学んだ領域を活かして、地域社会（コミュニティ）が抱える課題を他者と協働しながら解決しようとする意欲を有している。

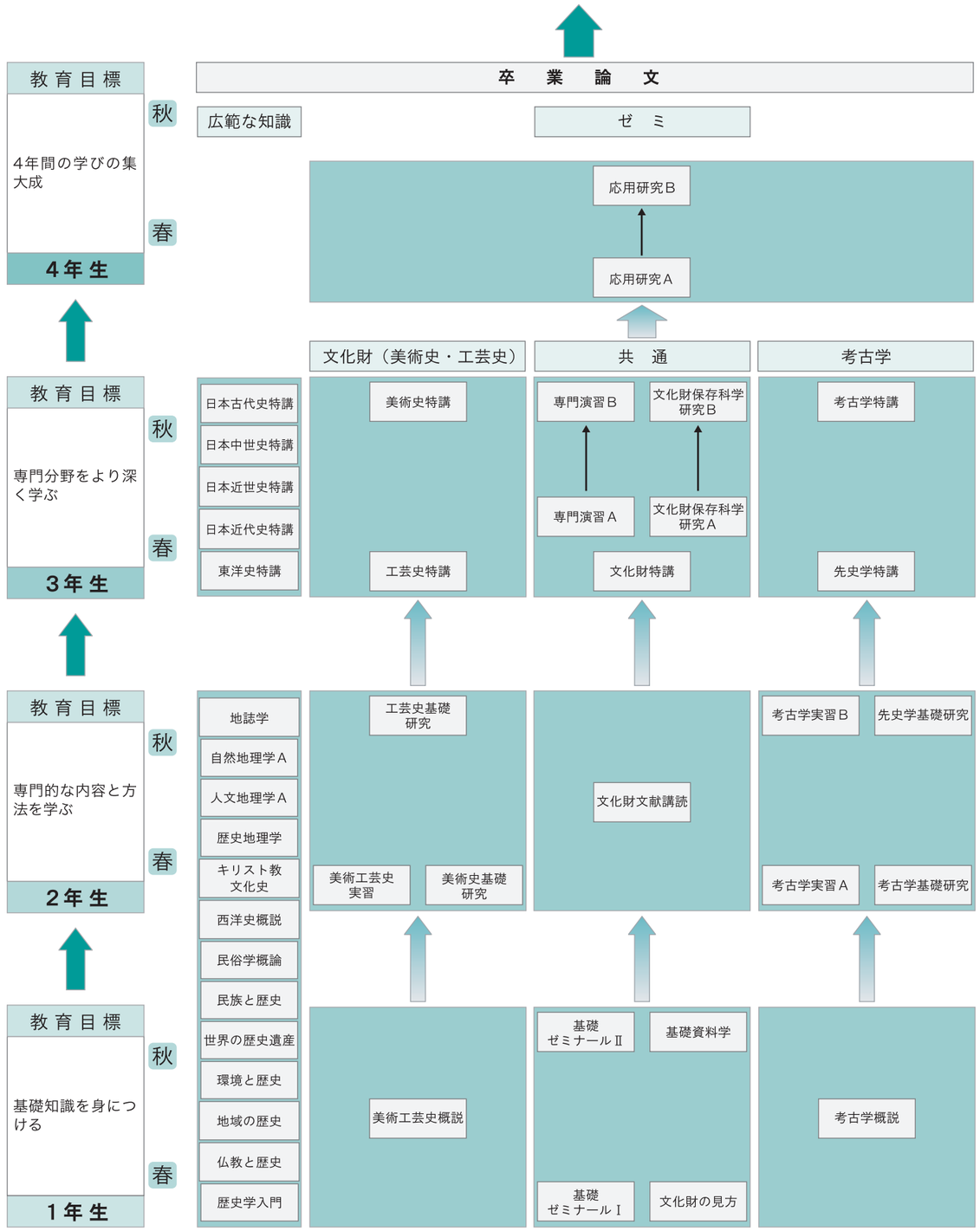


文学部　歴史学科　文化財・考古学コース

（第Ⅱ類科目）の履修について

歴史学科 文化財・考古学コース DP（ディプロマポリシー：卒業時に身についている能力）

知識・理解	・歴史についての幅広い知的好奇心をそなえ、専門的かつ広範な知識を身につけている。 ・日本史学、東洋史学、文化財・考古学の実証的な研究方法を身につけている。
思考・判断・表現	・自らの学びの対象として設定した問題について、日本史学、東洋史学、文化財・考古学のいずれかの領域の研究方法を通じて解決することができる。 ・自らが学んだ知識や経験にもとづく考察を、客観的に口頭や文章で表現することができる。
関心・意欲・態度	・日本史学、東洋史学、文化財・考古学の多様な学びを通じて、社会人としての責任や役割を主体的に果たそうとする姿勢を身につけている。 ・自らが学んだ領域を活かして、地域社会（コミュニティ）が抱える課題を他者と協働しながら解決しようとする意欲を有している。



■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

［1］別表の指示に従い履修すること。
［2］卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は26単位）修得すること。
［3］必修を含めて第Ⅱ類科目を合計88単位以上修得すること。
　　ただし、30単位までは、他学科及び第Ⅲ類科目から充当することができる。
［4］第Ⅰ類科目余剰分（26単位を超えて修得した単位）は第Ⅲ類科目として認定する。

1．※印の単位数は「必修」ではなく、「履修することが強く望まれる単位数」を示す。
2．東洋史コースの学生は、世界の言語（中国語）を修得することを望む。
3．専門演習の履修は学科の指導にしたがうこと。

注1．古記録講読Aを優先履修すること。
注2．古文書講読Aを優先履修すること。
注3．東洋文献講読Aを優先履修すること。
注4．以下の科目は順次履修すること（先修制科目）。
　　博物館実習Ⅰ—A　→　博物館実習Ⅰ—B（またはⅠ—C）　→　博物館実習Ⅱ
　　（博物館実習Ⅰ—A・Ⅰ—Bは、同一内容・同一教員を重ねて履修できない）

教職科目

	授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
○教職関連部門	法律学概論（国際法を含む。）	2 3 4	2	教職資格登録者のみ履修可。
	政治学概論（国際政治を含む。）	2 3 4	2	
	社会学入門	2 3 4	4	
	経済学概論（国際経済を含む。）	2 3 4	2	
	哲学入門	2 3 4	2	
	現代倫理学	2 3 4	2	
	宗教学入門	2 3 4	2	

■ 教職関連部門は、教職の資格登録を行っている者のみ履修することができる。
　また、履修制限単位の対象外とする。
■ 修得単位は、第Ⅲ類として認定する。
■ 教職の履修については、教職ガイダンス・資格要項にて確認すること。

1．ワークショップ

体験的授業を通して、柔軟な思考力と表現するための技術を身につける。
＊表現文化学科ワークショップ：学科全体のテーマに沿って、全員で一つの大きなプロジェクトに取り組み、チームごとのディスカッションを通して作品を作り上げ、発表イベントを行う。
＊コース別ワークショップ：各コースの専門性を重視したテーマに取り組み、自分の将来像につなげる実践的学修方法を身につける。

2．学科の基礎部門・分野部門

専門教育科目は大きく、基礎部門と分野部門に分類されており、履修要件が異なる。
＊基礎部門は、表現文化学科の学生として必要な基礎力を身につける。５コースの基礎的な内容を学ぶことによって、表現するさまざまな方法を学ぶことができる。
＊分野部門は、クリエイティブライティングコース、出版・編集コース、放送・映像表現コース、英語表現・コミュニケーションコース、エンターテインメントビジネスコースそれぞれで、専門に特化した科目群がある。コースの教員の指導を受けながら効果的な科目選択が望まれる。

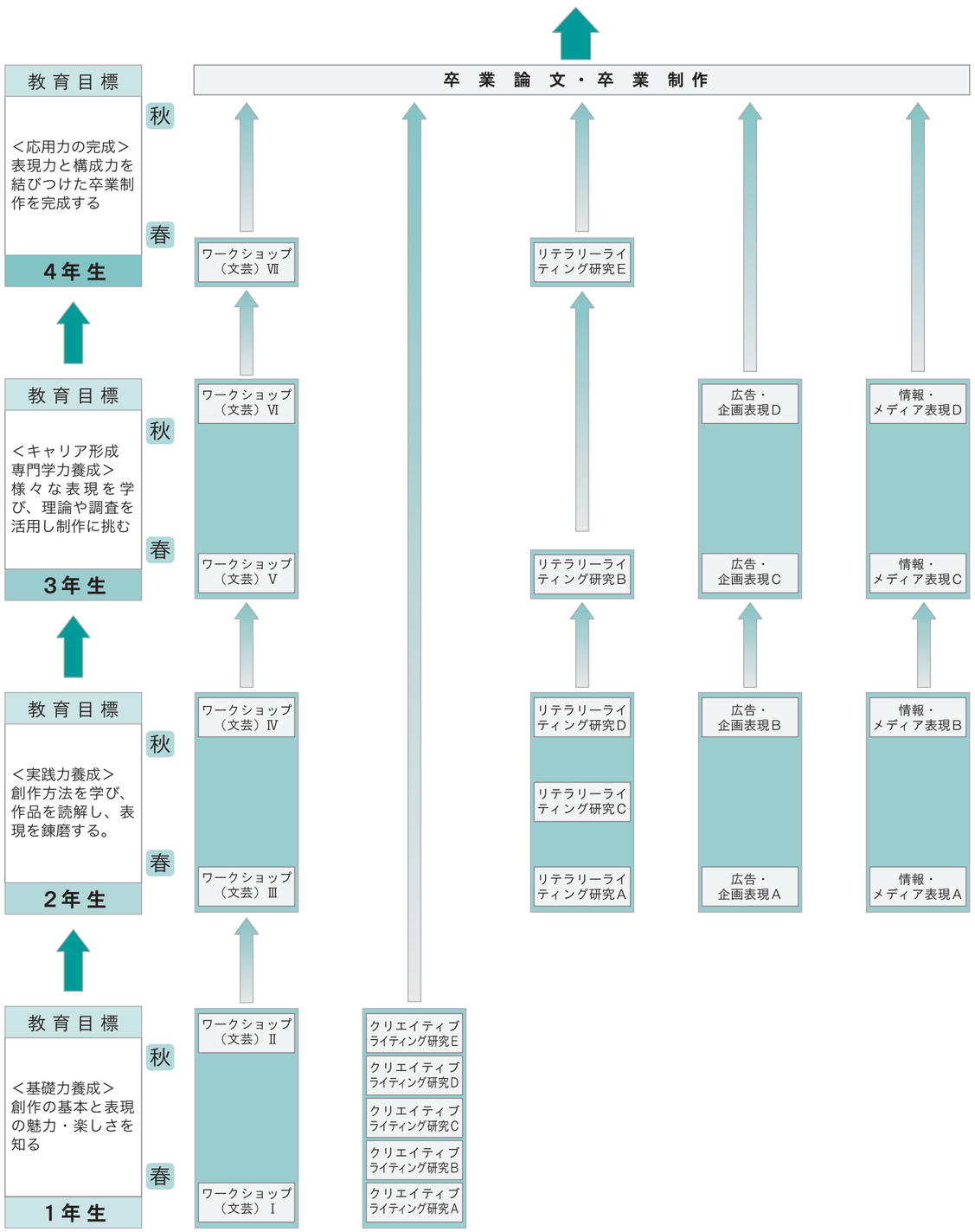
3．表現する——書く・話す・撮る

書くことで創作の喜びを知る。映像や音声で自分の考えを発信する。英語によって世界の人とつながる。卒業時には、学生のみなさんが大学において学んだことの集大成を形にしていけるよう、1年生のうちから十分に基礎学修を積み上げることが大切である。

表現学部　表現文化学科　クリエイティブライティングコース（第Ⅱ類科目）の履修について

表現文化学科 クリエイティブライティングコース DP
（ディプロマポリシー：卒業時に身についている能力）

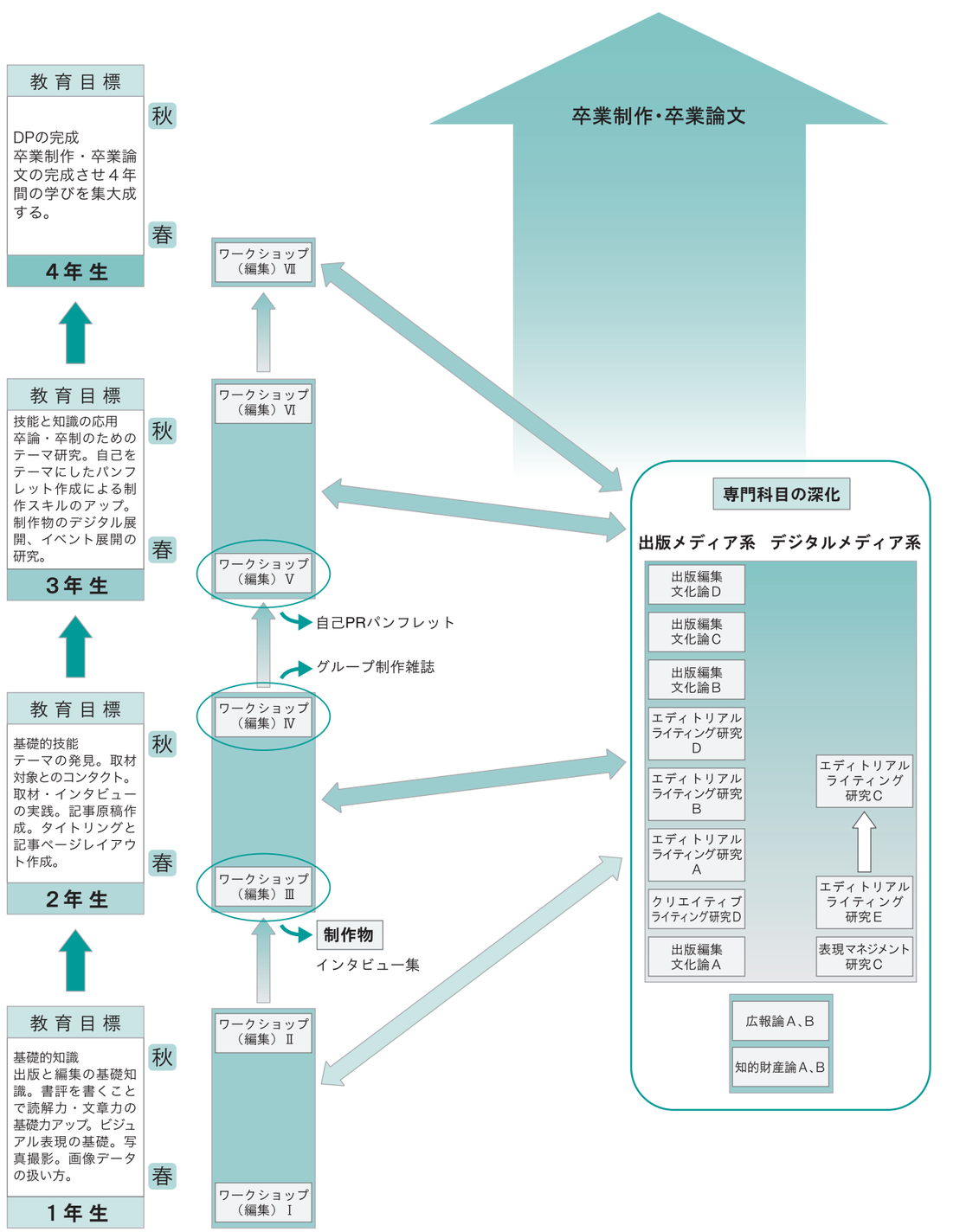
知識・理解	・現代の国際社会・日本社会を生き抜くための教養と知的技能を有し、表現文化に関する専門知識、表現文化を体系的に理解できる。 ・コース専門課程で学ぶプロフェッショナルな技能により、自分を表現する方法を持ち、社会に向けて、自らの考えを発信できる。 ・自ら設定した表現課題（文芸、編集、放送、映像、英語コミュニケーション、エンターテインメント、表現ビジネス）の知的領域の表現方法を理解し、構想することができる。
思考・判断・表現	・問題を自ら発見し、クリエイティブな思考、判断をすることができる。 ・多様な価値観を理解し、自らの意見を、論理的・創造的に再構築、表現することができる。 ・メディアリテラシーと倫理に関する知識を基準にして、コミュニケーションすることができる。その上で、「自分らしい」独自な思考を表現することができる。
関心・意欲・態度	・自らの作品や表現を、よりよい社会の形成や発展に活かそうとする姿勢を身につけている。 ・他者の作品や表現を評価するにあたっては、クリエイターの個性を尊重する態度とともに、より深い理解の上に立った正当な評価をしようとする姿勢を身につけている。 ・他者と協働しながら作品を創造することの喜びや有用性について知悉しており、共同作品を作成することに意欲を有している。



表現学部　表現文化学科　出版・編集コース（第Ⅱ類科目）の履修について

表現文化学科 出版・編集コース DP
（ディプロマポリシー：卒業時に身についている能力）

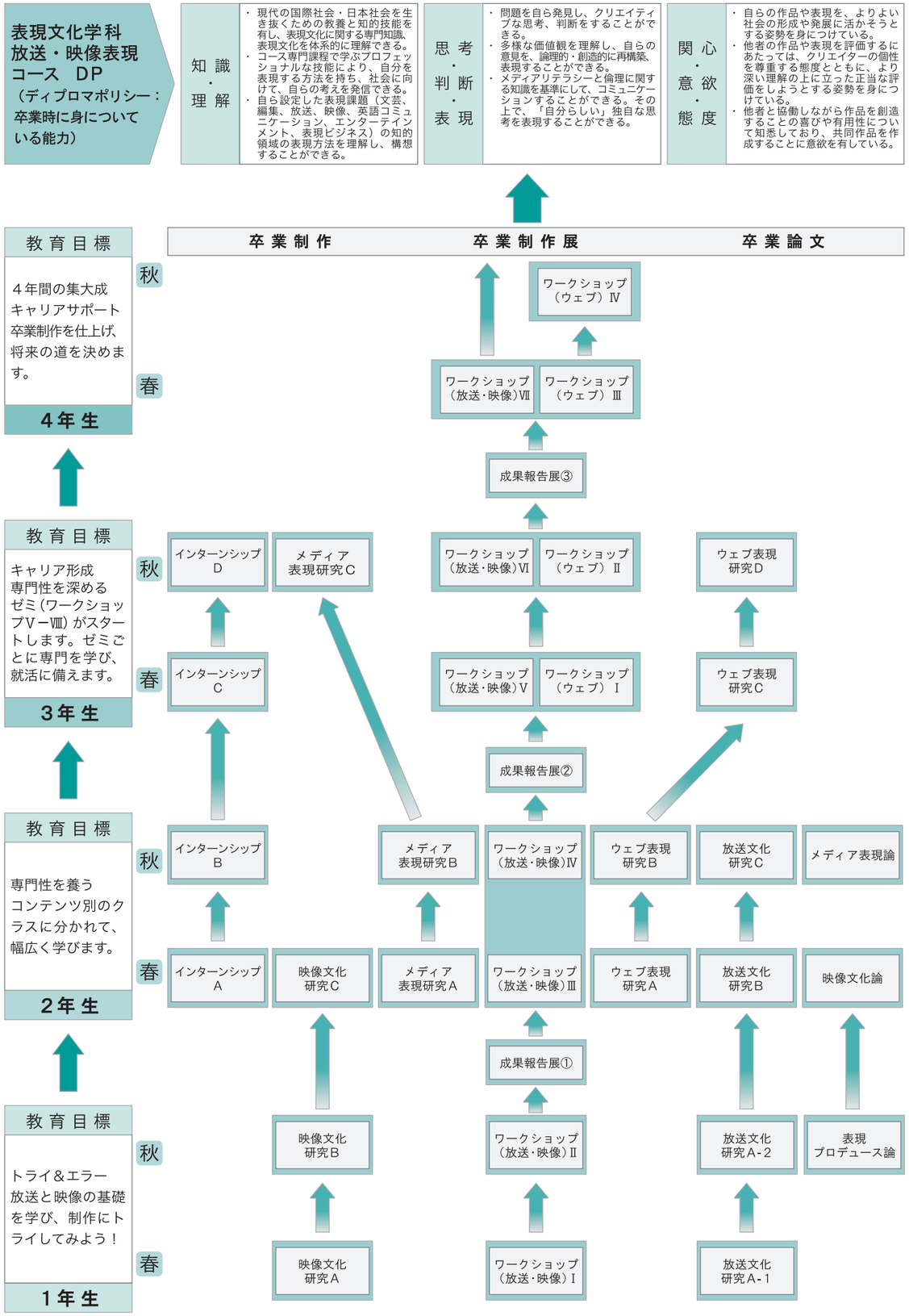
知識・理解	・現代の国際社会・日本社会を生き抜くための教養と知的技能を有し、表現文化に関する専門知識、表現文化を体系的に理解できる。 ・コース専門課程で学ぶプロフェッショナルな技能により、自分を表現する方法を持ち、社会に向けて、自らの考えを発信できる。 ・自ら設定した表現課題（文芸、編集、放送、映像、英語コミュニケーション、エンターテインメント、表現ビジネス）の知的領域の表現方法を理解し、構想することができる。
思考・判断・表現	・問題を自ら発見し、クリエイティブな思考、判断をすることができる。 ・多様な価値観を理解し、自らの意見を、論理的・創造的に再構築、表現することができる。 ・メディアリテラシーと倫理に関する知識を基準にして、コミュニケーションすることができる。その上で、「自分らしい」独自な思考を表現することができる。
関心・意欲・態度	・自らの作品や表現を、よりよい社会の形成や発展に活かそうとする姿勢を身につけている。 ・他者の作品や表現を評価するにあたっては、クリエイターの個性を尊重する態度とともに、より深い理解の上に立った正当な評価をしようとする姿勢を身につけている。 ・他者と協働しながら作品を創造することの喜びや有用性について知悉しており、共同作品を作成することに意欲を有している。



表現学部　表現文化学科　放送・映像表現コース　（第Ⅱ類科目）の履修について

表現文化学科 放送・映像表現コース DP（ディプロマポリシー：卒業時に身についている能力）

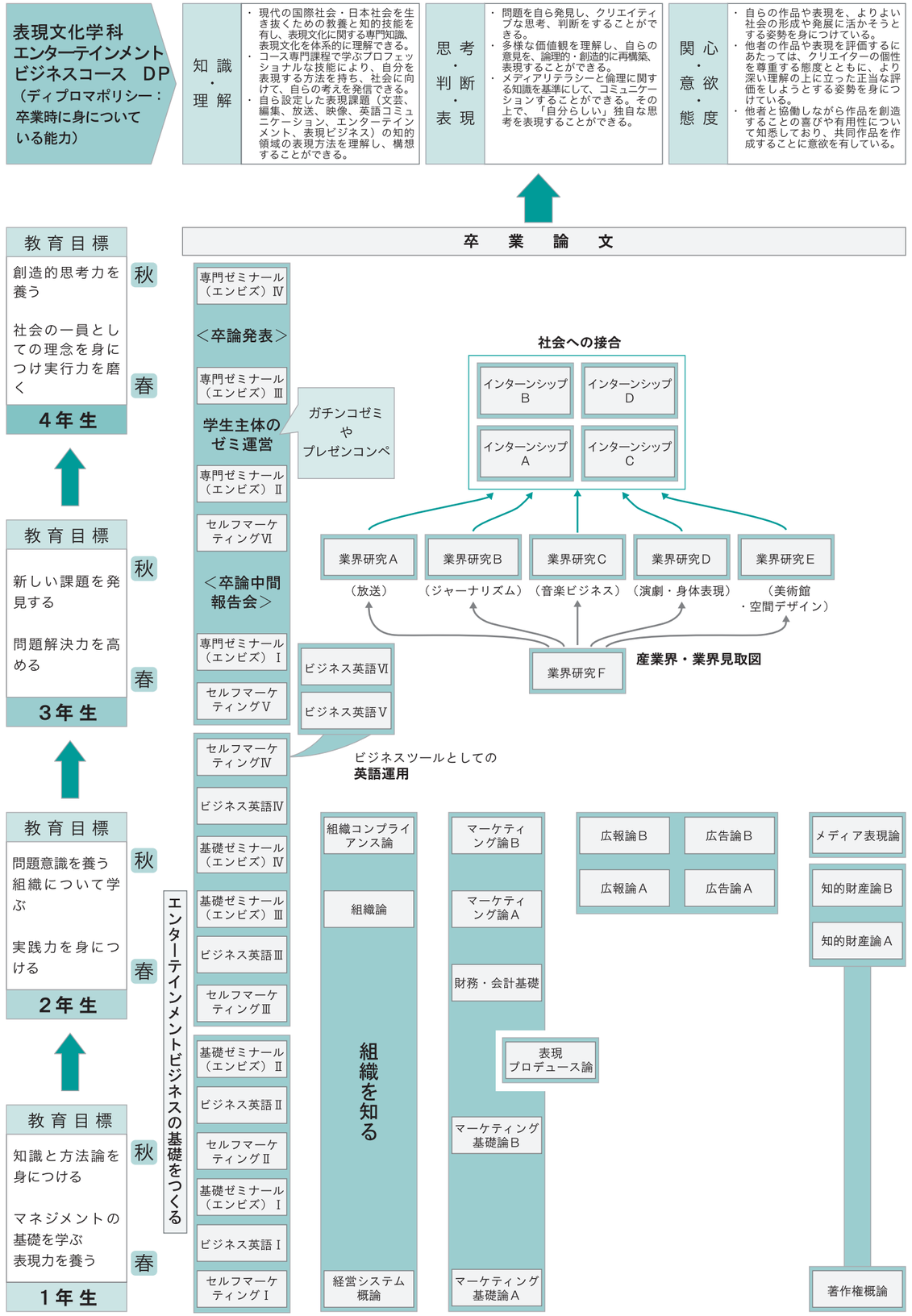
知識・理解	・現代の国際社会・日本社会を生き抜くための教養と知的技能を有し、表現文化に関する専門知識、表現文化を体系的に理解できる。 ・コース専門課程で学ぶプロフェッショナルな技能により、自分を表現する方法を持ち、社会に向けて、自らの考えを発信できる。 ・自ら設定した表現課題（文芸、編集、放送、映像、英語コミュニケーション、エンターテインメント、表現ビジネス）の知的領域の表現方法を理解し、構想することができる。
思考・判断・表現	・問題を自ら発見し、クリエイティブな思考、判断をすることができる。 ・多様な価値観を理解し、自らの意見を、論理的・創造的に再構築、表現することができる。 ・メディアリテラシーと倫理に関する知識を基準にして、コミュニケーションすることができる。その上で、「自分らしい」独自な思考を表現することができる。
関心・意欲・態度	・自らの作品や表現を、よりよい社会の形成や発展に活かそうとする姿勢を身につけている。 ・他者の作品や表現を評価するにあたっては、クリエイターの個性を尊重する態度とともに、より深い理解の上に立った正当な評価をしようとする姿勢を身につけている。 ・他者と協働しながら作品を創造することの喜びや有用性について知悉しており、共同作品を作成することに意欲を有している。



表現学部　表現文化学科　エンターテインメントビジネスコース　（第Ⅱ類科目）の履修について

表現文化学科 エンターテインメントビジネスコース DP（ディプロマポリシー：卒業時に身についている能力）

知識・理解	・現代の国際社会・日本社会を生き抜くための教養と知的技能を有し、表現文化に関する専門知識、表現文化を体系的に理解できる。 ・コース専門課程で学ぶプロフェッショナルな技能により、自分を表現する方法を持ち、社会に向けて、自らの考えを発信できる。 ・自ら設定した表現課題（文芸、編集、放送、映像、英語コミュニケーション、エンターテインメント、表現ビジネス）の知的領域の表現方法を理解し、構想することができる。
思考・判断・表現	・問題を自ら発見し、クリエイティブな思考、判断をすることができる。 ・多様な価値観を理解し、自らの意見を、論理的・創造的に再構築、表現することができる。 ・メディアリテラシーと倫理に関する知識を基準にして、コミュニケーションすることができる。その上で、「自分らしい」独自な思考を表現することができる。
関心・意欲・態度	・自らの作品や表現を、よりよい社会の形成や発展に活かそうとする姿勢を身につけている。 ・他者の作品や表現を評価するにあたっては、クリエイターの個性を尊重する態度とともに、より深い理解の上に立った正当な評価をしようとする姿勢を身につけている。 ・他者と協働しながら作品を創造することの喜びや有用性について知悉しており、共同作品を作成することに意欲を有している。



第Ⅱ類科目

		授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
○基礎部門	基礎部門	表現文化概論	1 2	2	3科目6単位必修
		メディア表現論	2 3	2	
		表現プロデュース論	1	2	
		文芸表現論	1	2	
		映像文化論	2 3	2	
○分野別部門	分野別部門	クリエイティブライティング研究A	1 2	2	
		クリエイティブライティング研究B	1 2 3	2	
		クリエイティブライティング研究C	1 2 3	2	
		クリエイティブライティング研究D	1 2 3	2	
		クリエイティブライティング研究E	1 2 3	2	
		リテラリーライティング研究A	2 3 4	2	
		リテラリーライティング研究B	3	2	
		リテラリーライティング研究C	2 3 4	2	
		リテラリーライティング研究D	2 3 4	2	
		リテラリーライティング研究E	4	2	
		広告・企画表現A	2 3	4	
		広告・企画表現B	2 3	4	
		広告・企画表現C	3 4	4	
		広告・企画表現D	3 4	4	
		情報・メディア表現A	2 3	4	
		情報・メディア表現B	2 3	4	
		情報・メディア表現C	3 4	4	
		情報・メディア表現D	3 4	4	
		エディトリアルライティング研究A	2 3 4	2	
		エディトリアルライティング研究B	2 3 4	2	
		エディトリアルライティング研究C	2 3 4	2	
		エディトリアルライティング研究D	2 3 4	2	
		エディトリアルライティング研究E	2 3 4	2	
		出版編集文化論A	1 2 3 4	2	
		出版編集文化論B	2 3 4	2	
		出版編集文化論C	2 3 4	2	
		出版編集文化論D	2 3 4	2	
		メディア表現研究A	2 3	2	
		メディア表現研究B	2 3	2	
		メディア表現研究C	2 3	2	
		映像文化研究A	1 2 3	2	
		映像文化研究B	1 2 3	2	
		映像文化研究C	2 3	2	
		放送文化研究A	1 2 3	2	
		放送文化研究B	2 3	2	
		放送文化研究C	2 3	2	

次頁に続く

第Ⅱ類科目

		授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
○分野別部門	分野別部門	ウェブ表現研究A	1 2 3	2	
		ウェブ表現研究B	2 3	2	
		ウェブ表現研究C	2 3	2	
		ウェブ表現研究D	2 3	2	
		セルフマーケティングⅠ	1	2	
		セルフマーケティングⅡ	1	2	
		セルフマーケティングⅢ	2	2	
		セルフマーケティングⅣ	2	2	
		セルフマーケティングⅤ	3	2	
		セルフマーケティングⅥ	3	2	
		ビジネス英語Ⅰ	1	1	
		ビジネス英語Ⅱ	1	1	
		ビジネス英語Ⅲ	2	1	
		ビジネス英語Ⅳ	2	1	
		ビジネス英語Ⅴ	3	2	
		ビジネス英語Ⅵ	3	2	
		経済学基礎	1 2	2	
		経営システム概論	1 2	2	
		財務・会計基礎	1 2	2	
		組織論	1 2	2	
		表現マネジメント研究A	2 3	2	
		表現マネジメント研究B	2 3	2	
		表現マネジメント研究C	2 3	2	
		表現マネジメント研究D	2 3	2	
		マーケティング基礎論A	1 2	2	
		マーケティング基礎論B	1 2	2	
		マーケティング論A	2 3	2	
		マーケティング論B	2 3	2	
		広報論A	2 3 4	2	
		広報論B	2 3 4	2	
		広告論A	2 3 4	2	
		広告論B	2 3 4	2	
		著作権概論	1 2 3 4	2	
		知的財産論A	1 2 3 4	2	
		知的財産論B	1 2 3 4	2	
		組織コンプライアンス論	1 2 3 4	2	
		ワークショップ(文芸)Ⅰ	1	6	
		ワークショップ(文芸)Ⅱ	1	6	
		ワークショップ(文芸)Ⅲ	2	6	
		ワークショップ(文芸)Ⅳ	2	6	
		ワークショップ(文芸)Ⅴ	3	6	
		ワークショップ(文芸)Ⅵ	3	6	
		ワークショップ(文芸)Ⅶ	4	6	
		ワークショップ(編集)Ⅰ	1	6	
		ワークショップ(編集)Ⅱ	1	6	
		ワークショップ(編集)Ⅲ	2	6	
		ワークショップ(編集)Ⅳ	2	6	
		ワークショップ(編集)Ⅴ	3	6	
		ワークショップ(編集)Ⅵ	3	6	
		ワークショップ(編集)Ⅶ	4	6	

次頁に続く

第Ⅱ類科目

		授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
分野別部門	分野別部門	ワークショップ(放送・映像)Ⅰ	1	6	
		ワークショップ(放送・映像)Ⅱ	1	6	
		ワークショップ(放送・映像)Ⅲ	2	6	
		ワークショップ(放送・映像)Ⅳ	2	6	
		ワークショップ(放送・映像)Ⅴ	3	6	
		ワークショップ(放送・映像)Ⅵ	3	6	
		ワークショップ(放送・映像)Ⅶ	4	6	
		ワークショップ(ウェブ)Ⅰ	3	6	
		ワークショップ(ウェブ)Ⅱ	3	6	
		ワークショップ(ウェブ)Ⅲ	4	6	
		ワークショップ(ウェブ)Ⅳ	4	6	
		基礎ゼミナール(エンビズ)Ⅰ	1	2	
		基礎ゼミナール(エンビズ)Ⅱ	1	2	
		基礎ゼミナール(エンビズ)Ⅲ	2	2	
		基礎ゼミナール(エンビズ)Ⅳ	2	2	
		専門ゼミナール(エンビズ)Ⅰ	3	2	
		専門ゼミナール(エンビズ)Ⅱ	3	2	
		専門ゼミナール(エンビズ)Ⅲ	4	2	
		専門ゼミナール(エンビズ)Ⅳ	4	2	
共通部門	共通部門	業界研究A	2 3 4	2	
		業界研究B	2 3 4	2	
		業界研究C	2 3 4	2	
		業界研究D	2 3 4	2	
		業界研究E	2 3 4	2	
		業界研究F	2 3 4	2	
		インターンシップ(表現)A	1 2 3 4	2	
		インターンシップ(表現)B	1 2 3 4	2	
		インターンシップ(表現)C	2 3 4	2	
		インターンシップ(表現)D	2 3 4	2	
卒業論文・卒業制作		卒業論文	4	8	8単位選択必修
		卒業制作	4	8	

■ 履修にあたっては以下のルールにしたがうこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

［1］別表の指示に従い履修すること。
［2］卒業までに124単位以上(第Ⅰ類科目は26単位)修得すること。
［3］必修を含めて第Ⅱ類科目を合計88単位以上修得すること。
　　ただし、30単位までは、他学科第Ⅱ類科目及び第Ⅲ類科目から充当することができる。
［4］第Ⅰ類科目余剰分(26単位を超えて修得した単位)は第Ⅲ類科目として認定する。

関連分野科目

関連分野科目について

◆ 関連分野科目の履修方法

1 この関連分野科目は、所属するコースの専門学習をするにあたって、隣接する学問分野の学科目のうち、当該コース固有の教育理念・目標を達成する上で特に有用と考えられる学科目である。これらの学科目を履修することによって、専門知識の広範な応用力を身につけるとともに、専門的な視点からの考察力や判断力、理解力を深めることを目的としている。

2 関連分野科目は、原則として3年次以降に履修する。

3 関連分野科目の履修にあたっては、定められた単位数の範囲内で、指導に基づいて科目を履修する（履修可能な科目は、コースによって異なる）。

4 履修科目は、年度により異なるため、別途示す。

第Ⅲ類科目

教職・資格・キャリアに関する科目

第Ⅲ類科目

仏教学部
人間学部
心理社会学部
文学部
表現学部

第Ⅲ類科目

◆ 第Ⅲ類科目の履修方法（地域創生学部は履修対象外）

第Ⅲ類科目は、教職・諸資格、社会・地域貢献、キャリア形成・自己研鑽に関する科目である。
各自の将来の目標や、専門の学びから視野を広げるために自由に履修計画を立てることができる。

ただし、卒業要件に必要な単位として認められる単位数には上限があるので、各学部学科の別表に記載されている卒業要件を確認し、履修を計画すること。

（参考）
第Ⅰ類科目　学問への入門的方法を身につけることを目的とした科目
第Ⅱ類科目　所属学部の専門教育科目

◎第Ⅲ類科目は、ガイダンスで指示のある科目以外は２年次以降に履修する科目である。

１．教職・諸資格に関する科目

免許状や資格を取得するためには、卒業要件とは別に、法律や認定団体が定める規定に従って本学で開講している教職・諸資格取得に関する科目の単位を修得しなければならない。

教職・諸資格に関する科目の一部は、第Ⅲ類科目として位置づけ、学則に定める範囲で卒業単位として認定することができる。（詳細は、ガイダンスや教職支援センターで確認すること。）

資格の種類

■教職課程　　【免許状】
■司書教諭　　【修了証】
　※教職課程と同時履修
■社会教育主事　　【認定証】
■司　　書　　【資格証明書】
■学 芸 員　　【資格証明書】
■僧　　階
　※各宗派の履修指導に従うこと
【養成講座】
■日本語教員養成講座　【修了証】
■社会教化者養成講座　【修了証、浄土宗の場合は任命書】
■浄土宗開教使養成講座　【修了証】

２．社会・地域貢献に関する科目

地域との連帯を模索し、社会貢献に資する人材を育成する科目である。
人と人、人と地域、人と社会のつながりや関係性を知り、地域社会に貢献する方法を学び、さらにサービスラーニングを通して具体的な地域の課題を発見し、それを地域の人々とともに共有し解決できる能力を養うことを目的としている。
なお、サービスラーニングの学びの場は本学の所在する豊島区巣鴨地域が中心となる。

３．キャリア育成支援に関する科目

卒業後の進路や就職など、学生個々のキャリア形成を支援する科目である。
社会や産業界の現状を知り、社会は何を求めているのか、そして自分自身がどのような職業を選ぶのか、そのためには何が必要なのか等、自分のキャリアについて主体的に考えていくことを目的としている。
講義では、様々な分野で活躍する方々から話を聞いたり、ワークショップやインターンシップを通したことにより、キャリアビジョンの獲得を目指す。

４．自己研鑽に関する科目

個人の研鑽を目的として、自主的に体験学習したことを単位として認定する科目である。授業によっては、計画書と報告書の提出が義務付けられるとともに、単位認定にあたって面接等が実施される場合がある。
特に、仏教研修・仏教フィールドワークは本学の建学の精神である仏教を体験する科目である。
仏教研修は本学の設立宗派の本山である、延暦寺・長谷寺・智積院・知恩院で、勤行・礼拝・瞑想などを体験したり、僧侶の講話を聞いたりする。仏教フィールドワークは、奈良・京都などの寺院や文化財を探訪し、日本を代表する優れた仏教美術（仏像・仏画・寺院建築等）を実際に鑑賞し、現地の講師の講義を受けることで、仏教文化の理解を深める。

５．チャレンジプログラムに関する科目

「大正大学チャレンジプログラム」は、『仏教文化・発信プログラム』『ビジネス・マネジメントプログラム』『コミュニティプログラム』の３つからなる新たな「智」の領域を広げるプログラムである。
学部・学科・コースの枠を超えて認められた科目を履修でき、自身の専門領域とは異なる知識や技能を身につけることができる。
※この他スポーツ特別入試での入学者を対象とした、『スポーツマネージメントプログラム』があります。

	授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
教職・資格に関する科目 D群〈司書〉	生涯学習概論	2 3 4	4	※教職・資格に関する科目（A群～F群）の履修については、学科・コースおよび、資格によって異なる。
	図書館概論	2 3 4	2	
	図書館情報技術論	2 3 4	2	
	図書館制度・経営論	2 3 4	2	
	図書館サービス概論	2 3 4	2	
	情報サービス論	2 3 4	2	
	情報サービス演習A	2 3 4	2	
	情報サービス演習B	2 3 4	2	
	図書館情報資源概論	2 3 4	2	
	情報資源組織論	2 3 4	2	
	情報資源組織演習A	2 3 4	2	
	情報資源組織演習B	2 3 4	2	
	児童サービス論	2 3 4	2	
	図書・図書館史	2 3 4	1	
	図書館サービス特論	2 3 4	1	
	図書館情報資源特論	2 3 4	1	
	図書館施設論	2 3 4	1	
E群〈司書教諭〉	学校経営と学校図書館	2 3 4	2	
	学校図書館メディアの構成	2 3 4	2	
	学習指導と学校図書館	2 3 4	2	
	読書と豊かな人間性	2 3 4	2	
	情報メディアの活用	2 3 4	2	

次頁に続く

	授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
教職・資格に関する科目 F群〈日本語教員養成〉	英語表現論	2 3 4	2	※教職・資格に関する科目（A群～F群）の履修については、学科・コースおよび、資格によって異なる。
	Workshop（異文化の理解）Ⅰ-A	2 3 4	2	
	Workshop（異文化の理解）Ⅰ-B	2 3 4	2	
	Workshop（異文化の理解）Ⅰ-C	2 3 4	2	
	キャリア英語表現Ⅰ	2 3 4	2	
	基礎日本文学A	2 3 4	2	
	基礎日本文学B	2 3 4	2	
	基礎日本文学C	2 3 4	2	
	基礎日本文学D	2 3 4	2	
	基礎日本語A	2 3 4	2	
	基礎日本語B	2 3 4	2	
	基礎日本語C	2 3 4	2	
	基礎日本語D	2 3 4	2	
	日本語学研究A	2 3 4	2	
	日本語学研究B	2 3 4	2	
	日本語学研究C	2 3 4	2	
	日本語学研究D	2 3 4	2	
	音声学研究A	2 3 4	2	
	音声学研究B	2 3 4	2	
	言語学研究A	2 3 4	2	
	言語学研究B	2 3 4	2	
	日本語学研究E（語彙・意味）	2 3 4	4	
	日本語学研究F（社会言語学）	2 3 4	2	
	日本語学研究G（対照言語学）	2 3 4	2	
	日本語教育研究A（教授法概論）	2 3 4	4	
	日本語教育研究B（段階別教授法）	2 3 4	4	
	日本語教育研究C（教材・教具）	2 3 4	4	
	心理学概説	2 3 4	2	
	学習・発達論	2 3 4	2	
	情報メディアの活用	2 3 4	2	
	日本語教育実習	2 3 4	1	

次頁に続く

		授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
社会・地域貢献に関する科目	G群〈社会・地域貢献に関する科目〉	サービスラーニングⅠ-A	1 2 3 4	2~4	※G群はNCP（ネクスト・コミュニティプログラム）講座として開講
		サービスラーニングⅠ-B	1 2 3 4	2~4	
		サービスラーニングⅠ-C	1 2 3 4	2~4	
		サービスラーニングⅠ-D	1 2 3 4	2~4	
		サービスラーニングⅡ-A	1 2 3 4	2~4	
		サービスラーニングⅡ-B	1 2 3 4	2~4	
		サービスラーニングⅡ-C	1 2 3 4	2~4	
		サービスラーニングⅡ-D	1 2 3 4	2~4	
キャリア育成支援に関する科目	H群〈キャリア育成支援に関する科目〉	キャリア育成特設講座A	1 2 3 4	2	
		キャリア育成特設講座B	1 2 3 4	2	
		キャリア育成特設講座C	1 2 3 4	2	
		キャリア育成特設講座D	1 2 3 4	2	
		キャリア育成特設講座E	1 2 3 4	2	
		インターンシップ	1 2 3 4	1~8	
		ワークショップ	1 2 3 4	2~4	
自己研鑽に関する科目	I群〈自己研鑽に関する科目〉	プロジェクト研究	1 2 3 4	2~8	
		フィールドワーク	1 2 3 4	1~8	
		ボランティア	1 2 3 4	2~8	
		仏教研修	1 2 3 4	2	
		仏教フィールドワーク	1 2 3 4	2	
		語学研修英会話	1 2 3 4	2	
		語学研修ドイツ語会話	1 2 3 4	2	
		語学研修中国語会話	1 2 3 4	2	
		アメリカ文化論	1 2 3 4	2	
		ドイツ文化論	1 2 3 4	2	
		中国文化論	1 2 3 4	2	
		韓国文化論	1 2 3 4	2	
チャレンジプログラム科目	J群〈チャレンジプログラム科目〉	経営学概論	2 3 4	2	※J群はチャレンジプログラムとして開講
		経営学基礎	2 3 4	2	
		経営学応用A	2 3 4	2	
		経営学応用B	2 3 4	2	
		商品企画演習	2 3 4	2	
		経営学実習A	2 3 4	2	
		経営学実習B	2 3 4	2	
		コミュニティ基礎論	2 3 4	2	
		プログラムゼミⅠ	2 3 4	1	
		プログラムゼミⅡ	2 3 4	1	
		プログラムゼミⅢ	2 3 4	1	
		プログラムゼミⅣ	2 3 4	1	
		仏教文化・発信研究A	2 3 4	1	
		仏教文化・発信研究B	2 3 4	1	
		仏教文化・発信研究C	2 3 4	1	
		仏教文化・発信研究D	2 3 4	1	
		仏教文化・発信研究E	2 3 4	1	
		仏教文化・発信研究F	2 3 4	1	
		スポーツ救急処置論	1	2	
		スポール社会学	1	2	
		スポーツ経営管理論	2	2	
		スポーツ栄養学	2	2	
		スポーツマネジメント論A	2	2	
		スポーツマネジメント論B	3	2	
		スポーツコーチング論	3	2	
		地域スポーツ政策論A	2	2	
		地域スポーツ政策論B	3	2	
		地域スポーツ政策論C	3	2	

地域創生学科

地域創生学部　地域創生学科

4つの人材像【①コーディネーター】

地域創生学科　DP
（ディプロマポリシー：
卒業時に身についている能力）

■コーディネーターとは……地域社会の諸主体（産官学民）や多様な分野・専門家を繋いで地域を取り巻く課題やニーズに対応する計画や連携・協働活動を創出する人材

知識・技能	◆地域社会が直面している諸課題を深く考え、解決に向けた地域再生の取組や地域価値の創造に関する知識・教養を身につけている。 ◆地域創生に必要な経済学・経営学・社会学等の基礎的知識を論理的に理解している。 ◆学問領域で得た知識を、地域創生や地域振興の現場での実践力へと高めることができる。
思考・判断・表現	◆自らがテーマとした地域創生や地域活性化の方策について、経済・経営学的な思考を基礎として、関連する学問領域の研究手法を用いて考察することができる。 ◆・経済学や経営学の知識や手法を用いて、地域の潜在的価値や能力、課題を発見できる。 ◆・他者の意見を取り入れ、自らの考えを的確に表現・伝達できる能力を身につけている。
関心・意欲・態度	◆地域社会において地域創生や地域振興のリーダーとして、自身の役割を自覚し、課題を積極的に解決しようとする姿勢を有している。 ◆学問領域で得た知識を活用し、地域創生や地域活性化の多様なニーズに応えようとする意欲や行動力を身につけている。 ◆他者と共に目標を達成することの意義を理解し、コミュニケーションを通じて相互理解や合意形成を実現しようとする姿勢が醸成されている。

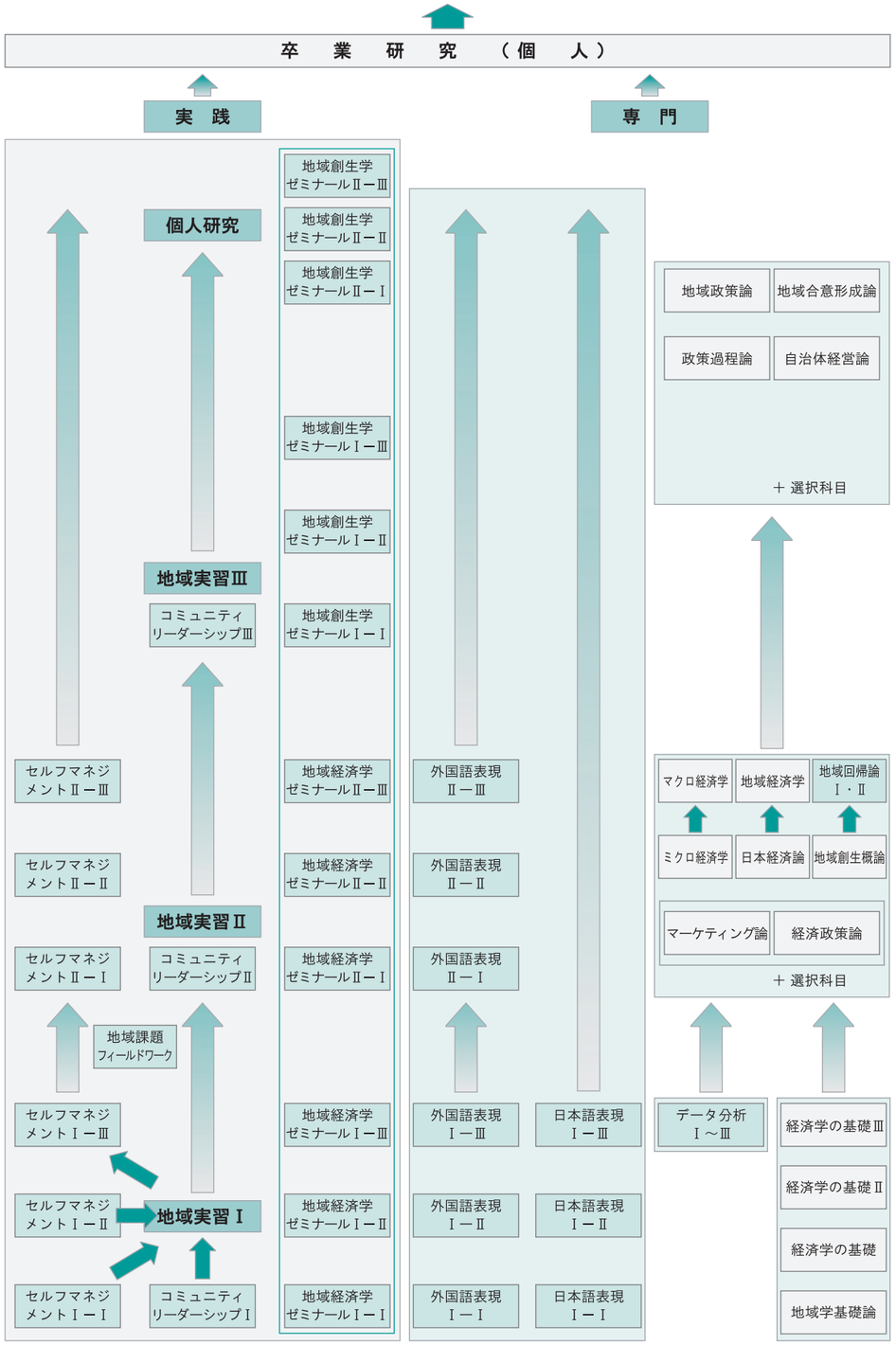
… 演習系
… 座学

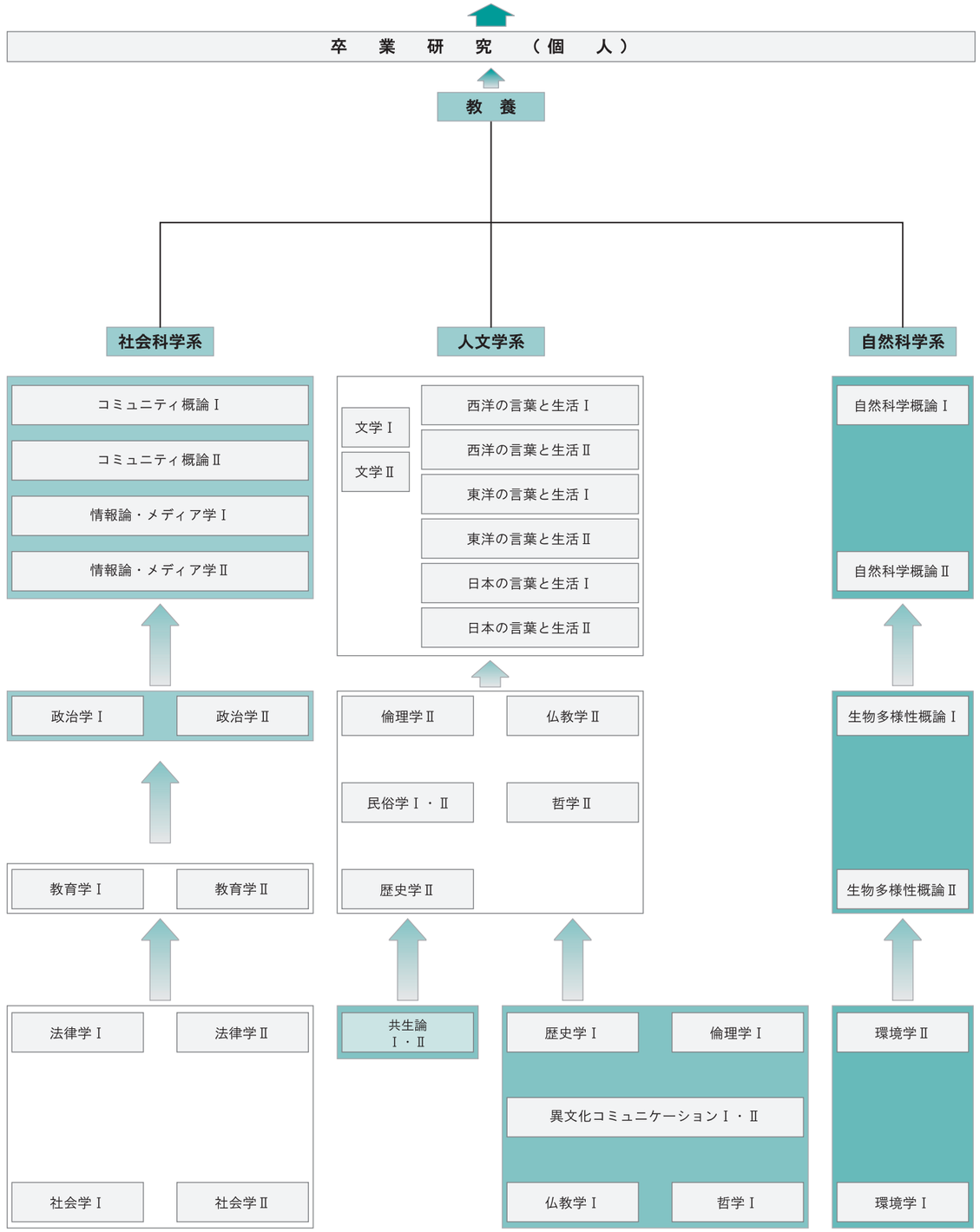
教育目標
◆地域主体とニーズをつないで、課題解決の糸口となる計画や連携・協働活動を創出することができる
4年生

教育目標
◆地域における課題解決（案）を提示できる
◆実習地の分析結果を現地にフィードバックできる
3年生

教育目標
◆地域課題を経済学の視点から分析することができる
◆地域資源を活用して、地方と都市を比較することができる
◆3年次に向けた課題解決（案）を企画することができる
2年生

教育目標
◆データ収集・レポート作成能力が身についている
◆コミュニケーション能力が身につけている
◆セルフマネジメントによる生活習慣が身につけている
◆地域の実情を知り、課題を見つけることができる
1年生





地域創生学部　地域創生学科

４つの人材像【②エコノミスト】

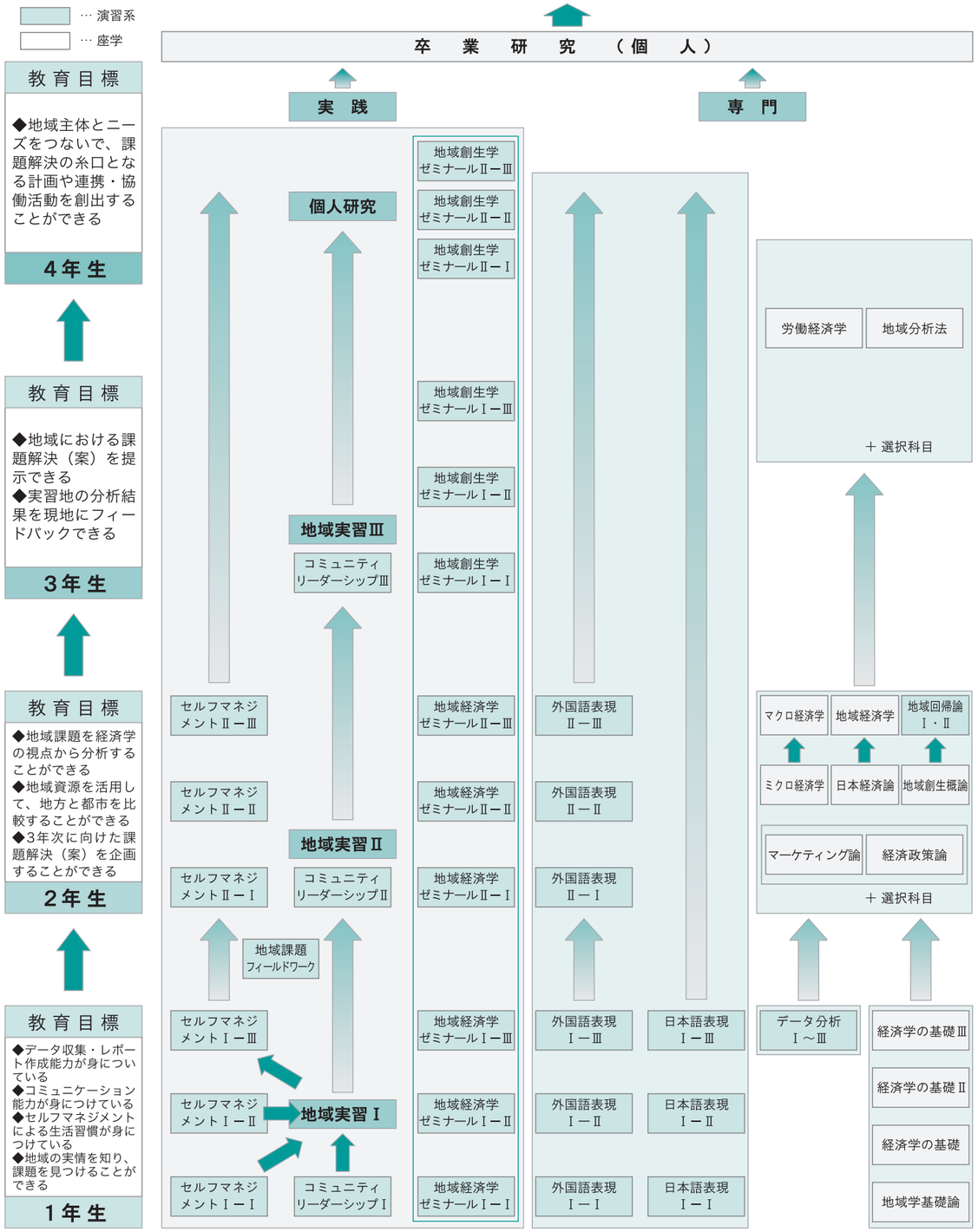
地域創生学科　DP
（ディプロマポリシー：
卒業時に身についている能力）

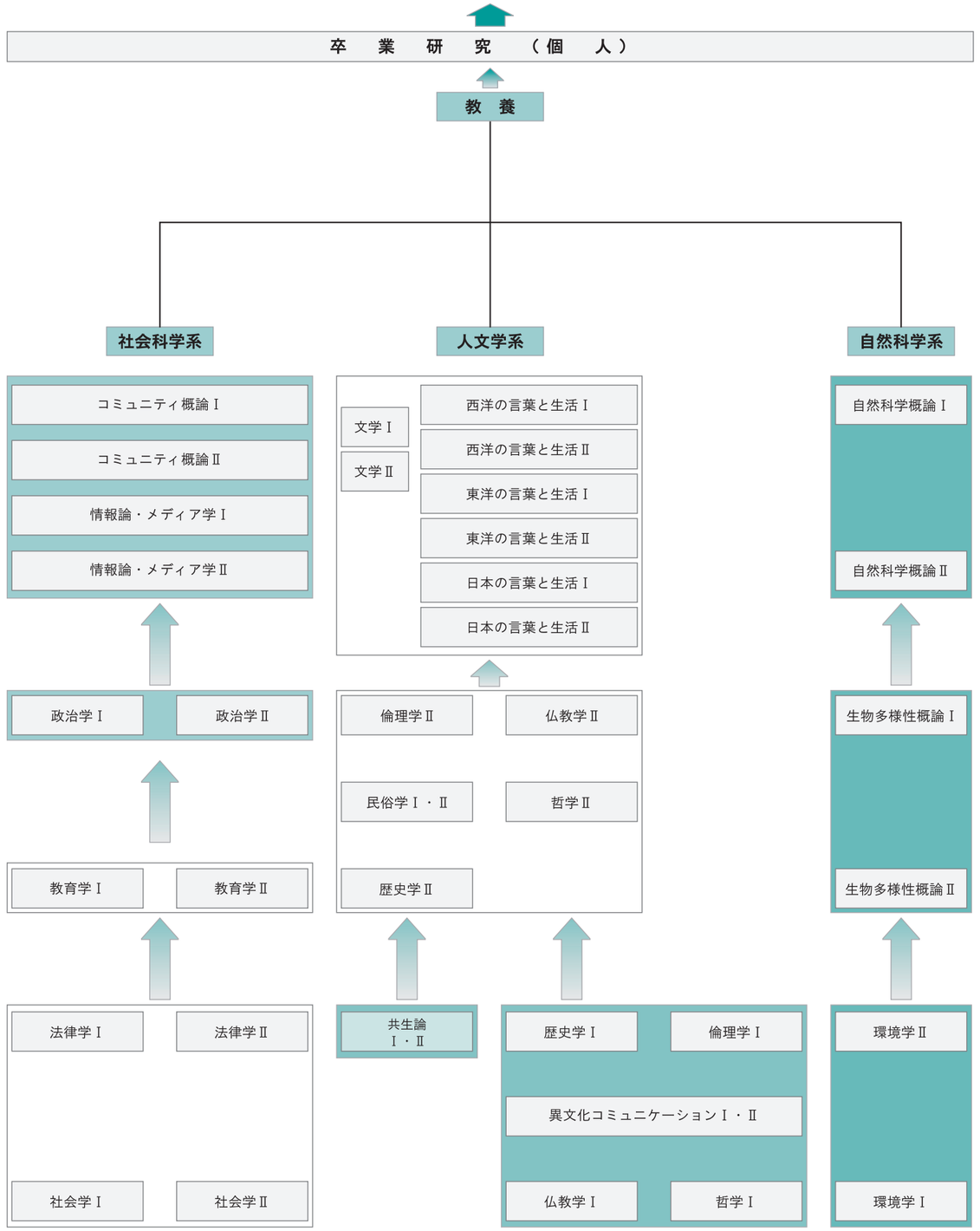
■エコノミストとは……
地域経済の動きや問題を調査・分析・予測し、地域に根ざした経済・産業活動による現実的な解決策を提案する地域経済政策等にかかわる人材

知識・技能
- ◆地域社会が直面している諸課題を深く考え、解決に向けた地域再生の取組や地域価値の創造に関する知識・教養を身につけている。
- ◆地域創生に必要な経済学・経営学・社会学等の基礎的知識を論理的に理解している。
- ◆学問領域で得た知識を、地域創生や地域振興の現場での実践力へと高めることができる。

思考・判断・表現
- ◆自らがテーマとした地域創生や地域活性化の方策について、経済・経営学的な思考を基礎として、関連する学問領域の研究手法を用いて考察することができる。
- ◆・経済学や経営学の知識や手法を用いて、地域の潜在的価値や能力、課題を発見できる。
- ◆・他者の意見を取り入れ、自らの考えを的確に表現・伝達できる能力を身につけている。

関心・意欲・態度
- ◆地域社会において地域創生や地域振興のリーダーとして、自身の役割を自覚し、課題を積極的に解決しようとする姿勢を有している。
- ◆学問領域で得た知識を活用し、地域創生や地域活性化の多様なニーズに応えようとする意欲や行動力を身につけている。
- ◆他者と共に目標を達成することの意義を理解し、コミュニケーションを通じて相互理解や合意形成を実現しようとする姿勢が醸成されている。





地域創生学部　地域創生学科

4つの人材像【③アントレプレナー】

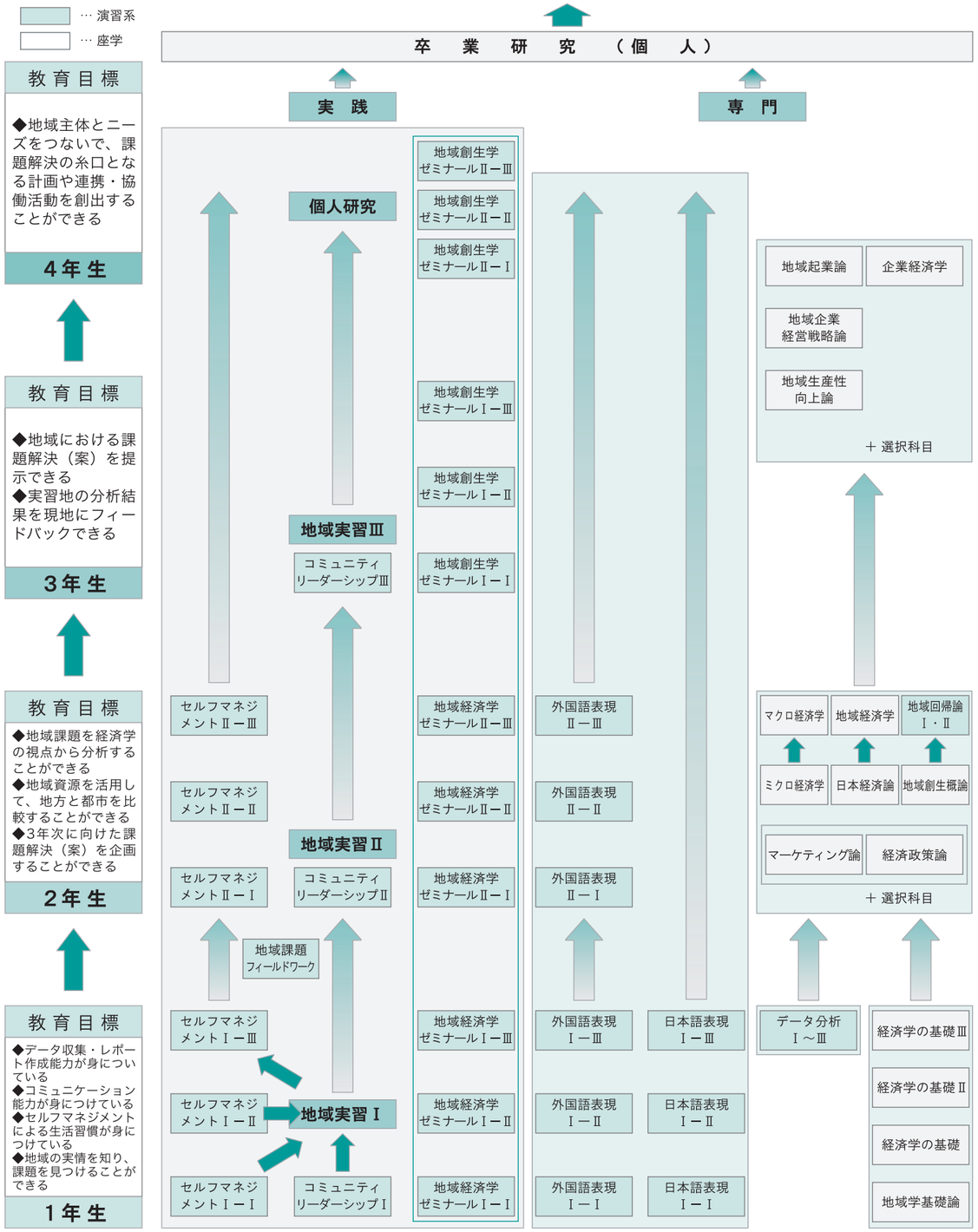
地域創生学科　DP
（ディプロマポリシー：
卒業時に身についている能力）

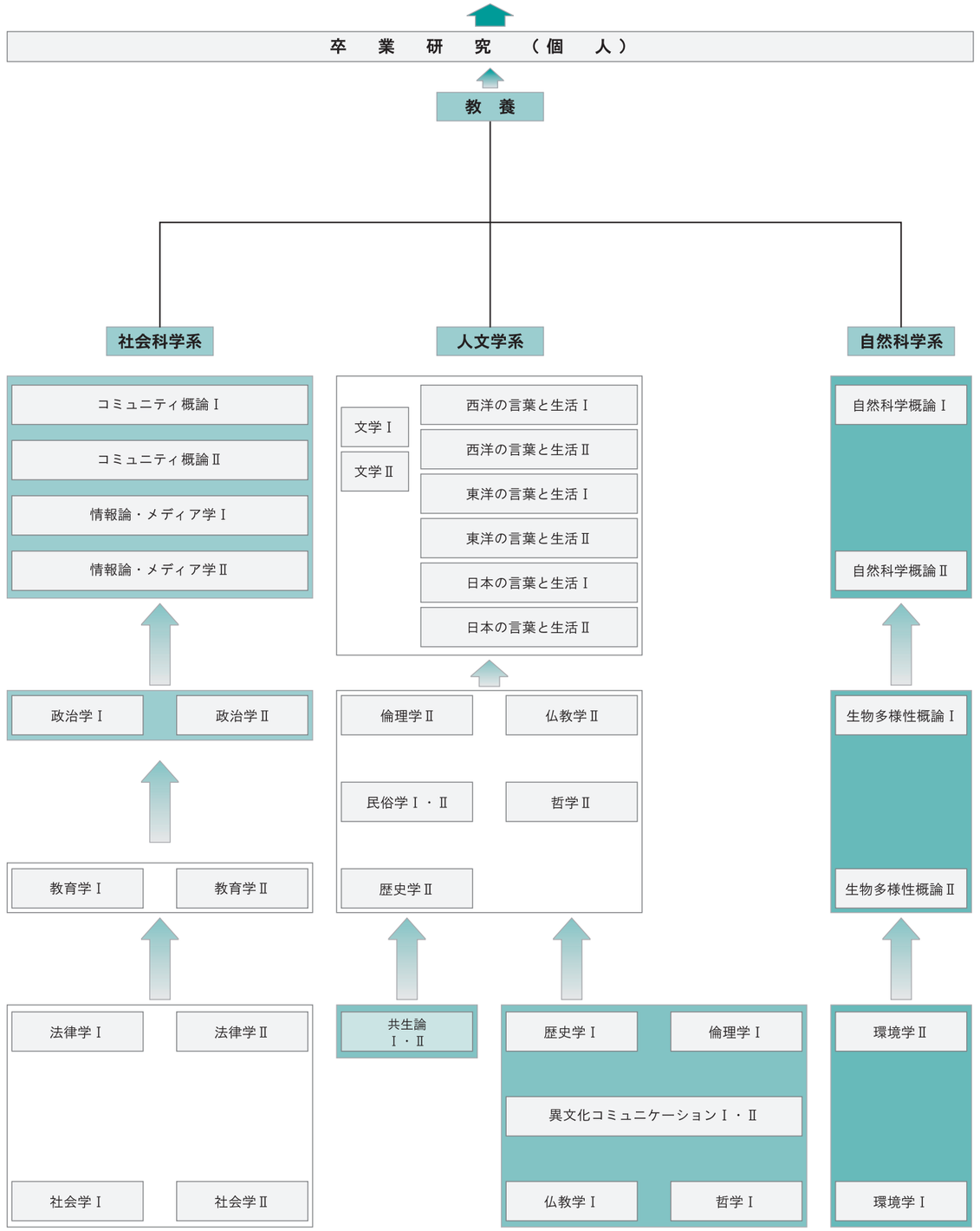
■アントレプレナーとは……
地域社会の課題やニーズに対応すべく、地域産業や観光資源を活用し、事業化することで地域活性化を具現化する人材

知識・技能
- ◆地域社会が直面している諸課題を深く考え、解決に向けた地域再生の取組や地域価値の創造に関する知識・教養を身につけている。
- ◆地域創生に必要な経済学・経営学・社会学等の基礎的知識を論理的に理解している。
- ◆学問領域で得た知識を、地域創生や地域振興の現場での実践力へと高めることができる。

思考・判断・表現
- ◆自らがテーマとした地域創生や地域活性化の方策について、経済・経営学的な思考を基礎として、関連する学問領域の研究手法を用いて考察することができる。
- ◆・経済学や経営学の知識や手法を用いて、地域の潜在的価値や能力、課題を発見できる。
- ◆・他者の意見を取り入れ、自らの考えを的確に表現・伝達できる能力を身につけている。

関心・意欲・態度
- ◆地域社会において地域創生や地域振興のリーダーとして、自身の役割を自覚し、課題を積極的に解決しようとする姿勢を有している。
- ◆学問領域で得た知識を活用し、地域創生や地域活性化の多様なニーズに応えようとする意欲や行動力を身につけている。
- ◆他者と共に目標を達成することの意義を理解し、コミュニケーションを通じて相互理解や合意形成を実現しようとする姿勢が醸成されている。





地域創生学部　地域創生学科

４つの人材像【④オーガナイザー】

地域創生学科　DP
（ディプロマポリシー：
卒業時に身についている能力）

■オーガナイザーとは……
効果的な地域活性化の仕組みや制度を考案・企画し、地域再生事業を組織化・構築し、地域実践の事業化を実現する人材

知識・技能	◆地域社会が直面している諸課題を深く考え、解決に向けた地域再生の取組や地域価値の創造に関する知識・教養を身につけている。 ◆地域創生に必要な経済学・経営学・社会学等の基礎的知識を論理的に理解している。 ◆学問領域で得た知識を、地域創生や地域振興の現場での実践力へと高めることができる。
思考・判断・表現	◆自らがテーマとした地域創生や地域活性化の方策について、経済・経営学的な思考を基礎として、関連する学問領域の研究手法を用いて考察することができる。 ◆・経済学や経営学の知識や手法を用いて、地域の潜在的価値や能力、課題を発見できる。 ◆・他者の意見を取り入れ、自らの考えを的確に表現・伝達できる能力を身につけている。
関心・意欲・態度	◆地域社会において地域創生や地域振興のリーダーとして、自身の役割を自覚し、課題を積極的に解決しようとする姿勢を有している。 ◆学問領域で得た知識を活用し、地域創生や地域活性化の多様なニーズに応えようとする意欲や行動力を身につけている。 ◆他者と共に目標を達成することの意義を理解し、コミュニケーションを通じて相互理解や合意形成を実現しようとする姿勢が醸成されている。

… 演習系
… 座学

卒　業　研　究　（個　人）

教育目標

◆地域主体とニーズをつないで、課題解決の糸口となる計画や連携・協働活動を創出することができる

４年生

教育目標

◆地域における課題解決（案）を提示できる
◆実習地の分析結果を現地にフィードバックできる

３年生

教育目標

◆地域課題を経済学の視点から分析することができる
◆地域資源を活用して、地方と都市を比較することができる
◆3年次に向けた課題解決（案）を企画することができる

２年生

教育目標

◆データ収集・レポート作成能力が身についている
◆コミュニケーション能力が身につけている
◆セルフマネジメントによる生活習慣が身につけている
◆地域の実情を知り、課題を見つけることができる

１年生

実　践

- 個人研究
- 地域実習Ⅲ
- 地域実習Ⅱ
- 地域実習Ⅰ
- 地域課題フィールドワーク
- コミュニティリーダーシップⅢ
- コミュニティリーダーシップⅡ
- コミュニティリーダーシップⅠ
- セルフマネジメントⅡ－Ⅲ
- セルフマネジメントⅡ－Ⅱ
- セルフマネジメントⅡ－Ⅰ
- セルフマネジメントⅠ－Ⅲ
- セルフマネジメントⅠ－Ⅱ
- セルフマネジメントⅠ－Ⅰ
- 地域創生学ゼミナールⅡ－Ⅲ
- 地域創生学ゼミナールⅡ－Ⅱ
- 地域創生学ゼミナールⅡ－Ⅰ
- 地域創生学ゼミナールⅠ－Ⅲ
- 地域創生学ゼミナールⅠ－Ⅱ
- 地域創生学ゼミナールⅠ－Ⅰ
- 地域経済学ゼミナールⅡ－Ⅲ
- 地域経済学ゼミナールⅡ－Ⅱ
- 地域経済学ゼミナールⅡ－Ⅰ
- 地域経済学ゼミナールⅠ－Ⅲ
- 地域経済学ゼミナールⅠ－Ⅱ
- 地域経済学ゼミナールⅠ－Ⅰ

専　門

- 地域コミュニティ論
- 経営組織論
- NPO・市民活動論
- ＋ 選択科目
- 外国語表現Ⅱ－Ⅲ
- 外国語表現Ⅱ－Ⅱ
- 外国語表現Ⅱ－Ⅰ
- 外国語表現Ⅰ－Ⅲ
- 外国語表現Ⅰ－Ⅱ
- 外国語表現Ⅰ－Ⅰ
- 日本語表現Ⅰ－Ⅲ
- 日本語表現Ⅰ－Ⅱ
- 日本語表現Ⅰ－Ⅰ
- マクロ経済学
- 地域経済学
- 地域回帰論Ⅰ・Ⅱ
- ミクロ経済学
- 日本経済論
- 地域創生概論
- マーケティング論
- 経済政策論
- ＋ 選択科目
- データ分析Ⅰ～Ⅲ
- 経済学の基礎Ⅲ
- 経済学の基礎Ⅱ
- 経済学の基礎
- 地域学基礎論

卒　業　研　究　（個　人）

教　養

社会科学系

- コミュニティ概論Ⅰ
- コミュニティ概論Ⅱ
- 情報論・メディア学Ⅰ
- 情報論・メディア学Ⅱ
- 政治学Ⅰ
- 政治学Ⅱ
- 教育学Ⅰ
- 教育学Ⅱ
- 法律学Ⅰ
- 法律学Ⅱ
- 社会学Ⅰ
- 社会学Ⅱ

人文学系

- 文学Ⅰ
- 文学Ⅱ
- 西洋の言葉と生活Ⅰ
- 西洋の言葉と生活Ⅱ
- 東洋の言葉と生活Ⅰ
- 東洋の言葉と生活Ⅱ
- 日本の言葉と生活Ⅰ
- 日本の言葉と生活Ⅱ
- 倫理学Ⅱ
- 仏教学Ⅱ
- 民俗学Ⅰ・Ⅱ
- 哲学Ⅱ
- 歴史学Ⅱ
- 共生論Ⅰ・Ⅱ
- 歴史学Ⅰ
- 倫理学Ⅰ
- 異文化コミュニケーションⅠ・Ⅱ
- 仏教学Ⅰ
- 哲学Ⅰ

自然科学系

- 自然科学概論Ⅰ
- 自然科学概論Ⅱ
- 生物多様性概論Ⅰ
- 生物多様性概論Ⅱ
- 環境学Ⅱ
- 環境学Ⅰ

		授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
基盤教育	学問基盤科目群	外国語表現Ⅰ－Ⅰ（一般英語Ⅰ）	1	1	12科目必修
		外国語表現Ⅰ－Ⅱ（一般英語Ⅱ）	1	1	
		外国語表現Ⅰ－Ⅲ（一般英語Ⅲ）	1	1	
		外国語表現Ⅱ－Ⅰ（コミュニケーション英語Ⅰ）	2	1	
		外国語表現Ⅱ－Ⅱ（コミュニケーション英語Ⅱ）	2	1	
		外国語表現Ⅱ－Ⅲ（コミュニケーション英語Ⅲ）	2	1	
		日本語表現Ⅰ	1	1	
		日本語表現Ⅱ	1	1	
		日本語表現Ⅲ	1	1	
		データ分析Ⅰ（社会調査方法論）	1	1	
		データ分析Ⅱ（データ分析法）	1	1	
		データ分析Ⅲ（統計学）	1	1	
	実践基盤科目群	セルフマネジメントⅠ－Ⅰ	1	1	６科目必修
		セルフマネジメントⅠ－Ⅱ	1	1	
		セルフマネジメントⅠ－Ⅲ	1	1	
		セルフマネジメントⅡ－Ⅰ	2	1	
		セルフマネジメントⅡ－Ⅱ	2	1	
		セルフマネジメントⅡ－Ⅲ	2	1	
基盤・専門融合教育	教養科目群 人文学系科目	共生論Ⅰ	1 2	1	２科目必修
		共生論Ⅱ	1 2	1	
		仏教学Ⅰ	1 2	1	38科目から選択して、18科目以上必修
		仏教学Ⅱ	2 3	1	
		異文化コミュニケーション論Ⅰ	1 2	1	
		異文化コミュニケーション論Ⅱ	1 2	1	
		哲学Ⅰ	1 2	1	
		哲学Ⅱ	1 2	1	
		倫理学Ⅰ	1 2	1	
		倫理学Ⅱ	2 3	1	
		歴史Ⅰ（日本史）	1 2	1	
		歴史Ⅱ（西洋史）	1 2	1	
		民俗学Ⅰ	1 2	1	
		民俗学Ⅱ	1 2	1	
		文学Ⅰ	3 4	1	
		文学Ⅱ	3 4	1	
		日本の言葉と生活Ⅰ	2 3	1	
		日本の言葉と生活Ⅱ	3 4	1	
		東洋の言葉と生活Ⅰ	3 4	1	
		東洋の言葉と生活Ⅱ	3 4	1	
		西洋の言葉と生活Ⅰ	3 4	1	
		西洋の言葉と生活Ⅱ	3 4	1	
	社会科学系科目	社会学Ⅰ	1 2	1	
		社会学Ⅱ	1 2	1	
		教育学Ⅰ	1 2	1	
		教育学Ⅱ	2 3	1	
		法律学Ⅰ	1 2	1	
		法律学Ⅱ	1 2	1	
		政治学Ⅰ	2 3	1	
		政治学Ⅱ	3 4	1	
		コミュニティ概論Ⅰ	3 4	1	
		コミュニティ概論Ⅱ	3 4	1	
		情報論・メディア学Ⅰ	3 4	1	
		情報論・メディア学Ⅱ	3 4	1	
	自然科学系科目	環境学Ⅰ	1 2	1	
		環境学Ⅱ	1 2	1	
		生物多様性概論Ⅰ	1 2	1	
		生物多様性概論Ⅱ	2 3	1	
		自然科学概論Ⅰ	3 4	1	
		自然科学概論Ⅱ	3 4	1	

次頁に続く

地域創生学部

地域創生学部地域創生学科

			授業科目の名称	履修年次	単位	備　考
専門教育	地域創生理論科目群		地域学基礎論	1	2	13科目必修
			経済学の基礎Ⅰ	1 2	1	
			経済学の基礎Ⅱ	1 2	1	
			経済学の基礎Ⅲ	1 2	1	
			ミクロ経済学	2	2	
			マクロ経済学	2	2	
			地域経済学	2 3	2	
			経済政策論	2 3 4	2	
			日本経済論	2 3 4	2	
			マーケティング論	2 3 4	2	
			地域創生概論	2	2	
			地域回帰論Ⅰ（基礎論）	2	2	
			地域回帰論Ⅱ（実践論）	2	2	
			財政学	2 3 4	2	29科目から選択して、13科目以上必修
			金融論	2 3 4	2	
			国際経済学	2 3 4	2	
			比較経済論	2 3 4	2	
			労働経済学	2 3 4	2	
			環境経済学	2 3 4	2	
			企業経済学	2 3 4	2	
			応用ゲーム理論	2 3 4	2	
			産業集積論	2 3 4	2	
			生活政策論	2 3 4	2	
			自治体経営論	2 3 4	2	
			地域政策論	2 3 4	2	
			中山間地論	2 3 4	2	
			地方財政論	2 3 4	2	
			地域分析法	2 3 4	2	
			地域福祉論	2 3 4	2	
			地域起業論	2 3 4	2	
			地域企業経営戦略論	2 3 4	2	
			地域メディア論	2 3 4	2	
			政策過程論	2 3 4	2	
			人的資源管理論	2 3 4	2	
			地域生産性向上論	2 3 4	2	
			経営組織論	2 3 4	2	
			NPO・市民活動論	2 3 4	2	
			地域コミュニティ論	2 3 4	2	
			地域合意形成論	2 3 4	2	
			地域教育政策論	2 3 4	2	
			地域教育活動論	2 3 4	2	
			地域環境論	2 3 4	2	
	地域創生実践科目群	ゼミナール科目	地域経済学ゼミナールⅠ－Ⅰ	1	1	18科目必修
			地域経済学ゼミナールⅠ－Ⅱ	1	1	
			地域経済学ゼミナールⅠ－Ⅲ	1	1	
			地域経済学ゼミナールⅡ－Ⅰ	2	1	
			地域経済学ゼミナールⅡ－Ⅱ	2	1	
			地域経済学ゼミナールⅡ－Ⅲ	2	1	
			地域創生学ゼミナールⅠ－Ⅰ	3	1	
			地域創生学ゼミナールⅠ－Ⅱ	3	1	
			地域創生学ゼミナールⅠ－Ⅲ	3	1	
			地域創生学ゼミナールⅡ－Ⅰ	4	1	
			地域創生学ゼミナールⅡ－Ⅱ	4	1	
			地域創生学ゼミナールⅡ－Ⅲ	4	1	
		実習科目	コミュニティリーダーシップⅠ	1	1	
			コミュニティリーダーシップⅡ	2	1	
			コミュニティリーダーシップⅢ	3	1	
			地域実習Ⅰ	1	6	
			地域実習Ⅱ	2	6	
			地域実習Ⅲ	3	6	
			地域課題フィールドワーク（すがもプロジェクト）Ⅰ	1 2	2	自由選択
			地域課題フィールドワーク（すがもプロジェクト）Ⅱ	1 2	2	
			地域課題フィールドワーク（すがもプロジェクト）Ⅲ	1 2	2	
卒業論文			卒業研究	4	6	６単位必修

資格登録

資格登録および登録料

教職、諸資格に関する科目を履修する場合は１年次秋学期もしくは2年次春学期に
以下の登録料を添えて手続きを行うこと

教職・諸資格に関する科目〔第Ⅲ類科目〕を履修するには、１年次秋学期以降に所定の登録料を添えて手続きを行うこと。

	区　分	登録料
種類	教職課程	３５,０００円
	社会教育主事	３０,０００円
	学芸員	３０,０００円
	司書	３０,０００円
	司書教諭	３０,０００円
	日本語教員	３０,０００円
	社会教化者	登録料なし
	開教使(浄土)	１０,０００円
	各宗派僧階	登録料なし

登録時の注意事項

- 登録期間は、T-Po 掲示にて案内する
- 複数の資格登録により、単位未修得のため卒業時に資格を取得できない場合、大学はその責任を一切負わない
- 教職、諸資格に関する詳細は『資格要項』で必ず確認すること

証明書

証明書の取扱窓口

証明書の取扱窓口

区　分		単価	交付日数	取扱窓口	登録年次
在学証明書		200円	※	学生課	
在学証明書（英文）		500円	2		
期間在学証明書		200円	2		
期間在学証明書（英文）		500円	2		
学割(学校学生生徒運賃割引)		無料	※		研修・帰省等
健康診断証明書		200円	※	保健室	全学健診受診者のみ(郵送不可)
人物証明書		500円	3	就職課	進路登録カード提出者のみ(主に就職活動時)
人物推薦書		300円	3		
学業成績証明書		200円	※	教務部	
卒業・修了証明書		200円	3		
卒業・修了見込証明書		200円	※		
僧階単位証明書		200円	7		
教員免許	学力に関する証明書	200円	7		
	教員免許取得見込	200円	3		
学芸員	学芸員単位取得	200円	3		
	学芸員取得見込	200円	3		
	学芸員授与証明	200円	3		
社会教育	社会教育主事単位取得	200円	3		
	社会教育主事取得見込	200円	3		
	社会教育主事授与証明	200円	3		
司書	司書単位取得	200円	3		
	司書取得見込	200円	3		
	司書授与証明	200円	3		
学業成績証明書（英文）		1,000円	7		
卒業・修了証明書（英文）		500円	7		
卒業・修了見込証明書(英文)		500円	7		

証明書発行機

稼動時間:
月～金
9:00
～18:30
土
10:00
～16:00
※閉講期間などこの限りではない。

- ※印は、学生証を持参のうえ、証明書自動発行機にて即日発行可能。
- ※印以外は、証明書発行願を取扱窓口に提出してください。
  なお、年度始め、大学行事に伴い交付日数がかかる場合があります。(2～7日)
  余裕をもって申請してください。

QUESTION → ANSWER

履修登録について

Q：授業期間前に履修登録がありますが、授業を聞いてからの変更はできますか？	A：できます。ただし、履修登録科目を変更する場合は、指定された期間にT-Poで修正登録をしてください。
Q：登録科目名はあっているが、クラス表記が違うのですがどうすればいいですか？	A：修正登録期間内に該当クラスへ修正してください。
Q：通年科目の登録は春学期と秋学期にわけて登録するのですか？	A：春学期に登録をしてください。
Q：春学期に登録した通年科目を、秋学期に削除することはできますか？	A：できません。通年科目を履修登録するときは、履修計画にしたがって登録してください。
Q：集中講義の登録はどうすればいいですか？	A：T-Poにて登録時期を確認し、T-Poから登録をしてください。
Q：制限単位についてですが、通年科目の単位数は春学期に換算されるのですか？	A：制限単位として換算する場合は、春学期と秋学期にわけてカウントしてください。
Q：セメスターごとに定められている単位数以上登録したいのですが、可能ですか？	A：できません。
Q：必修科目と資格科目の時間が重なってしまいます。どちらを履修すればいいですか？	A：卒業を優先する場合は必修科目を先に履修してください。
Q：資格登録をしていませんが、資格科目を履修できますか？	A：履修できません。ただし、その科目が１年生から履修可能科目、所属学科の科目の場合は履修できます。
Q：登録した授業を削除したいのですが、どうすればいいですか？	A：指定された期間内にT-Poで削除してください。
Q：履修登録ができていなくても、先生に頼めば単位をもらえますか？	A：履修登録を行っていなければ、単位の認定はできません。履修登録は、指定期間内に行ってください。
Q：履修登録でエラーがでました。どうすればいいですか？	A：T-Poでの履修登録は、エラーの状態では終了できません。必ずエラーの原因を削除し、再チェックのうえ完了してください。
Q：科目を登録したのですが、授業内容が異なっていたため出席しないでそのままにしてしまいました。どうすればいいですか？	A：修正登録期間内に修正してください。修正しなかった場合は、GPAに反映されてしまい、進級基準に影響することがあります。修正登録期間外では受け付けません。
Q：資格特別プログラム（ＳＰ履修）の科目はどのように登録するのですか？	A：春学期にT-Poにて履修登録を行ってください。通年科目ですので、春学期に登録が必要です。秋学期に削除はできません。
Q：4年生ですが、もう卒業論文しかありません。何も登録しなくても大丈夫ですか？	A：登録は必要ありませんが、各学科で定期的な論文指導がありますので確認してください。なお、卒業に必要な科目・単位数が修得できているかを必ず学則別表（ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ資料）で確認してください。
Q：修正登録をしたのですが、授業で名前が呼ばれません。どうしたらいいですか？	A：科目の登録が出来ていない可能性があります。T-Poにて自分の時間割を確認してください。

QUESTION ANSWER

授業等について

Q：授業を休んでも大丈夫ですか？	A：単位認定を受けるには、毎回出席することが原則です。
Q：履修年次が「１年」とある科目は、必ず１年のうちに履修しなければいけませんか？	A：１年次に履修することが望ましい科目です。その科目の単位を取得していないことにより進級できないということはありません。しかし、先修制科目（順を追って履修しなければならない科目）に該当する場合は、該当科目が修得出来ていなければ、次の科目に進めません。
Q：就職活動で授業を休んだ場合、公欠になりますか？	A：公欠にはなりません。就職活動の場合は、CECで授業欠席証明書を発行しますので、その証明書を担当教員に提出してください。あくまでも欠席理由を証明するもので、その取扱いは担当教員の判断によります。
Q：電車が遅延により授業を欠席した（または遅れた）のですが、どうしたらいいですか？	A：各交通機関（駅）から遅延証明書を発行してもらってください。遅延証明書を受け取り、該当科目の担当教員に提出してください。なお、試験時の遅刻についても同様です。
Q：台風や体調不良のため授業やテストが受けられないとき、どうしたらいいですか？	A：交通機関の運休や自然災害等が発生した場合 代替日を設けます。案内はT-Poにて行いますので確認を忘れないように注意してください。 病気で欠席した場合 【授業】 医師の診断を受けて診断書を発行してもらい、担当教員に提出してください。その取扱いは担当教員の判断によります。 【試験】 必ず医師の診断を受けて診断書を発行してもらってください。 テスト終了後５日以内に診断書を持参して、教務課で追試験の手続きをとってください（口頭での申し出は客観的な判断ができませんので追試験を願い出ることはできません）。
Q：試験の週は、時間帯や教室は変更になりますか。	A：試験は通常の授業時間帯で実施されます。 教室に関しても原則として変更はありません。
Q：電話で休講情報を教えてもらえますか？	A：電話での問い合わせにはお答えしていません。T-Poで確認してください。
Q：レポートの課題提出先がわかりません。	A：教務課では、教員の住所を教えることはできません。事前に、授業の始めかもしくは終りに課題提出先を担当教員に確認してください。

FAQ

QUESTION　ANSWER

卒業について

Q：卒業論文を提出して、124単位以上修得していれば卒業できますか？

A：124単位以上修得済＝卒業とは限りません。第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目を規定どおり単位修得できているか、確認する必要があります。進級時、特に４年生の履修登録時には細心の注意が必要です。

Q：卒業論文・卒業研究は124単位の内にカウントされますか？

A：卒業論文・卒業研究の８単位は、124単位に含まれます。

Q：卒業論文・卒業研究を提出したら終わりですか？

A：卒業論文を提出した後、口述試問が実施されます。口述試問の期間は各学科により異なりますので、それぞれの学科で確認してください。

Q：第Ⅰ類科目の余剰単位は、第Ⅲ類科目に認定できますか？

A：第Ⅲ類科目として認定します。
ただし、卒業単位としては第Ⅲ類は30単位までの認定です。

Q：資格取得を目指して修得した単位は、資格をあきらめた後でも卒業単位として認定できますか？

A：第Ⅲ類科目として認定します。

成績通知表について

Q：卒業論文の欄が「Ｚ」になっているのですが、どのような評価ですか？

A：卒業論文を登録し、論文を提出しなかったことに対する評価です。１年間の指導後は半年ごとに評価がつきます。

Q：評価に関して疑問があるのですが、どうすればいいですか？

A：評価「D」または、評価「Z」のみ教務課窓口で疑問を受け付けます。ただし、指定の期間以外は受け付けしません。指定の期間については、ガイダンス資料に掲載してあります。

Q：成績通知表を紛失してしまいました。再発行してもらえますか？

A：再発行はしていません。修得した単位は、T-Poで確認ができます。

資格について

Q：資格登録はどこで行えばよいですか？

A：資格登録期間に１号館１階の証明書発行機で納金し、用紙を教務課に提出してください。

Q：教員免許をとりたいのですが、どうすればいいですか？

A：１年生は、秋学期実施の教職ガイダンスに出席してください。
２年生以上は、春学期実施の教職ガイダンスに出席してください。

Q：資格の科目が足りずに卒業となってしまいます。卒業後、科目等履修生として足りない科目の単位を修得して資格を取得することができますか？

A：科目等履修生として、資格に必要な単位が充足できれば、資格を取得することができます。

Q：資格登録期間中に登録を忘れてしまいました。どうしたらいいですか？

A：今学期は登録できません。次学期の登録期間に登録してください。

Q：資格の認定証や修了証はいつもらえますか？

A：卒業時に認定証・修了証を授与します。

Q：現在３年生なのですが、今からでも資格はとれますか？

A：資格登録は行えます。ただし、諸資格科目の履修は、２年次から４年次までの３年間でカリキュラムが組まれていますので、資格取得に必要な単位を卒業までに修得できるとは限りません。

その他

Q：先生が、大学にいつ来ているか教えてください。
どこにいるか教えてください。

A：教員の授業時間割は、T-Poにて確認することができます。
専任教員については、各学科で確認してください。非常勤教員は、基本的に授業がある曜日・時限のみ出校しています。

Q：授業で配られた大正大学書式の原稿用紙・レポート用紙は自由にもらうことができますか？

A：窓口等では配布していません。担当教員から受け取ってください。

Q：転学部・転学科・転コースを希望していますが、どうしたらいいですか？

A：欠員が生じている学科のみが実施します。転学部・転学科・転コース試験が実施されるかどうかは、11月（予定）にT-Poで確認してください。

大正大学履修規程
／試験規程（抜粋）
／学則（抜粋）

大正大学履修規程

（目的）
第１条　第１条　この規程は，大正大学学則（以下「学則」という。）のうち，履修等について必要な事項を定めることを目的とする。
（授業科目の履修）
第２条　授業科目は，入学年度の学則別表及びコースごとの履修方法を記載した大正大学履修要項に従い履修しなければならない。
２　編入学は，編入学した学年の規定を適用する。
（履修登録）
第３条　授業科目の単位を修得するためには，学期ごとに定める履修登録期間に履修を希望する科目を登録しなければならない。
２　正当な理由により，指定期間内に登録ができない場合は，あらかじめその理由を付して届け出なければならない。
３　大学は，必要に応じて授業科目ごとに定員を設け，抽選等による選抜を行うことがある。
（登録の制限）
第４条　次の各号の一に該当する授業科目は，登録することができない。
（１）既に単位を修得した授業科目
（２）同一時限に開講される授業科目
（３）同一学期内の同一授業科目
（４）配当履修年次以外の授業科目
（登録の修正）
第５条　登録した科目を修正しようとする場合は，学期ごとに定める期間に行わなければならない。
（登録の確定）
第６条　履修登録は，確認表の交付（電子的な申請の場合は，これを確認できる画面）をもって確定する。
（登録の取消）
第７条　大学は，履修登録者数が５名以下の授業科目について原則として休講とし，当該科目の履修登録を取消すものとする。ただし，次の各号の一に該当する場合は，この限りではない。
（１）外国語の上級科目及び先修制科目の後位科目
（２）第Ⅱ類科目のうち，卒業論文又は卒業研究等に必要不可欠な科目
（３）諸資格を取得するために必要な科目
（制限単位）
第８条　第８条　学則第23条第４項に基づく学期ごとに登録できる単位数は，セメスター制にあっては，第Ⅰ類科目，第Ⅱ類科目（卒業論文及び卒業研究を除く。）及び他学科第Ⅱ類科目を通算して24単位，クォーター制にあっては14単位かつ年間48単位を超えないものとする。
２　通年開講科目の単位数は，当該科目が開講される年度の学期に等分する。
３　集中講義の単位数は，当該科目が開講される学期に含むものとする。
４　夏期及び春期休業期間中に開講する科目の単位数は，当該休業の翌学期の単位数に含むものとする。
（成績評価の基準）
第９条　授業科目の成績評価は，学則第45条の評語に５種を加えた12種で行う。

評語	判定		基準
ＡＡ	合格	ＡＡ	極めて優秀な成績
Ａ＋	合格	Ａ	優秀な成績
Ａ			
Ａー			
Ｂ＋	合格	Ｂ	受講生の中では平均的な成績
Ｂ			
Ｂー			
Ｃ＋	合格	Ｃ	平均より劣るが，合格に値する成績
Ｃ			
Ｄ	不合格	Ｄ	合格に達しない
Ｚ	不合格	Ｚ	評価不能
Ｔ	合格	Ｔ	認定単位

２　学業平均値（以下「ＧＰＡ」という。）を算出するため，前項の評語に次のとおりポイントを付与する。

評語	ポイント
ＡＡ	4.0
Ａ＋	3.5
Ａ	3.0
Ａー	2.7
Ｂ＋	2.4
Ｂ	2.0
Ｂー	1.7
Ｃ＋	1.4
Ｃ	1.0
Ｄ	0.0
Ｚ	0.0

３　ＧＰＡは，履修登録した授業科目の単位数にポイントを乗じた数の総和を履修登録単位数の総和で除したのち小数点第３位以下を切り捨てて算出し，得られたＧＰＡの総合評価は，次のとおりとする。

ＧＰＡ	総合評価
3.5～4.0	最優秀
3.2～3.4	優
1.6～3.1	良
1.0～1.5	可

（科目群の指定を超えて修得した単位の取扱）
第10条　学則第38条第１項第１号の単位は，定める卒業要件を超えて修得した場合，同第4号の科目として認定することができる。
第10条の2　学則第38条第１項第3号の単位は，同第4号の単位とあわせ30単位を超えない範囲で，同第2号の単位に認定することができる。
第10条の3　学則第38条第１項第3号の単位は，前号の定めにより第2号の単位として認定された単位を除き，同第4号として認定することができる。
第10条の4　学則第38条第1項第4号の単位は，別表に示す定めを満たしたうえで，卒業に必要な単位として認定することができる。
（他の大学又は大学以外の教育施設等の単位の認定）
第11条　学則第39条の２及び第39条の３により認定する単位は，次のとおりとする。
（１）入学準備学習
（２）課外学習
（３）協定校の授業科目
（４）資格試験
（５）企業等での就業体験
（入学前の既修得単位等の認定）
第12条　学則第39条の４に基づく既修得単位の認定は，学校種及び修得科目を勘案して第Ⅰ類科目及び第Ⅱ類科目として包括的に行うものとし，その際の成績評価は，「Ｔ」とする。
（留年）
第13条　学則第23条第１項から第３項又は学則第58条に定める基準をそれぞれ満たすことができない場合は，留年とする。
２　第１学年から第３学年の間の同一学年の在学期間は，それぞれ２年（４学期）を限度とし，第１学年から第４学年を通算して８年（16学期）を超えることができない。ただし，編入学生は学則第22条第２項の修業年限のみ適用する。
（退学）
第14条　次の各号の一に該当する場合は，学則第50条第１項第２号により退学とする。
（１）前条第２項の期間が満了する者
（２）３学期連続してGPA1.0未満の者
（転学部等）
第15条　他の学部，学科又はコースへの転籍は，収容定員に欠員がある場合に限り，選考のうえ許可することがある。
２　選考を受けようとする者は，学長に願い出て許可を得なければならない。
３　前項の出願資格は，次のとおりとする。
（１）出願時に，第１学年又は第２学年に在学中の者
（２）他の学部，学科への転籍の場合は，既に進級基準を満たしている者あるいは満たす見込みの者で，出願時のＧＰＡが3.2以上の者
（３）同一学科内の他コースへの変更を希望する場合は，既に進級基準を満たしている者あるいは満たす見込みの者
（改廃）
第16条　この規程の改廃は，代議員会の議を経て，学長が行う。

大正大学試験規程

（目的）
第１条　この規程は，大正大学学則第43条による試験の取扱いについて定める。
（試験の種類）
第２条　試験の種類は，授業内試験，追試験及び再試験とする。
（授業内試験）
第３条　試験は，原則として学期ごとの授業期間内に各履修科目の授業内で行う。
２　前項の試験は，随時のレポート等に代えることができる。
（追試験）
第４条　追試験は，別表に定めるやむを得ない事由により授業内試験を受験できなかった者を対象として行う。
２　追試験は，卒業要件となる授業科目及び資格課程の科目について実施する。ただし，実験実習科目についてはこれを実施しない。
３　追試験受験希望者は，当該科目の試験終了後７日以内に追試験願（本学所定用紙）に別表に定める証明書等を添付のうえ，教務課に提出しなければならない。
４　追試験実施の可否は，当該科目の担当教員の意見を聴取した後，学部長が決定する。
（再試験）
第５条　再試験は，原則として最終学年に在学する者のうち，実験実習科目を除く卒業に必要な単位数が４単位以内不足かつ当該科目の成績評価がＤ評価に該当する者に対して実施することができる。
２　再試験実施の可否は，当該学生の所属する学科長の意見を聴取した後，当該学生の履修状況等を踏まえ，教学運営協議会の議を経て学長がこれを決定する。また，当該学科長は，必要に応じて当該科目の担当教員から意見を聴取するものとする。
３　その他，再試験の実施に関して必要な事項は，再試験の都度，教学運営協議会において定める。
第６条　前条第２項による再試験実施の決定を受けた者は，速やかに再試験願（本学所定用紙）を教務課に提出しなければならない。
第７条　再試験を合格した者の受験科目の成績評価は，「Ｃ」又は「Ｔ」とする。
（試験料）
第８条　追試験及び再試験を受験する者は，「諸資格課程料等に関する細則」に定める試験料を納入しなければならない。
（試験の方法）
第９条　試験は，筆記試験，レポート試験，実技試験，口述試験又は当該科目の担当教員が指示する方法によって行うものとする。
（試験時間）
第10条　授業内試験，追試験及び再試験の試験時間は原則として60分とする。ただし，必要に応じて試験時間を変更して行うことができる。なお，授業内試験においては，1時限の内に授業等学修活動と試験をあわせて執り行うものとする。
（受験資格の欠格事由）
第11条　次の各号の一に該当する者は，第２条の試験を受験することができない。
（１）試験が行われる学期において，当該科目の履修登録をしていない者
（２）試験開始後，20分を超えて遅刻した者
（３）学生証を携帯しない者
（４）学費を指定期間内に納入していない者
（５）休学中の者
（６）停学中の者
（受験者の義務）
第12条　受験者は，次の各号に定める事項を遵守しなければならない。
（１）追試験及び再試験に際しては，学生証を携帯し，机上に提示すること
（２）試験監督者の指示に従うこと
（３）答案に学籍番号，氏名等を記入すること
２　前項第1号の学生証は，学生課が発行する仮学生証をもって代えることができる。
（削除）

大正大学試験規程

（無効答案）
第13条　次の各号の一に該当する答案は，無効とする。
（１）受験者が特定できない場合
（２）試験終了後，第11条各号の一に該当することが明らかになった場合
（３）不正行為により解答を得たと認められる場合
（不正行為）
第14条　試験における不正行為は，次の各号の一に該当する行為をいう。
（！）当該試験において許可されている以外の方法で解答を得たとき
（２）他人の学生証又は本学の学生証以外で受験したとき
（３）当該授業の履修登録者以外が履修登録者と偽って受験したとき
（４）他人の答案又は成果物を複写もしくは盗用したとき
２　前項各号の行為の教唆又は協力も同様の行為と見なす。
（不正行為の確認）
第15条　試験監督又は担当教員が不正行為を認めたときは，速やかに教務部長に報告しなければならない。
２　教務部長は，直ちに当該学生が所属する学科の学生生活委員立会いのもと不正行為の事実確認を行うものとする。
３　教務部長は，前項により不正の事実を確認した場合，本人（前条第２項に該当する者がある場合は，これらの者を含む）に始末書を提出させるとともに学部長に報告しなければならない。
４　第１項の現認が試験場における試験の場合は，直ちに当該試験の受験を中止させ解答用紙を回収したうえで退場を命ずるものとする。
（不正行為を行った者の処分）
第16条　不正行為を行った者に対しては，当該学期の履修科目すべてをＺ評価としたうえで，その処分は大正大学学生懲戒規程によるものとする。
（改廃）
第17条　この規程の改廃は，代議員会の議を経て，学長が行う。

別表

事由	申請に必要な証明書等
本人の病気	医師の診断書等
忌引き（配偶者及び2親等以内の親族）	会葬礼状等
災害	被災証明書等
事故	事故証明書等
公共交通機関の遅延	20分を超える延着時間が記された証明書
その他やむを得ない理由	必要と認められる書類

大正大学学則（抜粋）

（修業年限）
第21条　学部の修業年限は，４年（８学期）とする。
（在学年限）
第22条　学生の在学年限は，８年（16学期）を超えることができない。
２　編入学生の在学年限は，４年（８学期）を超えることができない。
（進級）
第23条　入学後１年（２学期）以上在学し，20単位以上修得した者は，第２学年に進級する。
２　第２学年に１年（２学期）以上在学し，62単位以上修得した者は，第３学年に進級する。
３　第３学年に１年（２学期）以上在学し，90単位以上修得した者は，第４学年に進級する。
４　前項までの条件に併せて，各学年及びセメスター又はクォーターごとに，履修単位数の上限を別に定める。
（履修登録）
第41条　学生は，学期の始めに履修しようとする授業科目を登録するものとする。
（試験）
第43条　試験は，授業内等の試験と卒業論文試験又は卒業研究試験とする。
２　試験は，セメスター又はクォーターの終了時ごとに行う。
３　試験に合格した者には，所定の単位を与える。
（単位の認定）
第44条　単位認定の基準は，次のとおりとする。本学においては，１単位は標準45時間の学修を要する教育内容をもって構成するものとし，各授業方法ごとの１単位の授業時間数は，原則として次のとおりとする。
（１）講義及び演習については，15時間から30時間の授業をもって１単位とする。
（２）実験，実習及び実技については，30時間から45時間の授業をもって１単位とする。
（３）１つの授業科目について，講義，演習，実験，実習又は実技のうち２以上の方法の併用により行う場合については，その組み合わせに応じ，前２号に規定する基準を考慮して本学が定める時間数をもって１単位とする。
２　前項の規定にかかわらず，卒業論文，卒業研究については，学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合，これに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。
（退学）
第49条　学生が疾病又はその他の理由により退学しようとするときは，所定の様式により，その事由を証明する書類（疾病の場合は診断書）及び学生証を添付して，保証人と連署のうえ願い出なければならない。
２　学年の途中で退学する者は，当該納期分の学費等を納入しなければならない。
第50条　学生が次の各号の一に該当するときは，これを退学させる。
（１）性行不良で改善の見込みがないと認められる者
（２）学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
（３）正当の理由がなくて出席常でない者
（４）学校の秩序を乱し，その他学生として本分に反した者
２　前項第１号及び第４号による退学は，代議員会の議を経て学長が決定する。
３　前項第２号及び第３号による退学は，学長が決定する。
（除籍）
第51条　学生が次の各号の一に該当するときは，これを除籍する。
（１）定める期間内に学費を納入しない者
（２）学則第22条に定める期間に卒業できない者
（３）学則第46条第２号に定める休学期間を超えてもなお復学できない者
２　前項による除籍は，学長が決定する。
第52条　除籍となった者は，退学を願い出ることはできない。
（卒業）
第58条　本学に４年（８学期）以上在学し，所定の授業科目の124単位以上を履修した者には学士の学位を授与する。
２　卒業の時期は，学年の終わりとする。ただし，学年の途中においても，学期の区分に従い，学生を卒業させることができる。
（懲戒）
第61条　本学に在学する者で本学の学則及び規則に違反し，又は学生の本分にもとり，本学の名誉を毀損する行為ある者及び成業の見込みのない者は，代議員会の議を経て学長がこれを懲戒する。
第62条　懲戒は譴責，謹慎，停学及び退学とする。

あとがきに代えて

本学は大正15年に設立され、数々の分野で実績を残してきました。
新しい世紀を迎えましたが、本学設立の精神は、時代が移り変わってどんな社会状況となっても永久に不動のものと確信しています。
ここに初代学長の建学のことばの抜粋を揚げ、その意図するところを学生のみなさんとともに探究していきたいと思います。

建学のことばより

新たに生れ出た大正大学には宗教的敬虔の心持に、大乗仏教的精神を力強く発揮させねばならぬと考えます。教授・講師は申すまでもなく、学生も知識否、智慧の熱愛者であり、謙遜真摯の態度を以て真理を求めて已まざるものであってほしい。道徳と道理の前には極めて従順であると共に、悪と非理に対しては一歩も屈せざる勇気が溢れることを望みます。必ずしも神秘とは言わない不思議とは申しませんが、何となく聖く儼かな霊的な雰囲気が学内に漂って居って、来って此学園に学ぶ者を薫化し感孚するものがあればと存じます。近世世界の文明国を通して自我の覚醒を見んとするは貴ぶべきことでありますが、自己個人の小なる権利、それは仏祖が極力呵責し給いし、我欲我執を滔々として主張する風ある間に立ちて、あくまで利他を念として忘れないようにありたいと存じます。

率直に自己の過失罪悪を懺悔すると共に、本来具する仏性を開顕して、人格の完成に猛然と精進することを望んでおります。少なくとも善を賛美する優しい心と悪に近づかない猛き気を持ちたいと存じます。かかる願望を一歩一歩満足し行く所に本大学存在の意義が明らかにされるものと信じます。

大正15年11月５日　創立記念式典にて

初代学長　澤柳 政太郎

2019年度入学者用履修要項
2019年４月１日発行
編　　集：大正大学 教務課
制作協力：(有) 立花印刷